

平成 28 年度 九州栄養福祉大学・大学院 教員情報

【食物栄養学部 食物栄養学科】・【健康科学研究科 健康栄養学専攻】

喜 多 大 三 KITA Taizo 教授 (食物栄養学部長)

所 属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

担 当 科 目 [食物栄養学部 食物栄養学科]

化学、有機化学、薬理学、薬草学、管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ、
専門ゼミナールⅡ、卒業論文

[大学院 健康科学研究科]

薬理学特論Ⅰ・Ⅱ、健康科学特別講義、健康科学研究法特論講義

[東筑紫短期大学 食物栄養学科]

薬理学

[東筑紫短期大学 美容ファッションビジネス学科]

医薬品の基礎知識

専 門 分 野 薬理学、栄養薬理学

最 終 学 歴 長崎大学大学院薬学研究科 製薬化学専攻 (昭和 56 年 3 月 修士課程修了)

学 位 医学博士 奈良県立医科大学 乙第 530 号 (平成元年 7 月)

職 歴 大分医科大学附属病院 薬剤部 (昭和 56 年 4 月～昭和 57 年 6 月)

奈良県立医科大学 助手 (薬理学教室) (昭和 57 年 7 月～平成 13 年 9 月)

NJ 州立ラトガース大学 客員研究員 (神経毒性学)
(平成 5 年 11 月～平成 7 年 10 月)

第一薬科大学 助教授 (薬理学教室) (平成 13 年 10 月～平成 16 年 3 月)

国立精神・神経センター精神保健研究所客員研究員
(平成 16 年 6 月～平成 17 年 3 月)

岡山大学医学部・歯学部附属病院 薬剤部 (平成 17 年 4 月～平成 18 年 3 月)

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 教授
(平成 18 年 4 月～現在に至る)

九州栄養福祉大学大学院 食物栄養学研究科 教授(平成 18 年 4 月～平成 24 年 3 月)

九州栄養福祉大学 学生部長 (平成 22 年 4 月～平成 26 年 3 月)

東筑紫短期大学 学生部長兼任 (平成 23 年 4 月～平成 26 年 3 月)

九州栄養福祉大学大学院 健康科学研究科 教授 (平成 24 年 4 月～現在に至る)

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 学部長 (平成 26 年 4 月～現在に至る)

東筑紫学園理事 (平成 28 年 4 月～現在に至る)

- 教育上の業績
- 学部長として、建学の精神である「筑紫の心」にそった人格教育を根本に据え、その上で管理栄養士に必要な専門教育を施し、この二つの教育をしっかりと噛み合わせる学びを啓発し、「食を通して福祉を実現する管理栄養士」の養成に努めている (平成 26 年 4 月～現在まで)。
 - 学生部長として“建学の精神”の学生・教職員への深化を図るため、学内行事への積極的な参加を奨励している。また、学内オリエンテーション等において、“お掃除門”(学長著)をテキストとして講義をおこなうことにより、本学の教育理念の基本である“筑紫の心”の啓発に努めた (平成 22 年 4 月～平成 26

年3月まで)。

- 大学院指導教員として大学院講義並びに修士論文に関する研究を担当し、修士論文作成および学会でのプレゼンテーションなどの指導を通じて、大学院生の創造豊かな研究・開発能力と高度の専門的な職業を担う基礎的能力の向上に取り組んでいる(平成18年4月～現在まで)。
- 「専門ゼミナール」の薬理学の専門ゼミナール授業において、ゼミ学生を対象として専門英語論文の抄録を基本に専門英語の読解と内容理解力の養成、卒業研究の指導、論文作成およびプレゼンテーションの方法を指導し、学部学生の学士力の向上に専心している(平成18年4月～現在まで)。
- 「薬理学」および「管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ」における「薬と疾病」の講義を担当し、学部学生の学士力および臨床現場における実践力の向上に励んでいる(平成18年4月～現在まで)。
- NSTなどのチーム医療の重要性が高まる状況において、薬物治療や医薬品の知識が重要になってきている。管理栄養士課程に学ぶ学生向けに、「栄養薬理学」の成書を近隣の管理栄養士養成校の先生方と共著し、建帛社から出版した(平成28年4月)。

研究上の業績

(1) 食品摂取による自律神経バランスの計測とその食品機能評価の基礎研究

本研究は、後藤幸生氏(福井医大名誉教授)らが開発した「自律神経機能のレーダーチャート式バランス評価法」(自律神経, 35巻4号 410-418頁, 1998)を用いて、実際の食品摂取後の自律神経バランス測定および唾液によるストレスマーカーによる抗ストレス効果の測定を行い、データを集積し解析することにより食品のもつ「機能性」と「抗ストレス性」の機能評価の一助にならんことを目標としている。①大豆や緑茶等の食品摂取後の自律神経(交感神経/副交感神経)バランスへの影響を検討する、②大豆や緑茶等の食品摂取30分前後の唾液を採取し、ストレス指標であるコルチゾール、アミラーゼおよびクロモグラニンAを測定し、自律神経バランスのパターンと比較検討する、③大豆や緑茶食品等に含有される機能性成分による *in vitro* 及び *in vivo* 投与におけるカテコールアミン動態への影響について検討を加え、食品機能評価の基盤研究を行う(本研究は、産業医科大学薬理学講座の柳原延章教授との共同研究であり、平成26～28年度科学研究費助成を受けている)。

1. (原著論文) 喜多大三、柳原延章、佐藤教昭、後藤幸生(2015) 健常成人における緑茶の旨味成分テアニンの自律神経バランスへの影響(第2報)ー計算負荷による自律神経バランスに関する予備的研究ー. 九州栄養福祉大学研究紀要 12、145-155.
2. (原著論文) 喜多大三、柳原延章、佐藤教昭、後藤幸生(2014) 健常成人における緑茶の旨味成分テアニンの自律神経バランスへの影響. 九州栄養福祉大学研究紀要 11、155-166.

(2) 食材および食品に含まれる化学物質の薬理・生理活性とその機能に関する研究

1. (総説) Protective effects of phytochemical antioxidants against neurotoxin-induced degeneration of dopaminergic neurons. Taizo Kita, Masato Asanuma, Ikuko Miyazaki and Mika Takeshima. *J Pharmacological Sci* 124, 313-319 (2014). 日本薬理学会の欧文機関誌 *J Pharmacological Sci* からの Invited review article.
近年、スルファラファン、カテキン、バイカレインなどのフィトケミカル類は、メタンフェタミン、L-dopa および 6-OHDA などによるドパミン神経毒性に対して神経保護作用を発現することが報告されている。これらフィトケミカル類の神経保護作用について概説した review である (岡山大学大学院神経情報学 浅沼幹人准教授らとの共同執筆)。
2. (原著論文) 青柳東彦、平野 輝、畠山智充、安東勢津子、喜多大三、浅沼幹人 (2010) 食材および食品に含まれる化学物質の生理活性とその機能についてー鎖状および樹枝状カチオン性ペプチドのリン脂質膜との相互作用および抗菌活性. 九州栄養福祉大学研究紀要 7、1-11.
3. (原著論文) 喜多大三、青柳東彦、浦添夏帆、浅沼幹人、宮崎育子、安東勢津子 (2010) 食材および食品に含まれる化学物質の生理活性とその機能についてーアセチル-L-カルニチンの培養ドパミン神経およびグリア細胞系への作用-. 九州栄養福祉大学研究紀要 7、13-27.
4. (原著論文) 青柳東彦、塚本有未代、古野千穂、安東勢津子、松原公紀、宮崎育子、浅沼幹人、喜多大三 (2009) 食材および食品に含まれる化学物質の生理活性とその機能についてー蛍光基質を用いた数種可食性キノコ中のアンジオテンシン変換酵素阻害物質の検索. 九州栄養福祉大学研究紀要 7、1-11.
5. (原著論文) 浦添夏帆、村田麻衣子、青柳東彦、安東勢津子、宮崎育子、浅沼幹人、喜多大三 (2009) 食材および食品に含まれる化学物質の生理活性とその機能についてードパミン神経培養系におけるフィチン酸の作用-. 九州栄養福祉大学研究紀要 6、75-86.

(3) 緑茶の旨味成分テアニン (L-theanine) のアストログリア細胞系における細胞保護効果に関する研究

1. (原著論文) Takeshima M, Miyazaki I, Murakami M, Kita T, Asanuma M (2016) L-theanine protects against excess dopamine-induced neurotoxicity in the presence of astrocytes. *Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition*, in press.
2. (原著論文) 喜多大三、浅沼幹人、宮崎育子、竹島美香 (2013) お茶の旨味成分テアニンの培養アストログリア細胞における細胞保護効果. 九州栄養福祉大学研究紀要 10、179-191.
3. (原著論文) 喜多大三、浅沼幹人、宮崎育子、竹島美香 (2012) テアニンの中枢作用に関する文献的考察. 九州栄養福祉大学研究紀要 9、45-58.

4. (原著論文) 喜多大三、浅沼幹人、宮崎育子、竹島美香(2011) L-テアニンのグリア細胞に対する保護作用に関する研究—アストロサイトにおける L-テアニンによる抗酸化保護作用の賦活—九州栄養福祉大学研究紀要 8、43-53.

(4) 培養ドパミン神経細胞における L-dopa 添加によるドパミンキノン毒性発現に対するバйкаレインの細胞保護作用について

1. (原著論文) Mika Takeshima, Mariko Murata, Natsuho Urasoe, Shinki Murakami, Ikuo Miyazaki, Masato Asanuma, Taizo Kita, Protective effects of baicalein against excess L-DOPA-induced dopamine quinone neurotoxicity. *Neurological Research* 33, 1050-1056, 2011.
2. (原著論文) 竹島美香、染谷 恵、村田麻衣子、喜多大三(2008) フラボノイド化合物の培養ドパミン細胞への作用-バйкаレインのドパミン神経毒性に及ぼす保護効果-(2008)九州栄養福祉大学研究紀要 5、41-53.

(3) メタンフェタミン神経毒性発現機構に関する研究

1. (著書) Kita T, Miyazaki I, Asanuma M, Takeshima M and Wagner GC (2009) Dopamine-induced behavioral changes and oxidative stress in methamphetamine-induced neurotoxicity. *In* New concepts of psychostimulant-induced neurotoxicity, a volume of *International review of neurology* 88, 43-64, Academic Press.

神経生物学の国際レビュー誌 (edited by Hari Shankar Sharma) よりの依頼レビュー。本レビューは、最近のメタンフェタミンによる神経毒性発現機構研究の新展開についてまとめた内容であり、ヒトにおける神経毒性(Wagner 担当)、神経毒性機構におけるドパミンキノンの関与(浅沼担当)および行動毒性と神経毒性発現との関係(喜多担当)含めて紹介している。特に、メタンフェタミンによる神経毒性機構におけるサイトカイン類、毒性起因物質、細胞体封入体由来タンパク質などの関与、グリア細胞などの関与、アポトーシスの発現および神経毒性発現による異常行動である自傷行動について、各種諸因子との関係を概説している

(NJ 州立大学ラトガース Prof.Wagner, GC、岡山大学大学院神経情報学 浅沼幹人准教授との共同執筆)。

2. (原著論文) Miyazaki I, Asanuma M, Kikkawa Y, Takeshima M, Murakami S, Miyoshi K, Sogawa N, Kita T (2011) Astrocyte-derived metallothionein protects dopaminergic neurons from dopamine quinone toxicity. *Glia*. 59: 435-51.
3. (原著論文) Hozumi H, Asanuma M, Miyazaki I, Fukuoka S, Kikkawa Y, Kimoto N, Kitamura Y, Sendo T, Kita T, Gomita Y (2008) Protective effects of interferon-gamma against methamphetamine-induced neurotoxicity. *Toxicol Lett*. 177: 123-9.

4. (原著論文)Mori T, Ito S, Kita T, Narita M, Suzuki T, Matsubayashi K, Sawaguchi T (2007) Oxidative stress in methamphetamine-induced self-injurious behavior in mice. Behav Pharmacol. 18: 239-249.
5. (原著論文)Mori T, Ito S, Kita T, Narit, M, Suzuki T, Sawaguchi T (2006) Effects of mu-, delta- and kappa-opioid receptor agonists on methamphetamine-induced self-injurious behavior in mice. Eur J Pharmacol. 17; 532: 81-7.

主な社会活動 (1)北九州市民カレッジ講師「緑茶パワーで健康生活」(研修会)

主催 北九州市教育委員会

(平成 28 年 1 月)

(概要)

北九州市民カレッジ講座では、緑茶の歴史、効能、入れ方などについて講義をおこなった。主な講義内容は、中国、日本への緑茶の歴史とその変遷、緑茶成分であるカテキンやテアニンの近々の研究報告などを概説した。また、参加者の皆様に、玉露、煎茶、碾茶などの入れ方の講習と試飲およびゼミ学生が作った抹茶ケーキなどの試食をしてもらい、緑茶の深みのある美味しさを実感していただいた。

(2)地域健康フェアへのボランティア活動への参加 (平成 19 年 10 月～現在)

(概要)

医療法人共愛会戸畑リハビリテーション病院で開催させる地域の住民や患者様を対象とした健康フェアに、ゼミ学生や大学院生と共に参加している。この健康フェアでは、健康増進のための身体、血圧、骨強度、脳年齢などの各測定が実施されており、参加学生は同フェアに参加された方々に対して、各測定ブースでのお手伝いや健康維持のための食事内容の説明などのボランティア活動をおこなっている。

所 属 学 会	日本薬学会会員	(昭和 56 年 4 月～現在に至る)
	日本薬理学会会員	(昭和 57 年 4 月～現在に至る)
	日本神経精神薬理学会会員	(昭和 57 年 4 月～現在に至る)
	米国神経科学学会会員	(平成 6 年 5 月～現在に至る)
	日本薬理学会評議員	(平成 9 年 4 月～現在に至る)
	日本神経精神薬理学会評議員	(平成 13 年 1 月～現在に至る)
	日本栄養改善学会会員	(平成 19 年 4 月～現在に至る)
	日本経腸静脈栄養学会	(平成 27 年 4 月～現在に至る)
	日本病態栄養学会	(平成 27 年 4 月～現在に至る)
	日本健康・栄養システム学会	(平成 28 年 4 月～現在に至る)

木 守 正 幸 KIMORI Masayuki 教授

所 属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

担 当 科 目 [食物栄養学部 食物栄養学科]

教育原理、教育職の研究、教育制度論、教育課程論、教育方法論、
道徳教育の理論と方法、特別活動の理論と方法、生徒指導の理論と方法、
教職実践演習（栄養教諭）

[東筑紫短期大学 食物栄養学科]

教育課程論、教育方法論、生徒指導の理論と方法

専 門 分 野 教育方法、教師教育

最 終 学 歴 京都教育大学大学院 教育学研究科 学校教育専攻

学 位 修士（教育学）

職 歴 宇治市立菟道小学校 校長 (平成 18 年 4 月～平成 22 年 3 月)

京都文教短期大学 非常勤講師 (平成 22 年 4 月～平成 25 年 3 月)

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 教授
(平成 25 年 4 月～現在に至る)

九州栄養福祉大学 学生部長 (平成 26 年 4 月～現在に至る)

東筑紫短期大学 学生部長 (平成 28 年 4 月～現在に至る)

主な研究活動 【論文】

- 「教育鑑識眼による教育評価の検討－E.W.アイズナーに焦点を当てて－」単著
平成 24 年 1 月京都教育大学大学院（修士論文） pp.1-56
（概要）

本研究は、E.W.アイズナーがディシプリン中心主義を乗り越えて鑑識眼提起に至ったのかそれとも両者は共存し合うものかを明らかにし、教育鑑識眼による評価が教育評価の中にどのように位置付くものかを考察したものである。その結果、アイズナーはディシプリン中心の美術教育への傾倒に代表されるように目標との関連で評価する重要さを認めその立場を保持しつつ、その限界も見出してそれを補強するものとして教育鑑識眼概念を提案し、併せて総合的な評価法も目指していたことを見出すことができた。

【論文】

- 「小学校における総合算数科の試案」単著
平成 24 年 3 月京都文教大学（臨床心理学部紀要『心理社会的支援研究』
第 2 集、pp.47-53

（概要）

数学の入門期に於いては人間を取り巻く生活や自然との関係性を強め数学に対する興味を高めることは学校教育のみならず、生涯学習の視点に立っても有益に働くことが期待できる。この試案は、数学の良さや有用さを学習者の心に呼び戻し、人間の歴史や自然や生活の中での数学の役割に目を向けさせることを意図している。その内容は、数学の概念や知識を深化させる内容、数学が自然を読み解くために使用されている内容等から構成されている。

【論文】

- 「教育政策の実施過程に関する一考察」単著
平成 25 年 12 月 九州栄養福祉大学（九州栄養福祉大学研究紀要第 10 号）、
pp.229-238

(概要)

本研究は、教育政策の実施過程における教育政策形成・実施の各段階を繋ぐ結節点に注目し、その接続状況の様態に焦点を当てて考察したものである。中でも中央政府と実施機関の間に地方政府が介在する場合とそうでない場合とで、中央政府による教育政策の伝達の様態に特徴や差異があるのかどうか、地方政府の介在の有無は、教育政策具体化のための情報の質と量に影響を及ぼすのか、また、実施機関がその組織の特徴や環境を生かした独自の教育政策実施計画を策定するに当たって、如何なる機会に如何なる方法により必要な情報を収集していったかを明らかにしたものである。

【学会発表】

- 「教育鑑識眼による教育評価の検討」－E.W.アイズナーに焦点を当てて－単著
平成 23 年 11 月教育目標・評価学会（奈良大会）
〈主催〉 目標・評価学会
〈開催場所〉 奈良教育大学
〈開催年月日〉 平成 23 年 11 月 20 日

(概要)

E.W.アイズナーはディシプリン中心の美術教育への傾倒に代表されるように目標との関連で評価する重要性を認めその立場を保持しつつ、その限界も見出しそれを補強するものとして教育鑑識眼概念を提案し併せて総合的な評価法も目指していたことが鑑識眼概念の萌芽期の研究過程を辿る中で見出すことができた。

主な社会活動 ・福岡県立小倉西高等学校 学校関係者評価委員会委員

(平成 26 年 5 月～平成 27 年 3 月)

所 属 学 会 目標・評価学会

(平成 22 年 6 月～現在に至る)

日本教師教育学会

(平成 25 年 6 月～現在に至る)

大澤 得二 OSAWA Tokuji 教授 (食物栄養学部 食物栄養学科長) (大学院 健康科学研究科長)

所属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

担当科目 [食物栄養学部 食物栄養学科]

解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、解剖生理学実習、解剖生理学実験、
食健康センター活動(演習)、専門ゼミナールⅡ、卒業論文、
管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ

[大学院 健康科学研究科]

健康科学研究法特論演習、解剖生理学特論Ⅰ、

専門分野 解剖学、組織学、動物発生学

最終学歴 東京教育大学 理学部 生物学科動物学専攻

学位 歯学博士(岩手医科大学歯学部)、
博士(理学)(東北大学理学部)

職歴 岩手医科大学 歯学部 助手(口腔解剖学第一講座)(昭和51年4月～昭和58年3月)
岩手医科大学 医学部研究助手兼任(解剖学第二講座)

(昭和58年4月～平成4年3月)

岩手医科大学 歯学部嘱託講師 (平成4年4月～平成12年3月)

岩手医科大学 歯学部講師 (平成12年4月～平成21年3月)

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 教授 (平成22年4月～現在に至る)

九州栄養福祉大学大学院 健康科学研究科 教授 (平成24年4月～現在に至る)

九州栄養福祉大学大学院 健康科学研究科長 (平成25年4月1日～現在に至る)

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科長

(平成26年4月1日～現在に至る)

教育上の業績 ・PBLチュートリアル教育の実践

少人数グループによる討論形式の問題解決型授業において実績をあげた。

(平成15年～平成21年)

・岩手医科大学におけるOSCE委員 (平成17年～平成21年)

・岩手医科大学におけるCBT委員

OSCEの運営、およびCBTに対応した問題作成と授業に実績を残した。

(平成17年～平成21年)

・東京教学社より管理栄養士養成過程向けの教科書「イラスト解剖生理学(共著)」
を出版した。 (平成24年)

主な研究活動 【学術論文等】

大澤得二、松元千恵美

「食材を用いた解剖生理学実験教育 —マアジ、ホタテガイ、クルマエビを用いて—」

九州栄養福祉大学研究紀要 7:65-79(2010)

大澤得二、石田欣二、遠山稿二郎

「電頭トモグラフィーによる結合組織線維の3D観察」

医学生物学電子顕微鏡技術雑誌 25(1)20-22(2011)

Tokuji Osawa

Development of the lens capsule in *Rana temporaria ornativentris*.

九州栄養福祉大学研究紀要 8:55-68(2011)

大澤得二

「解剖生理学教育に相応しい実習用顕微鏡を考える —日本の実習用顕微鏡の歴史—」

九州栄養福祉大学研究紀要 8:69-88(2011)

大澤得二、松浦絵里、小笠原勝利、花坂智人、石田欣二、遠山稿二郎、末松貴史、和泉伸一

「アフリカツメガエル変態時における視神経の形態変化 —髄鞘の崩壊と軸索の変形過程—」

医学生物学電子顕微鏡技術雑誌 26(2) 49-52 (2012)

大澤得二、松浦絵里、小笠原勝利、花坂智人、石田欣二、遠山稿二郎、末松貴史、和泉伸一

「*Xenopus* 変態過程における視神経有髄神経線維の髄鞘の崩壊過程」

九州栄養福祉大学研究紀要 9:59-65(2012)

大澤得二

「アフリカツメガエルの写真発生段階表」

九州栄養福祉大学研究紀要 9:67-78(2012)

大澤得二

「Lamina lucida を欠くラット口唇皮膚の毛根の基底膜 —特に脱毛後の変化について—」

九州栄養福祉大学研究紀要 10:199-206(2013)

大澤得二

「キンコ (*Cucumaris frondosa*) に見られた多様な基底膜」

九州栄養福祉大学研究紀要 10:207-215(2013)

大澤得二、室井由起子、宮崎明日香

「マボヤを用いた解剖生理学実習」

九州栄養福祉大学研究紀要 11:167-173(2014)

大澤得二

「キンコ (*Cucumaria frondosa*) の種々の組織の基底膜に見られた骨格構造 —
Yurchenco らのモデルは実在するか」

九州栄養福祉大学研究紀要 12:163-167(2015)

Masaki Tamori, Kinji Ishida, Katsutoshi Ogasawara, Tomohito
Hanasaka, Yasuhito Takehana, Tatu Motokawa, Tokuji Osawa

Ultrastructural changes associated with reversible stiffening in catch
connective tissue of sea cucumber.

PLOS ONE (2016)(in press)

【学会発表】

大澤得二、小野寺政雄、野坂洋一郎

「体壁の結合組織の比較解剖学的研究」

第111回日本解剖学会全国学術集会 2006.3.29 相模原 (北里大学)

大澤得二、野坂洋一郎

「体壁の結合組織の比較解剖学的研究」

第38回日本結合組織学会学術大会 2006.5.11 前橋 (群馬大学)

大澤得二

「体壁の結合組織から考えるボディープラン」

平成18年度日本動物学会東北支部大会 2006.8.5 山形 (山形大学)

大澤得二 「体壁の結合組織の比較解剖」

解剖・組織技術研究会 第4回研修会 2006.11.11 盛岡 (岩手医大)

大澤得二、野坂洋一郎

「口腔粘膜上皮の再生」

岩手医科大学先進歯科治療センター平成18年度ハイテク・リサーチ・プロ
ジェクト研究成果発表会 2006.11.25 盛岡 (岩手医大)

大澤得二、小野寺政雄、野坂洋一郎

「電顕トモグラフィーによる基底膜の骨格構造」

第112回日本解剖学会全国学術集会 2007.3.29 大阪 (大阪大学)

大澤得二、野坂洋一郎

「電顕トモグラフィーによる基底膜の骨格構造」

第39回日本結合組織学会学術大会 第54回マトリックス研究会大会
2007.5.10 東京 (慶応大学)

大澤得二

「基底膜の基本構造—電顕トモグラフィーによる解明」

平成 19 年度日本動物学会東北支部大会 2007.7.28 秋田 (秋田大学)

大澤得二、野坂洋一郎

「口腔粘膜上皮の再生」

岩手医科大学先進歯科治療センター平成 19 年度ハイテク・リサーチ・プロジェクト研究成果発表会 2007.8.4 盛岡 (岩手医大)

大澤得二、小野寺政雄、野坂洋一郎

「代数的反復法 (SIR) による透過型電子顕微鏡用切片の Z 軸方向の情報解析」

日本解剖学会第 113 回全国学術集会 2008.3.29 大分 (大分大学)

大澤得二、野坂洋一郎

「上皮再生の足場となる基底膜の内部構造の 3D 観察」

—代数的反復法 (SIR) による Z 軸方向の情報解析—

平成 20 年度ハイテク・リサーチ・プロジェクト研究成果発表会 2008.10.4
盛岡 (岩手医科大学)

大澤得二、小野寺政雄、藤村 朗、野坂洋一郎

「電顕トモグラフィーによるアンカリング・ファイブリルの 3D 像」

第 114 回日本解剖学会全国学術集会 2009.3.28 岡山 (岡山大学)

大澤得二、小野寺政雄、藤村 朗、野坂洋一郎

「電顕トモグラフィーによるアンカリング・ファイブリルの 3D 像」

岩手医科大学歯学会第 68 回例会 2009.7.4 盛岡 (岩手医科大学)

大澤得二、武田泰典、水城春美

「唾液腺と口腔粘膜の加齢、および粘膜再生」

平成 21 年度ハイテク・リサーチ・プロジェクト研究成果発表会 2009.8.1
盛岡 (岩手医科大学)

大澤得二、野坂洋一郎

「口腔粘膜の再生の足場となる構造」

平成 21 年度ハイテク・リサーチ・プロジェクト研究成果発表会 2009.8.1
盛岡 (岩手医科大学)

大澤得二、小野寺政雄、藤村 朗、野坂洋一郎

「走査電顕と電顕トモグラフィーによる 3D 観察の比較」

日本解剖学会第 55 回東北・北海道連合支部学術集会 2009.9.27 仙台 (東北大学)

大澤得二

「ナマコ体壁の中空コラーゲン繊維」

日本動物学会第 82 回大会 2011.9.22 旭川（北海道大学）

大澤得二、松浦絵里、小笠原勝利、花坂智人、石田欣二、遠山稿二郎、
末松貴史、和泉伸一

「アフリカツメガエル変態時における視神経の形態変化 —髄鞘の崩壊と軸索
の変形過程—」

医学生物学電子顕微鏡技術学会第 28 回学術講演会及び総会

2012.5.13 盛岡（岩手医科大学）

大澤得二

「アフリカツメガエル変態時における視神経の形態変化」

日本動物学会第 83 回大会 2012.9.15 大阪（大阪大学）

大澤得二、松浦絵里、小笠原勝利、石田欣二、遠山稿二郎

「二種類のナマコ、キンコ（Cucumaria）とマナマコ（Stichopus）の体壁のコ
ラーゲン繊維」

医学生物学電子顕微鏡技術学会第 29 回学術講演会および総会

2013.6.9 横須賀（神奈川歯科大学）

大澤得二

「マナマコ（Stichopus）の体壁のコラーゲン繊維：キンコ（Cucumaria）との
比較」

日本動物学会第 84 回大会 2013.9.26 岡山（岡山大学）

大澤得二

「イオン液体を用いたゾウリムシの SEM 観察」

日本動物学会第 85 回大会 2014.9.11 仙台（東北大学）

- 主な社会活動
- ・岩手医科大学歯学雑誌のエディトリアル・ボードを務めた。
(平成 16 年 4 月～平成 20 年 3 月)
 - ・日本動物学会東北支部大会の大会長を務めた。
(平成 20 年 7 月)
 - ・研究者交流の場となる研究会の立ち上げと運営（平成 2 年 5 月～現在に至る）
盛岡市において「もりおか生物科学の集い」を数人のグループで立ち上げ、研究
者の交流の場とした。講演会は 101 回を数えている。この会は各大学に分散して
いる研究者が互いに情報交換をする場となり、また一般市民からも関心を持た
れ、期待される会である。

・理科教育ボランティア

盛岡市子ども科学館におけるボランティア天文観察指導員を行った。また大型店に付属した理科クラブにおいて、微生物の顕微鏡観察指導を行った。日本動物学会東北支部会の市民講座では、主催者として自然観察会を企画運営してきた。北九州市立自然史・歴史博物館「いのちのたび博物館」における児童向けの講座（「サメの解剖」「イカの解剖」など）において解剖の指導を行っている。また、北九州市内の自然観察グループ「G&B（ジオ・アンド・バイオ）」の会員となり、市民向けの自然観察活動を行っている。

所 属 学 会 日本解剖学会
日本動物学会
医学生物学電子顕微鏡技術学会
日本発生生物学会
日本理科教育学会
日本生物教育学会
日本栄養学教育学会

栗山 敦治 KURIYAMA Atsuji 教授

所属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科
担当科目 細菌性食中毒学、疾病の成り立ちと病態、栄養福祉論、臨床栄養学 I
管理栄養士演習 I・II
専門分野 日本消化器内視鏡学認定医、消化器集団検診認定医、麻酔科標榜医
細菌性食中毒学
最終学歴 長崎大学 医学部
学位 博士（医学）
職歴 栗山胃腸科医院 院長 (昭和 49 年 7 月～平成 19 年 5 月)
九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 客員教授
(平成 13 年 4 月～平成 20 年 3 月)
九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 教授
(平成 20 年 4 月～現在に至る)

教育上の業績 【著書】

- 「栄養士・管理栄養士のための細菌性食中毒読本」(2008 年)
担当課目「細菌性食中毒学」の教科書として執筆したものであり、食中毒について栄養士・管理栄養士として必要最低限知っておくべき事項を簡潔にわかりやすく概説した入門書である。

主な研究活動 ○「胃酸分泌抑制薬と細菌性食中毒－PPI 食中毒症候群」
(論文、「モダンフィジシャン、Vol.22、No.11、2002.」)
細菌性食中毒症における胃酸及び胃酸分泌抑制薬の特性と役割についてこれまでの臨床例から検証し、食中毒に罹りやすい PPI や H₂ ブロッカー服用者を PPI 食中毒症候群と命名することを提唱。

- 「女子学生の貧血と貧血を来す疾患の検討」研究報告
女子学生 137 名の血清鉄と血清フェリチンのみから貧血を検討し、血清鉄・血清フェリチンともに低値を示した例を第 1 群 (貧血型)、血清鉄のみ低値を示した例を第 2 群 (血清鉄貧血型)、血清フェリチンのみ低値を示した例を第 3 群 (潜在貧血型)、血清鉄・フェリチンともに基準値を示した例を第 4 群 (正常型) とした。第 1 群 22 名 (16.1%)、第 2 群 8 名 (5.8%)、第 3 群 23 名 (16.8%) であり、女子学生の 38.7% が貧血および潜在的貧血状態にあった。アンケートでは食品摂取と貧血との関連は見出しえなかった。さらに、月経形態の調査から月経不順とする例はなかったので、第 1 群 7 名 (運動部員 2 名を含む)、第 2 群 8 名に面談し食品摂取、月経時の症状を聴取した。月経時において耳鳴り、めまい、立ちくらみ、動悸、頭痛などの症状の訴えがあり、2 名の運動部員に強い偏食が認められた。

本稿では若い女性が貧血を来す疾患について検討した。

(栗山敦治：日本医事新報 No4575：84～87, 2011.)

○「文明国に特有な食中毒—腸管出血性大腸菌食中毒の素描」研究報告

細菌性食中毒の原因は食材の汚染であり、汚染を前提に調理する必要がある。食中毒を予防するためには、加熱できる料理を選び、調理したものは早く食べることで、保存は厳重にすることである。食中毒が発生した場合は原因食材からの原因菌の検出は非常に困難であり、その間に汚染は拡大するので、ただちに疫学調査を実施し、状況証拠があればリコール、営業停止などの行政処置を行い感染の拡大を防ぐべきである。

(栗山敦治：モダンフィジシャン Vol.32:1539-1542, 2012.)

○「S. enteritidis の素顔～鶏卵・鉄分・鉄結合タンパクとの関連～」研究報告

1936年5月、浜松第一中学校運動会後に配られた大福餅による、当時世界最大の食中毒が発生した。原因菌は S. enteritidis であった。生徒・家族を中心に患者数約 2,200 人、死者は生徒 29 名、家族 15 名であった。近年、S. enteritidis の鶏卵汚染が世界的に広がったことから、S. enteritidis が原因の食中毒が広がり、小菌数でも感染するようになった。

細菌の発育には鉄が必須の物質で、生体は細菌から鉄を奪われないメカニズムを持っている。母乳で育てられた乳児が牛乳で育てられた乳児より疾病に感染しにくいのは、ラクトフェリンという鉄と強く結合する鉄結合タンパクが多いためである。マサイ族に鉄剤を与えたところ 88%の人がアメーバに罹患したという。ある種の疾病には鉄分の低下が感染防御となり生体にとって都合のよいこともある。

面白いことに、生卵の卵白は鉄分をまったく含まないことで細菌の侵入を防いでいる。初期の医学での瀉血が無知の象徴のようにいわれているが、ある種の感染症に効果があったことは間違いないと思われる。感染に対して生体は貧血という生体防御で対応している。一般診療で遭遇する貧血に対して、感染防御の現われであることを思い出してほしい。

(栗山敦治：モダンフィジシャン Vol.33:267-270, 2013.)

○「若い女子学生の CKD の検討～尿タンパク・eGFR・摂取食塩量～」研究報告

女子学生 150 名の尿タンパク・クレアチニン・eGFR および 1 日食塩摂取量について検討した。血清クレアチニン値は平均 $0.60 \pm 0.08 \text{mg/dl}$ であった。eGFR は $111.40 \pm 17.16 \text{ml/分/1.73 m}^2$ であった。eGFR が 89ml/分/1.73 m^2 以下の学生は 11 名で、72 から 88ml/分/1.73 m^2 に分布し、 60ml/分/1.73 m^2 以下はいなかった。この 11 名の中には尿異常者はいなかった。尿タンパク (±) は 4 名、(+) は 3 名で eGFR は全員 95ml/分/1.73 m^2 以上であった。従って、腎障害 (+)、 $90 \leq \text{GFR}$ 、腎機能正常で、この 7 名を CKD ステージ 1 とした。18~20 歳の若い女性の集団の 0.46% に腎疾患がみられた。

1 日摂取食品数が 3 食品数以下が 53 名 (35.8%) であった。アンケートの中にソフトクリームを摂取していた学生が 63 名おり、不足カロリーを補うためにその他にソフトドリンク、チョコレート、クッキーなどを摂取していたと考えら

れる。

1日摂取食塩量については、平均摂取食塩量は6.62gで、最低摂取量は0.8g、最高摂取量は18.6gで、摂取食品数に連動している。25年前の若い女子学生の1日食塩摂取量は5.79gであり現在は約1g増加している。

(栗山敦治：九州栄養福祉大学研究紀要10：193-197, 2013.)

○「ノロウイルスの素顔—お腹のかぜ」

ノロウイルスは自然界で唯一、人を宿主にするウイルスである。人の生活行動のすべてが感染の原因であり、完全な防御は不可能に近い、ノロウイルスに国境はなく、世界のどこかで、季節に関係なく食中毒が発生している。ノロウイルスはプラス1本鎖RNAウイルスであり、多くの遺伝子が存在し、感染防御は分泌型IgAで持続期間が短く、したがって、何回でもノロウイルスに感染する。感染の防御策は、食中毒病原体の正しい知識を持つことである。

(栗山敦治：モダンフィジシャン Vol.34:446-449, 2014.)

○「ボツリヌス菌食中毒の素描～診断の困難さと致死率の高さ～」

ボツリヌス菌食中毒に遭遇する機会は、きわめて少ないが診断に難渋する機会が多く、致死率が高いため、最も注意を払わなければならない疾患である。診断が遅れるほど重症化し、死につながる。本症の正体はボツリヌス毒素であり、末梢神経細胞末端でのアセチルコリンの放出を阻害し、副交感神経と運動神経を遮断させる。神経症状は両側対称性で、まず脳神経領域から症状が現れ、下行性に進行していく。現れた症状が脳神経および運動神経のうち、どの神経が障害されたかを推定し、さらに喫食調査を行えば確定診断につながる。我が国で発生した有名なイズシ事件、輸入キャビア事件、辛子蓮根事件から本症の診断に至った経過を検証した。ボツリヌス菌は人の腸管内では菌が増殖しないとされていたが、生後3週間から8ヶ月の乳児の腸管内では菌が増殖して発症する乳児ボツリヌス症がある。この期間には腸内フローラが完成していないために発症するとされている。妊婦の腸内環境が子に受け継がれるので、より良いフローラを維持するために、妊婦はプロバイオティクスを含めたバランスのとれた食生活をすべきである。

(栗山敦治：九州栄養福祉大学研究紀要11：175-179, 2014.)

○「若い女子学生の随時血糖値とHbA1c値の現況～2型糖尿病発症への警告～」

18～19歳の若い女子学生129名の随時血糖値とHbA1c値を測定し、この値から、2型糖尿病の発症のリスクを検討した。家系内血縁者に糖尿病のいないグループA(87名)、糖尿病者がいるグループB(42名)、随時血糖値が100mg/dl以上のグループC(16名)に分類し検討した。随時血糖値およびHbA1c値はそれぞれ、全員では89.02±8.75 mg/dl、5.13±0.24%、グループAは88.39±9.02 mg/dl、5.12±0.24%、グループBは93.33±7.93 mg/dl、5.15±0.22%、グループCは104.13±4.68 mg/dl、5.29±0.20%であった。いずれもグループCがともに高値を示

した。採血時間が昼食後 2~4 時間後であり、空腹時血糖値ととらえ、空腹時血糖値異常 (IFG) として、検討した。グループ C の学生が将来、飽食、肥満、ストレスなどの環境因子が加わって、2 型糖尿病が発症することが推定される。

(栗山敦治：九州栄養福祉大学研究紀要 11：181-184, 2014,)

○「創傷の湿潤療法の原点を求めて」～神話因幡の白兔からみた考察～

今は切り傷、裂傷、擦過傷、火傷などでは、「消毒しない」「水道水で洗う」「乾燥させない」湿潤療法が主流になりつつある。何十年も前から消毒液を使用し、乾かす治療を実施してきた人々は、現実に行っている湿潤療法が間違っていると考えがちである。したがって、すべての医療機関がこの治療法を行っているわけではない。

創傷療法とは、さまざまな細胞が創面とその周囲に集まり、組織の再生、修復が起こる。これらの組織の活動を妨げるのは消毒液である。創傷治療の最大の妨害因子は乾燥である。傷を乾かすと遊走した表皮細胞が壊死し、結果として創の上皮化は起こらない。細胞が活動するには、湿潤環境が必須条件である。古事記に登場する「因幡の白兔」の神話は有名である。ワニザメに丸裸にされた白兔は悪い兄神たちに教えられたように、海水を浴び、太陽と風に当たるとますます痛みが増して苦しんだ。しかし、優しい大国主命は池に入り体を洗い、塩分を落として、がまの穂をほぐしてその上に寝転がると教えられ、その通りにすると全身に元通りの毛が生えてきた。湿潤療法の原点は「因幡の白兔」神話の中にあった。

(栗山敦治：モダンフィジシャン Vol.35 No.9:1169, 2015.)

○「悪性貧血治療の変遷～むかし常識、いま非常識～」

19 世紀初頭、回復不能な貧血が流行し、死に至るために悪性貧血と呼ばれ、恐れられていた。生の肝臓を食べていた患者の病状が悪化しないのに気付いてマーフィーとマイノットは肝臓抽出液を作成し、悪性貧血患者の肝臓療法を行った。この肝臓内の抗貧血因子を結晶として取り出したのが、1948 年、米国のフォルカースと英国のスミスである。この結晶は、シアノコバラミンという物質で「ビタミン B₁₂」と命名された。ビタミン B₁₂ はきわめて微量でも効力があつた。5μg で患者に有効であるが、使用されていた注射用の肝濃縮液には百万分の一しかビタミン B₁₂ は含まれていなかったという。

自己免疫性萎縮性胃炎や胃全摘後では、内因子不足により、回腸末端切除では吸収障害により、ビタミン B₁₂ の不足による貧血が起こる。これが巨赤芽球性貧血である。したがって、ビタミン B₁₂ の非経口投与（主に筋注）が治療の必須条件であるとされてきたが、近年、ビタミン B₁₂ には、受動的な拡散などの内因子以外の吸収経路があることや、単体では受動的にある程度吸収されることが判明してきたことから、ビタミン B₁₂ の経口投与が行われるようになってきた。

今でも、「悪性貧血の治療には、ビタミン B₁₂ を非経口投与する」と記載され

ている教科書が散見される。現在では、必ずしも正しくない。医学常識も常に変化している。むかし常識、いま非常識。

(栗山敦治：九州栄養福祉大学研究紀要 12：157－161, 2015.)

○「理科支援員配置事業特別講師」

主催：北九州市教育委員会指導部指導第一課

1)平成 20 年度理科支援員配置事業特別講師

(平成 20 年 11 月 北九州市立三郎丸小学校)

① 心臓の構造と働き

～講義と聴診器による心音の聴き方～

② 血圧とは何か

～血圧の発生もメカニズム～

～血圧計による血圧の計り方の実習～

2)平成 21 年度理科支援員配置事業特別講師

(平成 21 年 11 月 北九州市松ヶ江小学校)

いのちの防御軍～免疫とは何か～

私たちの体は 365 日 24 時間、常に恐ろしい外敵と戦っていますが、まったく体の中で戦っていることなど感じていません。微生物が体の中へ容赦なく侵入してきますので、これに勝利し続けなければ生きていけません。私たちは病原菌に囲まれて生活しているが、簡単には病気にならない。なぜだろうか。それは体には外敵から身を守る「免疫」があるためです。

体の防御壁と突破してきた外敵には、補体、リゾチームなどで消化したり、好中球で食べてしまいます。それでも侵入してくれば、マクロファージにお願いします。外敵の種類によって攻撃の仕方が違います。小さい外敵のかけら、毒素やウイルスなどは B 細胞群の抗体に処理してもらい、がん細胞やウイルス感染細胞はキラー T 細胞に処理をお願いします。このような仕組みで外敵から身を守っているのが免疫などです。

○「大蔵地区認知症予防教室」

「大蔵認知症予防教室」講演会講師

主催：北九州市八幡東区役所保健福祉課

1) 日本人はなぜ生活習慣病になりたがるのか？

(平成 23 年 10 月 24 日 北九州市大蔵市民センター)

生活習慣病という一群の病気は過食と運動不足によって起こる。この結果、発症する病変はすべて血管の障害である。すなわち、心筋梗塞、脳梗塞、網膜症などである。

① ミイラの教え～怪我、飢餓、感染との戦い。

② 怪我との戦いで止血機構が増幅した。

③ なぜ、血管のなかでは血液が固まらないのか。

④ ヒトは生活習慣病になりやすい仕組みを持っている。

- ⑤ 高血圧は内皮細胞を傷害する。
- ⑥ ヒトは過食になりやすい。
- ⑦ 骨は体重をかけると丈夫になる。
- ⑧ 糖化タンパク（AGE）は血管毒性を持っている。
- ⑨ 内臓脂肪は血栓性ペクトルを發揮する。
- ⑩ β_2 アドレナリン受容体異常症（節約遺伝子）
- ⑪ 肥満が血栓のリスクになる。
- ⑫ 粥（プラーク）は破裂する。
- ⑬ 現代人は背広を着た縄文人である。
- ⑭ 我々の体は生活習慣病になりたがっている。
- ⑮ 未病という概念

2) 心臓の構造と病気～主な心臓病の狭心症と心筋梗塞について～

（平成 24 年 6 月 11 日 北九州市大蔵市民センター）

心臓は生命の維持に必要な血液を全身に送り届けているポンプと考えると理解しやすい。心臓は酸素やエネルギー源を豊富に含んだ赤い動脈血を全身に送り出している。帰り道に約 60 兆の細胞が生きるために栄養や酸素を使った後の老廃物を受け取って、静脈血となって、心臓に帰ってくる。すなわち赤い動脈血を送り出し、青い静脈血を受け取っているのです。

心臓は 4 個の部屋があります。右に 2 部屋、左に 2 部屋ありますが、右の部屋と左の部屋とは全く行き来は出来ないようになっています。

右には右心房と右心室があり、左には左心房と左心室があります。右心房には全身から帰ってきた青い静脈血があります。この血液は右心室から肺に送られて、酸素をもらって赤い動脈血となって、左心房へ送られ左心室から大動脈を経て、全身へ。

心臓は右の部屋には青い静脈血があり、左の部屋には赤い動脈血があるのです。心臓の中の血液の色は 2 色です。

心臓は全身に血液を送るポンプと言いましたが、心臓自身も血液がなければ働けません。心臓は働けなければあの世行きです。待って下さい。簡単に言わないで下さい。

心臓が働くためには血液が必要です。心臓の筋肉に酸素や栄養を送っているのが冠動脈なのです。美味しいものを好きなだけ食べているあなたは幸せでしょうが、少しは、冠動脈のことも考えて下さい。食べ過ぎと運動不足は、有名なメタボリック・シンドロームになります。これが冠動脈に動脈硬化が起り、狭くなって十分に心臓の筋肉に酸素や栄養を送り届け出来なくなります。結果的には心臓は働くことが出来なくなります。これが狭心症や心筋梗塞の原因です。100 歳まで生きたいならば心臓は約 37 億回も収縮しなければならぬのです。長生きしたければ心臓を大切に使って下さい。

3) 「脳とはなにか～脳の構造と機能からみた脳疾患～」

（平成 25 年 3 月 2 日 北九州市大蔵市民センター）

脳とは何かと問われれば答えに困る。人間を含めた動物の行動などのすべてを

支配する臓器と言える。私たちはものを考える時、頭を使っているし、泣いたり笑ったり怒ったりするのも脳の働きである。つまり、知性・感情・意志といったすべてを脳が支配している。

大脳は体のすべての機能を分業している。大脳皮質は前頭連合野、頭頂連合野、側頭連合野、体性感覚野、聴覚野、視覚野に分けられている。3つの内、もっとも高度な働きをしているのが、前頭連合野である。これが傷害されると人間らしさがなくなる。積極性がなくなり、自発行動が少なくなる、周囲に無関心になる、感情の起伏が激しくなるなどヒトらしさがなくなる。

脳卒中とは突然倒れる脳の病気のことである。原因は何であれ、脳細胞に血液が供給できなくなり、脳細胞が壊死することである。脳に血液が行かなくなる理由として、血管が破ける場合と血管が動脈硬化で狭くなる場合がある。

- 1) 脳出血～①高血圧が長く続いて血管が破れる、②動脈瘤など動静脈奇形で突然に血管が破裂するクモ膜下出血がある。
- 2) 脳梗塞～動脈硬化によってアテロームができて血管が詰まる（脳血栓症）がある。また、心房細動による左心房の血栓が発生して、これが剥がれ脳の血管を閉塞して起こる心原性脳塞栓症がある。脳の中心部に行く小さい穿通動脈が動脈硬化になり起こる梗塞にラクナ梗塞がある。

そのほかに、一過性脳虚血性発作がある。これは動脈硬化が剥がれて脳の血管を塞ぐが血栓が溶解して脳の血流が正常になり症状が短時間で無くなる。

○ 大蔵地区健康フェスタ講演会講師

主催：北九州市八幡東区役所保健福祉課～

「糖尿病とはどんな病気か」

（平成26年3月1日 北九州市大蔵市民センター）

糖尿病は日本でも世界でも猛烈に増加している。糖尿病が直接の死因になることはないが死因の3分の2は糖尿病にかかっている。

糖尿病とは何かと言われても難しいが「全身の慢性的なエネルギー不足の病気であり、その原因が高血糖であり、このために血管障害が発症する疾患である」と答えていることにしている。高血糖はインスリンの相対的不足によって起こるがその原因が遺伝的なものと環境からの影響の2つがあると考えられている。糖尿病は苦しい病気ではない。したがって、糖尿病が発症してから、しばらく経っているにもかかわらず自覚症状がほとんどない。

糖尿病は治る病気かと言われれば、現在のところ糖尿病は治る病気ではない。したがって、糖尿病を治すのではなく、コントロールすることである。

<血糖値が高いとはどんな状態なのか>

血糖値が280mg/dlであっても全く症状などはない。しかし、これは普通のヒトの3倍ほど高い血糖値である。アイスコーヒーにガムシロップを3個入れた状態で、相当甘いものである。体が砂糖漬けになっていると考えれば砂糖を火に入れると溶けて、さらに煮詰めると「カラメルシロップ」になる。

糖尿病とは、カラメルシロップが体の組織に張りついていると思えばよい。

このことが、糖尿病性網膜症、糖尿病性腎症、糖尿病性神経障害さらに心筋梗塞、脳梗塞、閉塞性動脈硬化などが発症する原因である。

○「職業訓練衛生技能講習会」講師

酸素欠乏危険作業主任技能講習会（平成 24 年 1 月 28 日）

1) 酸素欠乏症の病理と症状

- ① 気中酸素濃度と酸素分圧
- ② 人体における酸素摂取と利用
- ③ 酸素欠乏症

2) 救急処置

- ① 発見時の対応
- ② 心停止の判断
- ③ 心肺蘇生の開始と胸骨圧迫
- ④ 気道確保と人工呼吸
- ⑤ 心肺蘇生中の胸骨圧迫と人工呼吸
- ⑥ 心肺蘇生の効果とタイミング
- ⑦ AED の使用
- ⑧ 気道異物の除去

3) 硫化水素中毒の病理と症状

硫化水素は生活の中でどこでも発生している中毒で死に至るものである。

硫化水素中毒は空気中の酸素が不足するのではなく、赤血球の酸素運搬機能が硫化水素により障害されて脳の酸素不足の結果、死亡するのである。

法律では空気中の硫化水素は 10ppm 以内とされている。

・「酸素欠乏危険作業主任技能講習会」（平成 24 年 8 月 10 日）

1)、2) の講義

・「酸素欠乏危険作業主任技能講習会」（平成 24 年 8 月 26 日）

1)、2) の講義

・「酸素欠乏危険作業主任技能講習会」（平成 25 年 2 月 10 日）

1)、2) の講義

・「酸素欠乏危険作業主任技能講習会」（平成 25 年 3 月 20 日）

・「酸素欠乏・硫化水素危険作業主任技能講習」1)、2) の講義および 3) の講義

<硫化水素中毒の症状>

- ① 嗅覚麻痺～20～30ppm になると嗅覚が傷害され、100～200ppm では嗅神経が麻痺し、臭いを感じなくなり、危険を回避するチャンスを失う。
- ② 眼の損傷～角膜は 50ppm 程度でも障害される（ガス眼）
- ③ 呼吸器の損傷～肺水腫は 100ppm、48 時間、30 分で起こる。肺ガス交換の障害で窒息死の危険性が出てくる。700ppm になると神経細胞が障害され、1～2 回の呼吸で突然に呼吸麻痺が起こる。

硫化水素の事故は死亡率が高く、多くの事故現場では助けに行った人も死亡という2次3次の災害が必ず起こるので、硫化水素中毒の知識が必要である。

○「お腹のかぜ～ノロウイルスの素顔～」

(平成26年10月25日 北九州市大蔵市民センター)

ノロウイルスはヒトの生活行動のすべてが感染の原因になる。したがって、完全な防御は不可能に近い。アルコール消毒は無効である。

○「高血圧のいろいろ～知っているようで知らない高血圧の基礎知識～」

(平成27年3月7日 北九州市大蔵市民センター)

- 1) 高血圧の種類
- 2) 血液循環の仕組み
- 3) 身体各部分の血流分布は心身の活動状態により変化する
- 4) 脳循環の自動調整機能
- 5) 塩分と高血圧
- 6) 高齢者高血圧の特徴
- 7) お風呂の温度と血圧の関係

○「コレステロールとはなにか～コレステロールに、悪玉と善玉があるのか～」

(平成28年3月28日 北九州市大蔵市民センター)

- 1) 三大栄養素
- 2) コレステロールとは
- 3) コレステロールの輸送船～リポタンパク
- 4) コレステロールの運搬
- 5) 粥状動脈硬化～血管を詰まらせる元祖
- 6) 心臓の病気～狭心症・心筋梗塞
- 7) 脳の病気～脳梗塞・脳塞栓症
- 8) 長寿は昔からの人類の夢だった

主な社会活動 **【公開講座・講演会】**

- ・平成20年度理科支援員配置事業特別講師（再掲）
「心臓と構造と働き、血圧とは何か」
(平成20年11月10日 北九州市立三郎丸小学校)
- ・平成21年度理科支援員配置事業特別講師（再掲）
「いのちの防衛軍～免疫とはなにか」
(平成21年11月18日 北九州市立松ヶ江小学校)
- ・「日本人はなぜ生活習慣病になりたがるのか？」（再掲）
(平成23年10月24日 北九州市大蔵市民センター)
- ・「心臓の構造からみた心疾患」（再掲）
(平成24年6月11日 北九州市大蔵市民センター)
- ・「脳とは何か～脳の構造と機能から見た脳疾患～」（再掲）

(平成 25 年 3 月 2 日 北九州市大蔵市民センター)

- ・「糖尿病とはどんな病気か」(再掲)

(平成 26 年 3 月 1 日 北九州大蔵市民センター)

- ・「お腹のかぜ～ノロウイルスの素顔～」(再掲)

(平成 26 年 10 月 25 日 北九州市大蔵市民センター)

- ・「高血圧のいろいろ～知っているようで知らない高血圧の基礎知識～」(再掲)

(平成 27 年 3 月 7 日 北九州市大蔵市民センター)

- ・「コレステロールとはなにか

～コレステロールに、悪玉と善玉があるのか～」(再掲)

(平成 28 年 3 月 28 日 北九州市大蔵市民センター)

【その他の社会活動等】

○北九州市胃集団検診フィルム読影委員

- ・平成 22 年度北九州市胃集団検診フィルム読影会出務回数 12 回
- ・平成 23 年度北九州市胃集団検診フィルム読影会出務回数 11 回
- ・平成 24 年度北九州市胃集団検診フィルム読影会出務回数 7 回

○平成 22 年度理科支援等事業特別講師

○北九州市民共済生活協同組合審査委員

○北九州市医師会胃集団検診読影委員

○平成 24 年度 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任技能講習会講師
(職業訓練法人北九州訓練協会)

○平成 24 年度大蔵認知症予防教室講師 (北九州市八幡東区役所)

○北九州市民共済生活共同組合審査委員会委員

(平成 24 年 4 月 1 日より平成 25 年 3 月 31 日まで)

受賞歴 公衆衛生事業功労者県知事表彰 (福岡県、1998 年)
公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰 (2008 年)

奥野悦生 OKUNO Etsuo 教授

所属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

担当科目 [食物栄養学部 食物栄養学科]

応用栄養学Ⅰ、臨床栄養学Ⅱ、食物とアレルギー、生化学実験
専門ゼミナールⅡ、卒業論文、管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ

[大学院 健康科学研究科]

健康科学特別講義、健康科学研究法特論演習、臨床栄養学特論Ⅰ・Ⅱ
特別研究Ⅰ

[東筑紫短期大学 食物栄養学科]

臨床栄養学Ⅱ

専門分野 生化学、酵素学

最終学歴 徳島大学大学院 栄養学研究科 (栄養学修士)

学位 理学博士 (大阪大学)

職歴 和歌山信愛女子短期大学 助手及び講師 (昭和49年4月～昭和53年3月)

和歌山県立医科大学助手 助教授 (昭和53年4月～平成16年3月)

浅香山病院看護専門学校 非常勤講師 (平成16年4月～平成17年9月)

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 教授(平成17年10月～現在に至る)

九州栄養福祉大学大学院 食物栄養学研究科 教授(平成18年4月～平成24年3月)

九州栄養福祉大学大学院 健康科学研究科 教授 (平成24年4月～現在に至る)

教育上の業績 ○Nブックス実験シリーズ 「生化学実験」 共著

編著 後藤 潔

共著 奥野悦生 (P66~70)、小原 効、梶田 泰孝、川口 洋、 高梁 享子、

田中 進成瀬 克子、林 あつみ、矢内 信昭

主な研究活動 【著書】

○Nブックス実験シリーズ 「生化学実験」 共著 (再掲)

編著 後藤 潔

共著 奥野悦生 (P66~70)、小原 効、梶田 泰孝、川口 洋、 高梁 享子、

田中 進成瀬 克子、林 あつみ、矢内 信昭

【学術論文】

○A Selective method for transfection of retinal ganglion cells by retrograde transfer of antisense oligonucleotides against kynurenine aminotransferase II. Thaler S, Rejdak R, Dietrich K, Ladewig T, Okuno E, Kocki T, Turski WA, Junemann A, Zrenner E, Schuettau F, Mol. Vis. 12 100-107 (2006)

○Mitochondrial aspartate aminotransferase : a third kynurenine -producing enzyme in the mammalian brain.

Guidetti P., Amori L., Sapko MT., Okuno E., Schwarcz R.

J. Neurochem. 102 103-111 (2007)

- Immunohistochemical identification of kynurenine aminotransferase in corpora
In the human retina and optic nerve.
Rejdak R, Rummelt C, Zrenner E, Grieb P, Zamowski T, Okuno E, Schlotzer-
Sshrehardt U, Naumann GO, Kruse F, Junemann AG.
Folia Neuropathol. 45 66 – 71 (2007)
- Identification of radicals formed in the reaction mixtures of rat liver microsomes
With ADP, Fe³⁺ and NADPH using HPLC EPR and HPLC EPR MS.
Minakata K, Okuno E, Nakamura M, Iwahashi H.
J Biochem. 142 73 – 78 (2007)
- Presence of L-kynurenine aminotransferase III in retinal ganglion cells and
Corpora amylacea in the human retina and optic nerve.
Rejdak R, Rummelt C, Zrenner E, Grieb P, Rejdak K, Okuno E, Thaler S,
Nowomiejska K, Kruse F, Turski W, Junemann AG,
Folia Neuropathol. 49 132 – 137 (2011)
- Presence and distribution of L-kynurenine aminotransferase immunoreactivity
In human cataractous lenses.
Rejdak R, Oleszczuk A, Rummelt C, Turski WA, Choragiewicz T, Nowomiejska K,
Ksiazek K, Thaler S, Zamowski T, Okuno E, Grieb P, Zrenner E, Kruse F,
Junemann AG. Acta Ophthalmol 91 450 – 455 (2013)
- 「食用油の酸化による揮発成分の生成」
南 育子、中川 敏法、海淵 覚、岸川 明日香、室井 菜緒子、奥野 悦生
大貫 宏一郎、清水 邦義
九州栄養福祉大学研究紀要 12, 287 – 290 (2015)

- 主な社会活動
1. 第 15 回日本歯科医療福祉学会 発表
「トリプトファン代謝と行動」
奥野 悦生、木村 光孝 (平成 20 年 6 月 29 日)
 2. 第 17 回北九州市小児口腔保健学会総会・学術大会大会長
(平成 20 年 10 月 25 日)
 3. 日本トリプトファン研究会 第 31 回学術集会 世話人
於 九州栄養福祉大学 (平成 21 年 12 月 5 日)
 4. 北九州市社会福祉研修所 施設調理員研修 講師
「アレルギー：特に食物アレルギーを中心に」 (平成 25 年 1 月 8 日)

5. 北九州市社会福祉研修所
保育所（園）調理員 講師
「アレルギー：特に食物アレルギーを中心に」 (平成 25 年 1 月 15 日)
6. 第 22 回北九州市小児口腔保健学会総会・学術大会シンポジウム 座長
(平成 26 年 3 月 2 日)
7. 第 24 回九州市小児口腔保健学会総会・学術大会
特別講演「私達の命を支えるタンパク質」 (平成 28 年 2 月 14 日)

所 属 学 会 日本生化学会 (昭和 47 年 4 月～現在に至る)
日本トリプトファン研究会 (昭和 50 年 4 月～現在に至る)
日本栄養食糧学会 (昭和 61 年 4 月～現在に至る)
日本スポーツ栄養学会 (平成 25 年 4 月～現在に至る)
北九州市小児口腔保健学会 (平成 18 年 4 月～現在に至る)
日本健康・栄養システム学会 (平成 28 年 4 月～現在に至る)

受 賞 歴 1981 年 国際トリプトファン研究会 ベストポスター賞 (ドイツ ミュンヘン)

三 嶋 敏 雄 MISHIMA Toshio 教授

所 属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科
担 当 科 目 [食物栄養学部 食物栄養学科]
食品学総論、食品学各論、食品基礎実験、
食品バイオテクノロジー、食品学実験Ⅰ・Ⅱ、
専門ゼミナールⅠ・Ⅱ、卒業論文、管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ
[リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科]
食と健康
専 門 分 野 食品学、食品加工学、食品衛生学
最 終 学 歴 長崎大学大学院 海洋生産科学研究科 博士課程
学 位 博士（学術）
職 歴 玉木女子短期大学 食物栄養学科 講師 (昭和 61 年 4 月～平成 3 年 3 月)
玉木女子短期大学 助教授 (平成 4 年 4 月～平成 12 年 3 月)
長崎大学 水産学部 非常勤講師 (平成 4 年 4 月～現在に至る)
玉木女子短期大学 教授 (平成 12 年 4 月～平成 22 年 3 月)
長崎県単位互換制度運営委員会委員 (平成 12 年 4 月～平成 22 年 3 月)
短期大学基準協会 第三者評価評価員 (平成 16 年 4 月～平成 22 年 3 月)
九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 教授(平成 22 年 4 月～現在に至る)

教育上の業績 ○食品学の専門ゼミナール授業において、ゼミ学生を対象に食品会社との共同事業として、新規開発の魚醤油等の利用促進のためのレシピ開発を行っている。また、卒業論文において、新規開発の魚醤油等の呈味性や機能性に関する研究の指導、論文作成およびプレゼンテーションの方法を指導し、学生の学士力の向上を目指している。

主な研究活動 ○魚肉の軟化や魚肉タンパク質の変性には魚筋肉に含まれる酵素が関与すると考えられる。これらの酵素の諸性質を明らかにすることは、食品学や生化学上の重要な課題である。魚肉の軟化や自己消化に関与する種々の酵素の生化学的性質の解明に関する研究を行っている。

【主な学術論文】

- (1) 「異なる温度に保存したコイの筋原線維の小片化に及ぼす順応温度の影響」
三嶋敏雄、藤井潤、橘勝康、榎本六良

(平成 15 年 日本水産学会誌 第 69 巻)

魚肉は畜肉に比べて鮮度変化が速く、食品としての価値は鮮度によって大きく左右される。本研究ではコイの環境水温の違いが筋原線維の小片化を指標とした鮮度低下に及ぼす影響を検討した。その結果、筋原線維の小片化は高温で飼育した群が低温で飼育した群より明らかに速かった。また、自己消化に関わるカルパイン活性や筋小胞体 Ca-ATPase 活性に飼育群による違いが認められ、このことが鮮度低下に影響を及ぼしている可能性が考えられた。

(2) “Influence of Storage Temperature and Killing Procedures on Post-mortem Changes in the Muscle of Horse Mackerel Caught near Nagasaki Prefecture, Japan”

(長崎近海産マアジの筋肉の死後変化に及ぼす保存温度と致死条件の影響)

Toshio MISHIMA, Takeshi NONAKA, Akira OKAMOTO, Mutsuhide TSUCHIMOTO, Tomoko ISHIYA, Katsuyasu TACHIBANA, and Mutsuyosi TSUCHIMOTO

(平成 17 年 Fisheries Science 第 71 巻)

長崎近海産のマアジは食味の良さから市場で高い評価を得ている。市場での価値をより高めるにはできるだけ良好な鮮度を保ち、消費者に届けることが重要である。本研究では保存温度や致死条件を変えて検討を行った。保存温度では 10℃が死後硬直が遅く K 値の上昇も低く良好であった。致死条件では延髄刺殺よりも脊髄破壊が鮮度低下を遅らせるのに有効であった。

(3) 「アカムツ塩干品のおいしさに及ぼす栄養素やイノシン酸の影響」

三嶋敏雄、岡本昭、藤丸達矢、谷山茂人、橘勝康

(平成 24 年 九州栄養福祉大学 研究紀要第 9 号)

魚介類には旬の時期があり、栄養素組成が季節によって変動するものがある。アカムツは高級魚として知られる魚種であるが、その栄養素組成の変動と美味しさとの関係はよく知られていない。本研究では、アカムツの栄養素組成や呈味成分のイノシン酸と塩干品のおいしさとの関係を検討した。その結果、アカムツの脂肪量は季節変化が大きく、また個体でも大きく異なった。イノシン酸は個体差はあまり無く、塩干品にすることでいずれも大きく蓄積した。官能検査では、アカムツの美味しさには、味の濃さやジューシー感、脂ののりが関係していた。従って、美味しいアカムツの塩干品には、脂肪量や呈味成分の蓄積が重要であると考えられた。

(4) 「アユ塩干品の高品質化の為に製造条件に関する検討」

三嶋敏雄、岡本昭、松本欣弘、山田弥知、宮崎里帆、谷山茂人、橘勝康

(平成 25 年 九州栄養福祉大学 研究紀要第 10 号)

魚介類の塩干品は、生鮮魚とは違った熟成による呈味性がある重要な加工食品である。魚離れが進む中で、よりおいしく機能性の高い製品が求められている。本研究では、試料魚にアユを用い、うま味や健康に良い作用が期待できるコウジカビを作用させた塩干品の製造を行った。その結果、魚塩干品の臭みの改善が見られ、うま味のある製品が得られた。この結果を踏まえ、コウジカビによる人への有益な栄養的・生理的機能のあるペプチドやアミノ酸の生成を目的とした、高品質な魚塩干品の調製を現在の検討課題としている。

以上の他、多数の学術論文を公表している。

主な社会活動 ・「ながさき県民大学運営委員会委員」
長崎県が中心となっている公開講座の委員として、平成 15 年 7 月～平成 22 年 3 月まで活動した。

・「長崎県大学等間ネットワーク企画委員」
大学間または企業との相互協力をはかるための大学等間ネットワーク企画委員として、平成 13 年 4 月～平成 22 年 3 月まで活動した。

所 属 学 会	日本水産学会	(昭和 57 年～現在に至る)
	日本栄養食糧学会	(平成 26 年～現在に至る)
	日本食品科学工学会	(平成 23 年～現在に至る)
	日本食生活学会	(平成 22 年～現在に至る)

吉田正史 YOSHIDA Masafumi 教授

所属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

担当科目 [食物栄養学部 食物栄養学科]

食と哲学Ⅰ・Ⅱ

[リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科]

食と哲学

[東筑紫短期大学 保育学科]

哲学

専門分野 哲学

最終学歴 九州大学大学院 文学研究科 哲学専攻 (博士後期課程単位取得退学)

学位 修士 (文学)

職歴 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 講師

「哲学入門Ⅰ・Ⅱ」、「心と脳の哲学Ⅰ・Ⅱ」 担当

(平成13年4月～平成19年3月)

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 准教授

「哲学入門Ⅰ・Ⅱ」、「心と脳の哲学Ⅰ・Ⅱ」、「食と哲学Ⅰ・Ⅱ」、「哲学」担当

(平成19年4月～平成25年3月)

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 教授

「食と哲学Ⅰ・Ⅱ」、「食と哲学」、

「哲学」(当科目については平成26年度まで) 担当(平成25年4月～現在に至る)

九州栄養福祉大学 学生部 学生指導課指導主事 (平成13年4月～平成21年3月)

学校法人東筑紫学園 学園史編纂室 編集主事 (平成21年4月～現在に至る)

教育上の業績 ○九州栄養福祉大学学友会執行部顧問として学生の指導に当たり、様々な行事の企画、運営等について助言を与えてきた (平成15年4月～平成21年3月)。

主な研究活動 ○ジェイムズ『人間の不死性—この教説に対する、予想される二つの反論』(翻訳)
(九州栄養福祉大学研究紀要第5号、平成20年12月)

来世の生といった古くからの観念に対し現代自然科学の側から放たれる反論に答弁する形で、死後の生の可能性を探った本書の翻訳「その3」。これにて本文完訳。

○ジェイムズ『信じる意志』(翻訳)

(九州栄養福祉大学研究紀要第12号、平成27年12月)

実証的証拠を有さぬことを以て宗教的信仰を拒否する自然科学者たちに対し、人間には宗教的仮説を信じる態度をとる権利があることを主張し、かれらの不条理を論難した本書の翻訳「その6」。

所属学会 九州大学哲学会員 (昭和59年9月～現在に至る)

日本哲学会員 (平成3年6月～現在に至る)

中世哲学会員 (平成4年11月～現在に至る)

西日本哲学会員 (平成4年11月～現在に至る)

楠 瀬 千 春 KUSUNOSE Chiharu 教授

所 属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科
担 当 科 目 調理学、調理学実習Ⅰ・Ⅱ、応用栄養学Ⅱ・Ⅲ
専門ゼミナールⅡ、卒業論文、管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ
専 門 分 野 調理学、栄養学
最 終 学 歴 神戸女子大学大学院 食物栄養学専攻 博士前期課程修了
学 位 博士（食物栄養学）
職 歴 神戸女子大学家政学部 助手 (平成5年4月～平成13年3月)
九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 講師
(平成13年4月～平成19年3月)
九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 准教授
(平成19年4月～平成25年3月)
九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 教授
(平成25年4月～現在に至る)

教育上の業績 ○卒業論文指導として緩和ケア病棟における食事に関する研究を、病院と協力して行っている。
○学生による美化委員会の組織を立ち上げ、運営の指導を行ってきた。
○管理栄養士演習科目担当者会議事務局として、学生の資格修得のための対策を援助している。

主な研究活動 ○Effect of Capsicum Powder on Breadmaking Properties (論文)
Cereal.chem 2009 86 (6) 633-636 (共著)
Blending dried fruit of Capsicum species such as paprika, tomapi, pimento, and cayenne to wheat flour enhances breadmaking properties of bread height and specific volume. However, due to protease, immature green fruit did not cause this improvement of breadmaking properties. Heat-stable and LMW materials in red paprika promote the breadmaking properties.
○Effects of Size of Cellulose Granules on Dough Rheology, Microscopy, and Breadmaking Properties
Journal of Food Science 2007 72(2) 79-84 (共著)
Breadmaking was performed with cellulose-blended wheat flour. Cellulose granules (7 types) of various sizes (diameter) were prepared by kneading. With increase of the blend percent of the cellulose samples from 10% to 20%, breadmaking properties such as bread height and specific volume (SV) gradually decreased in every sample; however, the decreasing levels of the properties in 7 types of various sizes varied. The decrease of bread height and SV was associated with the size of the cellulose granule.

○「大学における調理実習教育の現状と担当教員の把握する学生の実態」

(日本調理科学会誌 2012 45 255 - 264) (共著)

大学における調理実習教育に関する現状と担当教員の把握する学生の実態について、九州に所在する大学において調理実習科目を担当している教員を対象として、アンケート調査を実施した。調理実習科目の開講状況は、栄養士養成系および家政・教員養成系において、平均開講総単位数は 2.8 単位、平均必修単位数は 2.2 単位および 0.6 単位であった。

調理実習の時間割上の時間は、栄養士養成系では約 2 コマ 180 分を設定している大学が 70.0%、家政・教員養成系では 1.5 コマと 2 コマが共に 40.0%であった。

調理に関する学生の知識および技術に関しては、両系統ともに低下しているという回答が多かった。調理実習を時間内に終わらせるために、種々の工夫が行われ、具体的な内容としては特に「料理の組み合わせ工夫する」が両系統とも半数を超えていた。学生のスキルは今後もますます低下する傾向にあり、具体的な対策が必要とされる。

○「米粉とデンプンの調理性」

(日本調理科学会誌 2009 42 (5) 361-365)

現在の学生の米粉に対する意識調査と、学生実験への米粉導入方法を検討した。学生実験で実施しているスポンジケーキの材料として米粉を導入するための試みの 1 例を報告した。従来の米粉と異なり、パンやケーキに用いることが可能となった新しい米粉の調理性を理解することを目的としている。(クッキングルーム)

○「新しい米粉とデンプンの調理性」

(New Food Industry 2009 51 (12) 65-77)

新しい製法の米粉と従来の方法で製造された米粉について、ベーカリー食品に関するこれまでの研究をまとめた。我々がこれまで行ってきたでんぷんを用いたベーカリー食品の調理性とも関連付けて考察した。

○「スポンジ組織のレオロジー特性—澱粉粒と気泡の相互作用 (総説)」

(日本バイオレオロジー学会誌 2006 20 (2) 20-31)

スポンジケーキに特徴的な食感をもたらすスポンジ組織のレオロジー的特性と、その組織の気孔構造が形成されるメカニズムを解明するために行ってきた研究の総説。

○「管理栄養士課程におけるリメディアル教育への取り組み」(論文) (共著)

(九州栄養福祉大学紀要 2013 10 257-270)

新生を対象に管理栄養士に必要とされる計算問題について、補講を実施し、その効果を検討した。

○「食材を用いる生物教育—小学校 6 年生を対象としたスルメイカの体の構造学習と調理の合同実習—」(論文) (共著)

(九州栄養福祉大学紀要 2008 5 29-39)

小学校で「からだのつくりとはたらき」を学習した後の児童を対象とし、スルメイカを用いた「からだの構造学習」と「調理」の合同実習を考案した。解剖実習は理科の教諭が行い、調理は家庭科の教諭或いは栄養教諭が受け持つ想定とした。

○「女子学生の味覚感受性と料理の味付けにおける嗜好濃度との関連性 (論文) (共著)

(九州栄養福祉大学紀要 2008 (5) 29-39)

本研究では本学女子学生を対象に味覚閾値検査を実施し、その調査結果から高、中および低味覚感受性に相当する被験者を抽出した。各群の被験者が好みの味付けをした調理品について、塩分および糖分濃度を測定したこれらの結果から、女子学生の味覚感受性と基本料理の味付け嗜好濃度との関連性について検討した。

<p>主な社会活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シニアを対象とした運動および食育教室の講師 財団法人健康・体力づくり事業財団、体力づくり道府県民会議主催、後援：福岡県、北九州市、(財)北九州市体育協会（平成21～22年） 平成23年よりスポーツクラブが引き継ぎ開催(平成23年～現在に至る) 北九州市民を対象としたスポーツと食育を組み合わせた教室の食育担当講師として、調理実習および講義を実施。 ・北九州市葛原小学校 家庭教育学級 講師 「胆瞬」をテーマとした食育教会と調理実習を担当。 葛原小学校 PTA 主催（平成24年10月） ・平成21年度 八幡東アカデミー事業 「イカの不思議発見塾」 調理実習担当 八幡アカデミー主催(平成21年) 八幡東生涯学習センターにて開催。「イカの不思議発見塾」では、30～70歳代の男女16名の市民を対象に、イカの構造を学んだのち、そのイカを調理して食べ、イカを通して生物の構造を理解するための講座を実施。 ・親子で楽しく健康・体力づくり教室(親子クッキング教室 講師)(平成20年) 北九州市こどもの健康・体力づくり推進事業を受託したスポーツクラブと協力。親子食育教室「たべものはかせになろう」を3回実施。 ・財団法人山口県ひとづくり財団社会福祉研修部主催 児童・障害者(児)福祉施設等調理担当職員研修会 講師 講義および調理実習(平成20年)、講義を担当(平成23年)。 ・北九州市シニアカレッジ(講義及び調理実習)(平成26年～27年) 主催：北九州市立年長者研修大学校 周望学舎 本学学生と参加者の交流を主体とし、高齢者に有益な栄養学の講義と調理実習を実施。
<p>所属学会</p>	<p>日本調理科学会 (平成4年4月～現在に至る)</p> <p>日本栄養改善学会 (平成10年1月～現在に至る)</p>
<p>受賞歴</p>	<p>日本調理科学会 奨励賞 (平成15年9月4日～現在に至る)</p>

林 辰 美 HAYASHI Tatsumi 教授

所 属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

担 当 科 目 [食物栄養学部 食物栄養学科]

栄養教育論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、栄養教育論実習Ⅰ、専門ゼミナールⅡ、卒業論文
管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ

[大学院 健康科学研究科]

健康科学研究法特論講義、栄養教育特論Ⅰ、特別研究Ⅰ

専 門 分 野 栄養教育

最 終 学 歴 中村学園大学 家政学部 食物栄養学科 食物栄養学専攻

学 位 家政学士

職 歴 名古屋保健衛生大学病院 (昭和49年4月～昭和50年5月)

日立金属(株)安来病院 (昭和50年6月～昭和52年3月)

賢明女子学院短期大学・専攻科助手、講師 (昭和52年4月～昭和60年3月)

中村学園大学・短期大学講師、助教授、准教授 (昭和60年4月～平成22年3月)

東亜大学 医療学部 教授 (平成22年4月～平成26年3月)

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 教授
(平成26年4月～現在に至る)

教育上の業績 ○栄養士・管理栄養士の教育養成に携わり、栄養教育・栄養指導を主に担当し、栄養士・管理栄養士養成の実践教育に力を注いできた。

(昭和52年～現在に至る)

また福岡県小児糖尿病サマーカーンプ(7泊8日)において、治療食提供を担当する学生の指導を所属学科教員と共に継続し、ボランティア活動の支援にも携わった。

(昭和60年～平成17年)

主な研究活動 1.生活習慣病の一次予防(食事性因子)に関する研究
高校生の肥満、血圧高値者における食生活、生活習慣ならびに疲労自覚症状について(栄養学雑誌 vol60, No2, 93-97, 2002)

2.保育所・幼稚園園児の生活習慣と食習慣の実態調査及び食育の実践的研究
望ましい食習慣づくりをめざした食育モデル構築のための幼児の食生活調査
(栄養日本 vol48, No7, 36-38, 2005)

3.スポーツ選手の食事に関する実践的研究
Jリーガーの栄養調査
(東亜大学紀要第18号, 29-36, 2013)

4.行動経済学の健康増進及び疾病予防への応用に関する基礎的研究
健康づくりに関するメッセージの効果認識の関連要因 - 社会経済的要因に注目して - (日本公衆衛生学会誌 62, 347-356, 2015)

主な社会活動 ・公益財団法人福岡県学校給食会評議員 (平成24年6月～現在に至る)

・築上町食育推進協議会委員 (平成26年4月～現在に至る)

所 属 学 会 日本栄養士会会員、日本栄養改善学会会員 (昭和49年3月～現在に至る)

日本栄養・食糧学会会員 (昭和60年4月～現在に至る)

日本公衆衛生学会会員	(昭和 62 年 4 月～現在に至る)
日本小児保健学会会員	(昭和 63 年 4 月～現在に至る)
日本保育園保健学会会員	(平成 3 年 4 月～現在に至る)
日本健康教育学会	(平成 6 年 4 月～現在に至る)
日本衛生学会会員	(平成 13 年 4 月～現在に至る)
日本病態栄養学会会員	(平成 15 年 4 月～現在に至る)
同評議員	(平成 16 年 1 月～現在に至る)
日本栄養改善学会評議員	(平成 16 年 10 月～現在に至る)
日本民族衛生学会会員	(平成 23 年 4 月～現在に至る)
日本栄養学教育学会会員	(平成 25 年 4 月～現在に至る)
同代議員	(平成 25 年 9 月～現在に至る)
日本農村医学会会員	(平成 26 年 10 月～現在に至る)
日本健康・栄養システム学会評議員	(平成 27 年 6 月～現在に至る)
日本老年医学会会員	(平成 27 年 12 月～現在に至る)

受 賞 歴	中村学園大学学園祖中村ハル第 1 回奨学生表彰	(昭和 47 年 9 月)
	福岡県栄養士会会長表彰	(平成 10 年 9 月)
	日本栄養士会会長表彰	(平成 11 年 9 月)
	日本栄養改善学会 学会賞	(平成 13 年 9 月)
	全国栄養士養成施設協会会長表彰	(平成 16 年 11 月)
	福岡県知事感謝状 (栄養士教育養成)	(平成 19 年 9 月)
	福岡県学校給食功労者表彰	(平成 23 年 11 月)
	厚生労働大臣表彰 (栄養士教育養成)	(平成 24 年 9 月)

原 研 治 HARA Kenji 教授

所 属	九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科
担 当 科 目	[食物栄養学部 食物栄養学科] 生化学Ⅰ・Ⅱ、基礎栄養学、基礎栄養学実験、 専門ゼミナールⅡ、卒業論文、管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ [大学院 健康科学研究科] 健康科学特別講義、生化学特論Ⅰ、特別研究Ⅱ
専 門 分 野	生化学、酵素化学
最 終 学 歴	長崎大学大学院 水産学研究科修了
学 位	博士 (保健学) (徳島大学)
職 歴	長崎大学 水産学部 助手 (昭和 49 年 4 月～昭和 54 年 3 月) 長崎大学 水産学部 講師 (昭和 54 年 4 月～昭和 59 年 3 月) 長崎大学 水産学部 助教授 (昭和 59 年 4 月～平成 9 年 3 月) 文部省内地研究員 (徳島大学 酵素科学研究センター, 昭和 62 年 7 月～昭和 63 年 5 月) カリフォルニア大学 客員研究員 (カリフォルニア大学サンフランシスコ校, 平成 2 年 7 月～平成 4 年 1 月) 長崎大学 水産学部 教授 (平成 9 年 4 月～平成 27 年 3 月) 長崎大学大学院 海洋生産科学研究科 博士課程 教授 (兼任, 平成 9 年 5 月～平成 18 年 2 月廃止) 長崎大学大学院 生産科学研究科 博士課程 教授 (兼任, 平成 11 年 8 月～平成 27 年 3 月) 長崎大学大学院 環境科学研究科 非常勤講師 (平成 14 年 4 月～平成 16 年 3 月) 長崎県立大学シーボルト校 大学院人間健康科学研究科 非常勤講師 (平成 15 年 4 月～現在に至る) 長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科教授 (改組により設置 平成 23 年 4 月～平成 27 年 3 月) 長崎大学 名誉教授 (平成 27 年 4 月) 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 教授 (兼務) 大学院 健康科学研究科 教授 (平成 27 年 4 月～現在に至る)
教育上の業績	○これまで、多数の博士・修士・学士の教育及び研究を指導し、大学や企業に輩出した。
主な研究活動	【著書】 (著書編集) ○「魚介肉内在性プロテアーゼ-最新の生化学と食品加工への応用」 長富 潔・吉田朝美・原 研治編 恒星社厚生閣, 2016 年 3 月 魚介肉内在性プロテアーゼに関する最新の研究成果と、その水産食品加工への応用を、その分野の研究者や学生向けに編集した。 (著書執筆) 1 「魚類リゾゾーマルシステインプロテアーゼ」 (共著) 原 研治・吉田朝美・長富 潔 (魚介肉内在性プロテアーゼ-最新の生化学と食品加工への応用 p26-40 恒星社厚生閣. 2016 年 3 月)

- 2 「魚類可溶性セリンプロテアーゼ」 (共著)
吉田朝美・長富 潔・原 研治
(魚介肉内在性プロテアーゼ-最新の生化学と食品加工への応用 p41-55
恒星社厚生閣.2016年3月)

【学術論文】

- (1) 「中性域で働くマサバ カテプシン B 様酵素の精製と性状」 (共著)
(日本食品化学学会誌, 22 (1), 56-62 April 2015)
(博士論文の主査として研究全体の構成と指導を行った)
- (2) “Proteolytic degradation of myofibrillar components by endogenous proteases in red sea bream muscle.” (共著)
(マダイ筋肉中の内在性プロテアーゼによる筋肉構成タンパク質の分解)
Japanese Journal of Food Chemistry and Safety . 2(2), 107-114(2014)
(論文代表者として研究全体の構成と指導を行った)
- (3) “A glycoprotein in shells of conspecifics induces larval settlement of the Pacific oyster *Crassostrea giga*.” (共著)
(マガキ幼生の付着を誘起する糖タンパク質に関する研究)
(*PLoS ONE*, 8 (12): e82358. doi:10.1371/journal.pone.0082358 December 2013.)
(博士論文の副査として、糖タンパク質精製の指導を行った)
- (4) “Molecular cloning and tissue distribution of hyaluronan binding protein 2 (HABP2) in red sea bream *Pagrus major*.” (共著)
(マダイ中のセリンプロテアーゼ (HABP2) の分子クローニングと組織分布)
(*Comparative Biochemistry and Physiology, Part B*, 165,271–276 June 2013)
(論文代表者として研究全体の構成と指導を行った)
- (5) “Chemical and thermal properties of freshwater prawn (*Macrobrachium rosenbergii*) meat.” (共著)
(淡水エビ肉の化学的性質)
(*Journal of Aquatic Food Product Technology*, 22 (2), 137-145 February 2013)
(タイ国との共同研究として研究指導を行った)
- (6) “Study on a prolyl endopeptidase from the skeletal muscle of common carp (*Cyprinus carpio*).” (共著)
(コイ骨格筋中のプロリルエンドペプチダーゼに関する研究)
(*Process Biochemistry*, 47(12), 2211–2218 December 2012.)
(中国集美大学との共同研究であり、酵素の構造解析を担当した)

- (7) “Retardation of post-mortem changes of freshwater prawn (*Macrobrachium rosenbergii*) stored in ice by legume seed extracts.” (共著)
(豆科種子の抽出物質の添加による、食用淡水エビ死後の肉質劣化の遅延)
(*Food Chemistry*, 135(2), 571–579 November 2012)
(タイ国との共同研究で、筋肉タンパク質の変化を担当した)
- (8) “Low molecular weight trypsin from hepatopancreas of freshwater prawn (*Macrobrachium rosenbergii*): Characteristics and biochemical properties.” (共著)
(淡水エビ肝臓に存在する低分子量トリプシンの性質)
(*Food Chemistry*, 134(1), 351–358 September 2012)
(タイ国との共同研究で、トリプシンの精製と構造解析を担当した)
- (9) “Purification and characterisation of cathepsin L from the skeletal muscle of blue scad (*Decapterus maruadsi*) and comparison of its role with myofibril-bound serine proteinase in the degradation of myofibrillar proteins.” (共著)
(中国産アジ筋肉中のカテプシン L の精製と筋原線維タンパク質分解に対する筋原線維セリンプロテアーゼとの比較)
(*Food Chemistry*, 133(4), 1560–1568 August 2012)
(中国集美大学との共同研究であり、カテプシン L の構造解析を担当した)
- (10) “Changes in sarcoplasmic proteins of cultured yellowtail *Seriola quinqueradiata* burnt meat.” (共著)
(養殖ブリやけ肉発生に伴う筋形質タンパク質の変化)
(*Japanese Journal of Food Chemistry and Safety*, 19(1), 14–22 April 2012)
(博士論文の主査としてこの研究全体を指導した)
- (11) “Degradation of myofibril in cultured yellowtail *Seriola quinqueradiata* burnt meat: Effects of a myofibril-bound EDTA sensitive protease.” (共著)
(養殖ブリやけ肉中の筋原線維タンパク質の分解：EDTA 感受性筋原線維結合型セリンプロテアーゼの影響)
(*Fisheries Science* 78(1):147–153 January 2012)
(博士論文の主査としてこの研究全体を指導した)
- (12) “Purification, molecular cloning, and some properties of a manganese-containing superoxide dismutase from Japanese flounder (*Paralichthys olivaceus*).” (共著)
(ヒラメ Mn-SOD の精製と性質、分子クローニング)
(*Comparative Biochemistry and Physiology, Part B*, 158 (4) 289–296 2011)
(博士論文の主査としてこの研究全体を指導した)

- (13) “Purification and Characterization of Parvalbumins, the Major Allergens in Red Stingray (*Dasyatis akajei*).” (共著)
(アカエイの主なアレルゲンであるパルブアルブミンの精製と性質)
(*Journal of Agricultural and Food Chemistry*, 58 (24), 12964–12969 2010)
(中国集美大学との共同研究であり、PV の構造解析を担当した)
- (14) “Extracellular products from virulent strain of *Edwardsiella tarda* stimulate mouse macrophages (RAW264.7) to produce nitric oxide (NO) and tumor necrosis factor (TNF)- α .” (共著)
(NO と TNF- α 生産に関わる *Edwardsiella tarda*(*E. tarda*) の細胞外放出物質)
(*Fish & Shellfish Immunology*, 29, 778-785 2010)
(博士論文の主査としてこの研究全体を指導した)
- (15) “Gelatinolytic serine proteinases from the wing muscle of red stingray.” (共著)
(アカエイ筋肉中のゼラチン分解能を持つセリンプロテアーゼに関する研究)
(*Journal of Food Biochemistry*, 34 (5), 949-961 (2010)
(博士論文の主査として、この研究全体を指導した)
- (16) “Identification of an aminopeptidase from the skeletal muscle of grass carp (*Ctenopharyngodon idellus*).” (共著)
(ソウギョ筋肉中のアミノペプチダーゼの分離精製)
(*Fish Physiology and Biochemistry*, 36(4), 953-962 2010)
(本論文は中国集美大学との共同研究であり、本酵素の精製方法を指導した)
- (17) “Effect of a Myofibril- bound Serine Proteinase on the Deg of Giant Protein Titin and Nebulina.” (共著)
(筋原繊維中の巨大タンパク質であるタイチンとネブリンの分解に対する筋原線維結合型セリンプロテアーゼの影響)
(*Journal of Food Biochemistry*, 34, 581–594 2010)
(中国集美大学との共同研究であり、筋原線維タンパク質分解の解析法を指導した)
- (18) “A serine proteinase from the sarcoplasmic fraction of red sea bream *Pagrus major* is possibly derived from blood. ” (共著)
(マダイ筋肉中の筋形質画分に存在するセリンプロテアーゼは血液由来である)
(*Fisheries Science*, 75 (6), 1439-1444 2009)
(博士論文の主査として、この研究全体を指導した)
- (19) “Characterization of gelatinolytic enzymes in the skeletal muscle of red sea bream *Pagrus major*,” (共著)
(マダイ筋肉中に存在するゼラチン分解酵素の性質)

- (*Fisheries Science*, 75 (5), 1317–1322 2009)
(博士論文の主査として、この研究全体を指導した)
- (20) “Purification and characterization of chymotrypsins from the hepatopancreas of crucian carp (*Carassius auratus*).” (共著)
(フナ肝臓に存在するキモトリプシンの精製と性質)
(*Food Chemistry*, 116(4), 860–866 2009)
(本論文は中国集美大学との共同研究であり、本酵素の精製方法を指導した)
- (21) “Identification and characterization of matrix metalloproteinases from the sarcoplasmic fraction of common carp (*Cyprinus carpio*) dark muscle.” (共著)
(コイ血合筋に存在するマトリクスメタロプロテアーゼの分離と性質)
(*Journal of Food Biochemistry*, 33(5), 745–762 2009)
(本論文は中国集美大学との共同研究であり、本酵素の精製方法や酵素活性測定を指導した)
- (22) “Characteristics of a self-assembled fibrillar gel prepared from red stingray collagen,” (共著)
(アカエイコラーゲンから調製された再繊維化ゲルの特性)
(*Fisheries Science*, 75 (3), 765–770 2009)
(博士論文の主査として、この研究全体を指導した)
- (23) “Comparative analysis of the production of nitric oxide (NO) and tumor necrosis factor- α (TNF- α) from macrophages exposed to high virulent and low virulent strains of *Edwardsiella tarda*. ” (共著)
(*Edwardsiella tarda*強毒及び弱毒株を暴露したマクロファージのNOとTNF- α 生産能の比較)
(*Fish & Shellfish Immunology*, 27(2), 386–389 2009)
(本論文ではマクロファージの培養を指導した)
- (24) “Glucose-6-phosphate Isomerase Is an Endogenous Inhibitor to Myofibril-Bound Serine Proteinase of Crucian Carp (*Carassius auratus*). ” (共著)
(グルコース-6-リン酸イソメラーゼ (GPI) は筋原線維結合型セリンプロテアーゼ (MBSP) の生体内阻害剤である)
(*Journal of Agricultural and Food Chemistry*, 57(12), 5549–5555 2009)
(本論文は中国集美大学との共同研究であり、本酵素の精製方法や酵素活性測定を指導した)

- (25) “Purification and characterisation of trypsins from the pyloric caeca of mandarin fish (*Siniperca chuatsi*),”
(mandarin fishの幽門垂に存在するトリプシンの精製と性質)
Bao-Ju Lu, Li-Gen Zhou, Qiu-Feng Cai, Kenji Hara, Asami Yoshida, Wen-Jin Su, Min-Jie Cao.
(*Food Chemistry*, 110 (2), 352–360 2008)
(本論文は中国集美大学との共同研究であり、本酵素の構造解析を指導した)
- (26) “Biochemical properties of acid-soluble collagens extracted from the skins of underutilised fishes,”
(未利用魚の皮から抽出した酸可溶性コラーゲンの物理化学的性質)
Inwoo Bae, Kiyoshi Osatomi, Asami Yoshida, Kazufumi Osako, Atsuko Yamaguchi, Kenji Hara.
(*Food Chemistry*, 108 (1), 49-54 2008)
(博士論文の主査として、この研究全体を指導した)
- (27) “Purification and characterization of leucine aminopeptidase from the skeletal muscle of common carp (*Cyprinus carpio*).”
(コイ筋肉中のロイシンアミノペプチダーゼの精製と性質)
(Bing-Xin Liu, Xue-Li Du, Li-Gen Zhou, Kenji Hara, Wen-Jin Su, Min-Jie Cao.
(*Food Chemistry*, 108, 140–147 2008)
(本論文は中国集美大学との共同研究であり、酵素反応測定を指導した)
- (28) “Purification and Characterization of Gelatinase-like Proteinases from Dark Muscle of Common Carp (*Cyprinus carpio*).”
(コイ血合筋に存在するゼラチナーゼ様酵素の精製と性質)
Jiu-Lin Wu, Bao-Ju Lu, Ming-Hua Du, Guang-Ming Liu, Kenji Hara, Wen-Jin Su and Min-Jie Cao.
(*Journal of Agricultural and Food Chemistry*, 56, 2216–2222 2008)
(本論文は中国集美大学との共同研究であり、酵素反応測定を指導した)
- (29) “Pepsinogens and Pepsins from Mandarin Fish (*Siniperca chuatsi*).”
(Mandarin Fishのペプシノーゲンとペプシン)
Qiong Zhou, Guang-Ming Liu, Yuan-Yuan Huang, Ling Weng, Kenji Hara, Wen-Jin Su and Min-Jie Cao.
(*Journal of Agricultural and Food Chemistry*, 56, 5401–5406 2008)
(本論文は中国集美大学との共同研究であり、酵素の活性化機構を指導した)

- (30) “PCR-RELP genotyping for Japanese and Korean population of Pacific oyster using mitochondrial DNA noncoding region. ”
Takane Okimoto, Kenji Hara, Tadashi Ishihara, Futoshi Aranishi
(Aqual Ecol, 42, 1-4, 2008)
(博士論文の主査として、この研究全体を指導した)
- (31) “Comparison of the responses of peritoneal macrophages from Japanese flounder (Paralichthys olivaceus) against high virulent and low virulent strains of *Edwardsiella tarda*, ”
Keiko Ishibe, Kiyoshi Osatomi, Kenji Hara, Kinya Kanai, Kenichi Yamaguchi, Tatsuya Oda, F
(*Fish & Shellfish Immunology*, 24, 243-251 2008)
(修士論文の主査として、この研究全体を指導した)
- (2007)
- (32) “Partial Purification and characterization of Tropomyosin-Bound Serine Proteinase from the Skeletal Muscle of Yellow Croaker (*Pseudosciaena crocea*).”
(キグチ骨格筋からトロポミオシン結合型セリンプロテアーゼの部分精製とその性質)
Min-Jie Cao, Ling Weng, Guang-Ming Liu, Kenji Hara and Wen-Jin Su.
(*Journal of Food Biochemistry*, 31, 343-355 2007)
(本論文は中国集美大学との共同研究であり、本酵素の精製方法を指導した)
- (33) “Purification, Characterization, and cDNA Cloning of a Myofibril-Bound Serine Protease from Skeletal Muscle of Crucian Carp (*Carassius auratus*).”
(Crucian Carp フナ筋原線維結合型セリンプロテアーゼの精製、性質及びcDNAクローニング)
Chuan Guo, Min-Jie Cao, Guang-Ming Liu, Xiong-Shui Lin, Kenji Hara and Wen-Jin Su.
(*Journal of Agricultural and Food Chemistry*, 55, 1510-1516 2007)
(本論文は中国集美大学との共同研究であり、酵素の活性化機構を指導した)
- (34) 「マアジ塩漬肉の品質に及ぼすトランスグルタミナーゼ製剤の影響」
田中晴生, 長富 潔, 柿澤有紀, 糸永麻未, 大迫一史, 原 研治, 野崎征宣.
(日本調理科学会誌, 40(1), 10-14 2007)
(博士論文の主査として論文全体の指導を担った)

- (35) 「マアジ肉の塩漬・乾燥処理時におけるトランスグルタミナーゼ製剤の添加効果」
田中晴生, 長富 潔, 糸永麻未, 柿澤有紀, 原 研治, 野崎征宣
(日本食品化学学会誌, 14(1),12-17 2007)
(博士論文の主査として論文全体の指導を担った)
- (2006)
- (36) “The effect of soybean trypsin inhibitor on the degradation of myofibrillar proteins by an endogenous serine proteinase of crucian carp.”
(フナ内在性セリンプロテアーゼによる筋原線維タンパク質の分解に対する大豆トリプシンインヒビターの効果)
Xin-Jing Jiang, Zhi-Jun Zhang, Hui-Nong Cai, Kenji Hara, Wen-Jin Su, Min-Jie Cao.
(*Food Chemistry*, 94, 498–503 2006)
(本論文は中国集美大学との共同研究であり、筋原線維タンパク質の調製を指導した)
- (37) “Cryoprotective effects of shrimp head protein hydrolysate on gel forming ability and denaturation of lizardfish surimi during frozen storage.”
(凍結貯蔵中におけるエソすり身のゲル形成能と筋原繊維タンパク質の変性に及ぼすエビ頭部タンパク質酵素分解物の影響)
Y. Ruttanapornvareesakul, K. Somjit, A. Otsuka, K. Hara, K. Osatomi, K. Osako, O. Kongpun, Y. Nozaki.
(*Fisheries Science*, 72(2):421-428 2006)
(博士論文の主査として研究全体の指導を行った)
- (38) “Occurrence of two distinct molecular species of cathepsin B in carp *Cyprinus carpio*.”
(分子種の異なる2種のコイカテプシンBの存在)
Y. Tan, K. Osatomi, Y. Nozaki, T. Ishihara, K. Hara.
(*Fisheries Science*72(1): 185-194 2006)
(博士論文の主査として研究全体の構成と指導を行った)
- (39) “Concentration-dependent suppressive effect of shrimp head protein hydrolysate on dehydration-induced denaturation of lizardfish myofibrils.”
(エソ筋原繊維の脱水変性に及ぼすエビ頭部タンパク質加水分解物の濃度依存的な抑制効果)
Y. Ruttanapornvareesakul, M. Ikeda, K. Hara, K. Osatomi, K. Osako, O. Kongpun, Y. Nozaki.
(*Biores. Tech.*97, 762-769 2006)
(博士論文の主査として研究全体の構成と指導を行った)

- (40) “Gene structure of carp *Cyprinus carpio* cathepsin B”
(コイカテプシン B の遺伝子構造)
Y. Tan, K. Osatomi, and K. Hara.
(Fisheries Science 72(3): P673-678 2006)
(博士論文の主査として研究全体の構成と指導を行った)
- (41) 「マダイかまぼこの火戻りに伴う物性の低下とその微細構造」
濱田友貴、広瀬岳史、川島茜、デイシー・アロヨ・モラ、原研治、
槌本六良、橘勝康
(日本食品化学学会誌,13, 78-82 2006)
(酵素学的視点からの研究指導を行った)

竹 並 正 宏 TAKENAMI Masahiro 教授

所 属	九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科
担 当 科 目	[食物栄養学部 食物栄養学科] キャリアガイダンス I、社会福祉論、社会福祉援助技術、食事介助実習、 国際理解 [東筑紫短期大学 保育学科] 相談援助、社会的養護内容、人間関係（指導法）、家庭支援論 [東筑紫短期大学 食物栄養学科] 社会福祉概論 [東筑紫短期大学 美容ファッションビジネス学科・保育学科・食物栄養学科] 国際理解 [東筑紫短期大学 専攻科（介護福祉専攻）] 社会の理解、コミュニケーション技術
専 門 分 野	障害者福祉、介護福祉教育、アジアの社会福祉
最 終 学 歴	岡山大学大学院 文化科学研究科 博士課程単位取得満期退学
学 位	修士（文学）（韓国大邱大学校）
職 歴	慶成高等学校 専任教諭（平成 13 年 4 月～平成 16 年 3 月） 第一福祉大学 人間社会福祉学部 専任講師（平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月） 福岡医療福祉大学 人間社会福祉学部 准教授（平成 19 年 4 月～平成 21 年 3 月） 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 准教授（平成 21 年 4 月～現在に至る） 九州歯科大学 歯学部 非常勤講師（平成 24 年 4 月～現在に至る） 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 教授（平成 28 年 4 月～現在に至る）

教育上の業績 ○手話と点字を 40 年以上行い著書もあり、現場における実践力強化として、短大の社会福祉援助技術や専攻科のコミュニケーション技術で手話や点字を取り入れて実践形式で授業を行い教育効果を高めた。（平成 21 年度）

○管理栄養士を目指す学生の「食事介助実習」に関する取り組みについて（第 18 回日本介護福祉学会大会）で発表を行った。教科「食事介助実習」の学生へのアンケート調査では様々な専門職業理解が十分できた、管理栄養士に期待される役割理解もおおむね出来た、食事場面をよく観察もおおむね出来た、利用者がどんな食事が望ましいかおおむね出来たとされており、学生による授業評価アンケートは 4.81 であった。（平成 22 年度）

主な研究活動 【著書】

- 「廃物利用教材教具の作成と使用法」（単著、大邱大学校出版部、B5 判・188 頁 昭和 63 年 9 月）
- 「人間関係論」（単著、特殊教育出版社、B5 判・296 頁 平成 1 年 10 月）
- 「韓国の手話」（単著、特殊教育出版社、B5 判・269 頁 平成 2 年 1 月）
- 「しいのみ学園」（単著、特殊教育出版社、B5 判・316 頁 平成 2 年 7 月）
- 「集中日本語会話」（単著、ECA 学院出版部、B4 版・120 頁 平成 2 年 8 月）

- 「詩集 韓国、台湾、そして日本」
(単著、特殊教育出版社、B5判・76頁、平成5年8月)
- 「老人福祉論」(単著、梓書院、A5判・193頁 平成15年12月)
- 「実用のための韓国点字表記法」
(単著、梓書院、A5判・250頁 平成17年7月)
- 「手作りおもちゃ・親子愛情教室」
(単著、大邱大学校出版部、A4版・46頁 平成18年4月)
- 「見ておぼえる韓国手話の会話法」
(単著、梓書院、A5判・273頁 平成18年12月)
- 「心あたたまるケースワークの話」
(単著、大邱大学校出版部、A4版・63頁 平成19年3月)
- 「新・心あたたまるケースワークの話」
(単著、大邱大学校出版部、A4版・65頁 平成19年12月)
- 「臨床ソーシャルワーク原論」
(単著、大邱大学校出版部、A4版・68頁 平成20年4月)
- 「人間関係原論」(単著、梓書院、四六サイズ・184頁 平成20年4月)
- 「新・臨床ソーシャルワーク原論」
(単著、大邱大学校出版部、A4版・66頁 平成20年8月)
- 「ソーシャルワーク実践論」
(単著、大邱大学校出版部、A4版・56頁 平成20年11月)
- 「新・ソーシャルワーク実践論」
(単著、大邱大学校出版部、A4版・58頁 平成21年2月)
- 「子どもの心の育ちと人間関係」
(共著、保育出版社、p152～p153、p190～p191 平成21年4月)
- 「障害者福祉と教育」
(単著、大邱大学校出版部、A4版・65頁 平成21年5月)
- 「子どもの養護」(共著、建帛社、p75～p89 平成21年10月)
- 「新障害者福祉と教育」
(単著、大邱大学校出版部、A4版・56頁 平成21年10月)
- 「保育者が学ぶ家庭支援論」
(共著、建帛社、p37～p51、P170～p171 平成23年4月)

【研究紀要】

- 「園生の視聴覚能力の発達をさぐって」
(単著、日本愛護協会、p81～p91 昭和59年5月)
第8回ほほえみ奨励賞受賞
- 「韓・日老人福祉法の比較研究」
(単著、韓国大邱大学校修士論文、A5判・60頁 平成2年2月)
- “Any Chance to Open the Paralympic Games Ahead of the Olympic Games”
(単著、川崎医療福祉学会誌第2巻第2号、p242～p243 平成4年12月)
- 「殖民地下の朝鮮における夜学の研究」
(単著、川崎医療福祉学会誌第3巻第1号、p99～p103 平成5年6月)
- 「儒教文化圏の社会福祉（韓国における老人福祉を中心として）」
(単著、旭川荘研究年報第24巻第1号、p53～p55 平成5年3月)
- 「自立を目指し地域と共に生きる」
(単著、旭川荘研究年報第25巻第1号 p48～p50 平成6年6月)
- 「韓国の家族制度（R・ジャネリの祖先祭祀と韓国社会を参考にして）」
(単著、川崎医療福祉学会誌第2巻第4号 p153～p156 平成6年10月)
- 「韓国社会の転機」
(単著、川崎医療福祉学会誌第1巻第5号 p189～p192 平成7年9月)
- 「ひとり暮らし老人の日韓比較研究」
(単著、旭川荘研究年報第29巻第1号 p148～p149 平成10年3月)

- 「韓国の老人家庭奉仕員制度についての一考察」
(単著、川崎医療福祉学会誌 Vol.14 No.2 p371-p376 平成16年11月)
- 「韓国社会福祉の歴史(1910~1945)」
(単著、川崎医療福祉学会誌 Vol.15 No.2 p353-p366 平成17年12月)
- 「韓国社会福祉の歴史」
(単著、第一福祉大学紀要第3号 p241-p249 平成18年3月)
- 「韓国介護保険制度(テスト事業実施)から見た問題点」
(単著、第一福祉大学紀要第4号 p73-p85 平成19年3月)
- 「フィリピンにおける介護福祉士養成事業の一考察」
(単著、介護人材育成プラス Vol.4-No.4、p120-p126 平成19年9月)
- 「障害者ソーシャルワークの研究」
(単著、第一福祉大学紀要第5号 p61-p78 平成20年3月)
- 「韓国の障害者福祉の今後の展望と課題」
(単著、川崎医療福祉学会誌 Vol-18 No.1p109-p119 平成20年5月)
- 「韓国における地域福祉の展開と福祉教育」
(単著、福岡医療福祉大学紀要 第6号 p131-p148 平成21年3月)
- 「韓国の地域社会福祉実践機関「地域社会福祉館」の研究」
(単著、川崎医療福祉学会誌 Vol-19 No.1P85-p92 平成21年6月)
- 「日本と韓国の介護保険制度の現状と方向性」
(単著、九州栄養福祉大学研究紀要第6号 p31-p49 平成21年12月)
- 「社会福祉国家スウェーデンの福祉政策についての一考察(21世紀型日本はどうあるべきか)」
(単著、九州栄養福祉大学研究紀要第7号 p129-p144 平成22年12月)
- 「フィリピンの社会福祉政策と市民社会運動」
(単著、九州栄養福祉大学研究紀要第7号 p145-p174 平成22年12月)
- “Welfare and Education for the Physically-Mentally Disabled”(身体的、精神的障害がある人ための福祉と教育)
(単著、九州栄養福祉大学研究紀要第7号 p175-p185 平成22年12月)
- 「韓国の儒教規範と社会保障の関係」
(単著、九州栄養福祉大学研究紀要第8号 p119-p141 平成23年12月)
- 「韓国の介護職養成所における学生の介護意識」
(単著、九州栄養福祉大学研究紀要第8号 p143-p174 平成23年12月)
- 「国際交流に対する日韓比較研究(国際交流のあり方について)」
(単著、東筑紫短期大学研究紀要第43号 p189-p208 平成24年12月)
- 「韓国の契と社会保障の関係」
(単著、九州栄養福祉大学研究紀要第9号 p119-p139 平成24年12月)
- “Relation of American Old People and Community(Real State of Sun City, Arizona)” アメリカの高齢者と地域との関係(アリゾナ州サンシティの現状)
(単著、九州栄養福祉大学研究紀要第9号 p141-p154 平成24年12月)
- 「韓国の療養保護士(ホームヘルパー)の職務満足が介護サービスの質に与える影響」
(単著、九州栄養福祉大学研究紀要第10号 p271-p320 平成25年12月)
- 国際交流に対する日韓比較研究(国際交流のあり方について)(2)
(単著、東筑紫短期大学研究紀要第44号 p129-p153 平成25年12月)
- 「国際交流に対する日台比較研究(国際交流のあり方について)」
(単著、九州栄養福祉大学研究紀要第11号 p227-p228 平成26年12月)
- 『教科「人間関係(指導法)」の科目別履修カルテ3年間のアンケート調査とKJ法についての一考察』
(単著、東筑紫短期大学研究紀要第45号 p257-p279 平成26年12月)

- 「社会資源情報マップの必要性と開発（法人ネットワークの有効利用を目指す仕組みづくりへ）」
（単著、九州栄養福祉大学研究紀要第12号p229-p259 平成27年12月）

【学会発表】

- “Any chance to Open Paralympic Game11TH ASIAN CONFERENCE ON MENTAL RETARDATION”
（単著、アセアン国際知的障害者研究大会（韓国ソウル）平成5年8月）
- 「韓国の訪問介護員制度の現状についての報告」
（単著、第13回日本介護福祉学会(神奈川県立保健福祉大学)平成17年10月)
- 「韓国における訪問介護員養成研修事業についての現状と課題」
（単著、福岡県ソーシャルワーカー協会（西日本短期大学）平成17年11月）
- 「フィリピン人介護者導入における一考察」
（単著、第33回川崎医療福祉学会（川崎医療福祉大学）平成19年11月）
- 「韓国における社会福祉教育体系の現状報告」
（単著、第35回川崎医療福祉学会（川崎医療福祉大学）平成20年11月）
- 「韓国における社会福祉教育の体系」
（単著、第2回福岡県ソーシャルワーカー協会定期例会（福岡医療福祉大学）平成21年7月）
- 「日本と韓国の介護保険制度の比較研究」
（単著、第17回日本介護福祉学会大会（文京学院大学）平成21年9月）
- 「日本における外国人介護労働者に関する一考察」
（単著、2009 亜洲産業競争力興企業経営管理国際学術検討会（台湾、日華金典酒店、南海技術大学）平成21年10月）
- 「韓国の社会福祉教育についての一考察」
（単著、2009年度日本社会福祉教育学会第5回大会（鹿児島国際大学）平成21年11月）
- 『管理栄養士を目指す学生の「食事介助実習」に関する取り組みについて』
（単著、第18回日本介護福祉学会大会（岡山県立大学）平成22年9月19日）
- 「福岡県介護福祉士会平成22年制度政策検討委員会取り組みについて～キャリアパスモデル
（共著、福岡県介護福祉士会（案）について～第8回日本介護学会大会平成22年10月）
- 「日本の障害者自立支援法の問題点」
（単著、第33回東北亜福祉経済共同体国際学術検討会（韓国釜山市長善綜合福祉共同体大講堂）平成23年5月）
- 「社会資源マップを活用した国際環境作り」
（単著、2012福祉ビジネスの国際連携会議（韓国釜山市長善綜合福祉共同体大講堂）平成24年7月）
- 「社会資源マップを活用した国際環境作り2」
（単著、「東亜の福祉ビジネスと産業経営」国際学術検討会（韓国済州島）平成26年7月）

【投稿】

- 「障害者が望む法律とは何か」
（単著、手をつなぐ育成会（ハートフルネット）平成22年2月）

主な社会活動 ・介護認定審査会委員（福岡県筑紫地区）（平成18年4月～平成21年3月）
判定内容として要介護(支援)状態等に該当するか否かの判定、該当する要介護状態区分、要介護状態等が特定疾患によるものか否か(第2号被保険者の場合)の二次判定を行う。

- ・日韓研究交流会アドバイザー（社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会）

（平成 22 年 7 月 10 日）

韓国ではすでに高齢者福祉は措置制度から契約制度に移行し、障害者福祉も後に続こうとしている。入所施設についても大規模な施設をなくす方向性が提案されていて、福祉の市場化や脱施設化、地域生活支援、日本の障がい者総合福祉法（仮称）の動きなどについて活発な意見交換を行う。

所 属 学 会	川崎医療福祉学会	（平成 4 年 4 月～現在に至る）
	日本介護学会	（平成 17 年 4 月～現在に至る）
	日本介護福祉学会	（平成 17 年 4 月～現在に至る）
	福岡県介護福祉学会	（平成 17 年 4 月～現在に至る）
受 賞 歴	第 8 回ほほえみ奨励賞「園生の視聴覚能力の発達をさぐって」	（日本愛護協会） （昭和 59 年 5 月）

杉 元 康 志 Yasushi Sugimoto 教授

所 属	九州栄養福祉大学	食物栄養学部	食物栄養学科
担 当 科 目	〔食物栄養学部 食物栄養学科〕 食品加工学、食品加工学実習、基礎生物学、食品機能論、食品学実験Ⅰ、 専門ゼミナールⅡ、卒業論文、管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ 〔大学院 健康科学研究科〕 食品学特論Ⅰ、食品加工学特論Ⅱ		
専 門 分 野	生化学、分子生物学、タンパク質化学、食品加工学、食品機能学、		
最 終 学 歴	鹿児島大学大学院 農学研究科修了		
学 位	農学博士（九州大学）		
職 歴	西南女学院短期大学 食物栄養科 講師		（昭和 50 年 4 月～昭和 56 年 3 月）
	西南女学院短期大学 食物栄養科 助教授		（昭和 56 年 4 月～平成 8 年 3 月）
	カナダ・カルガリー大学医学部 客員研究員		（昭和 60 年 10 月～昭和 61 年 9 月）
	鹿児島大学 農学部 助教授		（平成 8 年 4 月～平成 13 年 2 月）
	鹿児島大学 農学部 教授		（平成 13 年 3 月～平成 13 年 3 月）
	鹿児島大学大学院 連合農学研究科 教授		（平成 13 年 4 月～平成 28 年 3 月）
	鹿児島大学大学院 連合農学研究科 副研究科長		（平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月）
	鹿児島大学大学院 連合農学研究科 研究科長		（平成 25 年 3 月～平成 28 年 3 月）
	九州栄養福祉大学 食物栄養学部 教授（兼務 大学院健康科学研究科 教授）		（平成 28 年 4 月 1 日～現在に至る）
	鹿児島大学 名誉教授		（平成 28 年 5 月～現在に至る）

教育上の業績 ○西南女学院短期大学で栄養士養成の教育に携わった。
○鹿児島大学農学部生物資源化学科および大学院にて多くの学士、修士を輩出した。
○鹿児島大学大学院連合農学研究科にて博士課程の運営・管理に携わりながら教育システムの構築し、多くの博士を輩出した。

主な研究活動 ○タンパク質の構造と機能の研究を中心に生化学、分子生物学、発生生物学アプローチを行った。主な発表論文は以下の通りである。

1. Egg-yolk trypsin inhibitor identical to albumen ovomucoid. (共著)
Biochimica et Biophysica Acta 788:117-123(1984)
2. Purification and characterization of benzoyl-L-tyrosine ethyl ester hydrolase from the yolk sac membrane of chicken egg.(共著)
Biochemistry and Cell Biology 64: 543-547(1986)
3. Flow of egg white ovalbumin into the yolk sac during embryogenesis.(共著)
Biochimica et Biophysica Acta 992: 400-403(1989)
4. Comparison of egg and embryo proteins and a trial to detect proteolytic activities in eggs of Bombyx mori.(共著)
Comparative Biochemistry and Physiology 96B: 253-256(1990)

5. Gene structure and multiple mRNA species of *Drosophila melanogaster* aldolase generating three isozymes with different enzymatic properties. (共著)
Journal of Biochemistry 12:677-688(1992)
6. Isolation and characterization of cDNA and genomic promoter region for a heat shock protein 30 from *Aspergillus nidulans*. (共著)
Biochimica et Biophysica Acta 1219: 555-558(1994)
7. Analysis of the in vitro translation product of a novel-type *Drosophila melanogaster* aldolase mRNA in which two carboxyl-terminal exons remain unsliced.
Archives of Biochemistry and Biophysics 323:361-366.(1994)
8. A proteinase inhibitor from egg yolk of hen is an ovoinhibitor analog. (共著)
Biochimica et Biophysica Acta 1295:96-102.(1996)
9. Ovalbumin in developing chicken eggs migrates from egg white to embryonic organs while changing its conformation and thermal stability. (共著)
Journal of Biological Chemistry 274:11030-11037.(1999)
10. Ovotransferrin antimicrobial peptide(OTAP-92) kills bacteria through a membrane damage mechanism. (共著)
Biochimica et Biophysica Acta 1523:196-205.(2000)
11. Occurrence of ovalbumin in ovarian yolk of the chicken during oogenesis. (共著)
Biochimica et Biophysica Acta 1526:1-4.(2001)
13. Oviductin, the oviductal protease that mediates gamete interaction by affecting the vitelline coat in *Bufo japonicus*: its molecular cloning and analyses of expression and posttranslational activation.(著)
Developmental Biology 243:176-184.(2002)
13. Perchloric acid-soluble protein regulates cell proliferation and differentiation in the spinal cord of chick embryo.(共著)
FEBS letters 579: 2416-2420.(2005)
14. Thermostabilized ovalbumin that occurs naturally during development accumulates in embryonic tissues. (共著)
Biochimica et Biophysica Acta 1723:106-113.(2005)
15. Transition of ovalbumin to thermostable structure entails conformational changes involving the reactive center loop. (共著)
Biochimica et Biophysica Acta 1770:5-11.(2007)
16. Aggregates with lysozyme and ovalbumin show features of amyloid-like fibrils.(共著)
Biochemistry and Cell Biology 89: 533-544.(2011)

17. Analysis of core region from egg white lysozyme forming amyloid fibrils.
(共著)
International Journal of Biological Science 9: 219-227. (2013)
18. Amyloid fibril formation in vitro from halophilic metal binding protein: its high solubility and reversibility minimized formation of amorphous protein aggregations. (共著)
Protein Science 22: 1582-1591. (2013)
19. Amyloidogenic lysozymes accumulate in the endoplasmic reticulum accompanied by the augmentation of ER stress signals. (共著)
Biochimica et Biophysica Acta 1850:1107-1119. (2015)
20. Amyloid fibril formation from a 9 amino acid peptide, 55th-63rd residues of human lysozyme. (共著)
International Journal of Biological Macromolecule 80:208-216. (2015)
21. Lysozyme Mutants Accumulate in Cells while Associated at their N-terminal Alpha-domain with the Endoplasmic Reticulum Chaperone GRP78/BiP. (共著) International Journal of Biological Science 12: 184-197. (2016)

所 属 学 会	日本生化学会	(昭和 50 年 9 月～現在に至る)
	同評議員	(平成 14 年～現在に至る)
	同代議員	(平成 28 年～現在に至る)
	日本生化学会九州支部 (評議員)	
	日本農芸化学会	(昭和 48 年 9 月～現在に至る)
	同評議員	(平成 22 年～平成 23 年)
	同代議員	(平成 24 年～平成 25 年)
	日本農芸化学会西日本支部参与	
	日本分子生物学会	(昭和 63 年 12 月～現在に至る)

松本明夫 MATSUMOTO Akio 准教授

所属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

担当科目 [食物栄養学部 食物栄養学科]

キャリアガイダンスⅠ, 人間関係の心理, 教育心理学, 栄養カウンセリング,
基礎統計学, 学校カウンセリング, 高齢者心理学, 教職実践演習 (栄養教諭)

[リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科]

人間関係の心理, 栄養カウンセリング

[東筑紫短期大学 保育学科]

臨床心理学

専門分野 臨床心理学

最終学歴 九州大学大学院 教育学研究科 教育心理学専攻博士課程 単位取得退学

(平成10年3月)

学位 修士 (教育学)

職歴 九州大学心理教育相談室 主任及び副主任 (平成10年4月～平成12年3月)

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 講師

「カウンセリングⅠ・Ⅱ」等 担当 (平成12年4月～平成19年3月)

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 准教授

「栄養カウンセリング」, 「学校カウンセリング」等 担当

(平成19年4月～現在に至る)

教育上の業績 ○「演習 栄養教育 (第6版)」大里進子ほか (編著) (2006年 医歯薬出版株式会社)
管理栄養士を目指す学生を対象とする栄養教育論のテキストである。筆者が分担執筆した章では、行動科学とカウンセリングの理論と技法について概説している。さらに理解を深めるために演習課題を多く設定した。

○「イラスト栄養教育・栄養指導」城田智子ほか (編著) (2007年 東京教学社)
管理栄養士を目指す学生を対象とする栄養教育論のテキストである。筆者が分担執筆した章では、行動科学とカウンセリングの理論とモデルについて、イラストを多用して、わかりやすく概説した。

主な研究活動 ○「イメージの体験様式に関する研究」(著書) 田嶋誠一 (編)

「現実介入しつつ心に関わる[展開編]」 (2016年 金剛出版)

イメージ療法の治癒要因の一つであるイメージの体験様式の変化過程に関する研究の動向と今後の展望について論じた。具体的には、イメージの中の視点, 想像的関与, 没入とイメージの体験様式の関連についての研究を取り上げた。

○「イメージ療法におけるイメージの体験様式に関する研究ーイメージ体験の深まりを測定する試み」(論文) (心理臨床学研究 第26巻 第3号 2008年)

イメージの体験様式の変化過程をイメージの体験過程と名づけ, それを5段階で評定するスケールを開発し, イメージの体験過程に影響を与える諸要因について探索的に検討した。

主な社会活動	・精華女子短期大学教職員研修会講師	(平成 24 年 2 月)
	・日本人間性心理学会第 33 回大会座長	(平成 26 年 8 月)
	・東筑紫短期大学教員免許状更新講習講師	(平成 27 年 8 月)
所属学会	日本心理臨床学会員	(平成 6 年～現在に至る)
	日本人間性心理学会員	(平成 7 年～現在に至る)
	日本催眠医学心理学会員	(平成 9 年～現在に至る)
	日本学生相談学会員	(平成 21 年～現在に至る)

赤松貴文 AKAMATSU Takafumi 准教授

所属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

担当科目 コンピュータリテラシーⅠ・Ⅱ
栄養情報処理演習Ⅰ・Ⅱ

専門分野 制御工学、情報学

最終学歴 九州工業大学大学院 情報工学研究科 情報科学専攻 博士後期課程退学

学位 修士（情報工学）

職歴 東筑紫短期大学 講師 (平成11年4月～平成13年3月)
九州栄養福祉大学 講師 (平成13年4月～平成19年3月)
九州栄養福祉大学 准教授 (平成19年4月～現在に至る)
九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 情報管理センター 主事
(平成15年4月～平成28年3月)
九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 情報管理センター 副センター長
(平成28年4月～現在)

教育上の業績 ○管理栄養士国家試験対策 e-Learning システムを構築し、本学学生の自習環境を整備した。 (平成17年)

○個人所有のパソコンを管理する上で必要となる具体的内容、手順について解説したオリジナルテキスト「パソコン管理入門」を作成した。「コンピュータリテラシーⅠ」の教材として利用されるとともに、希望学生に随時配布されている (平成18年～現在に至る)

○電子メール教育用テキストとして「Web メール入門」を作成した。
学生および教職員に配布され、利用されている。 (平成23年～現在に至る)

主な研究活動 【著書】

○「情報科学 改訂版」

西日本法規出版（現ふくろう出版）平成17年12月

本書は、情報処理の入門者、初級システムアドミニストレータ試験の受験者、ならびに情報処理教育担当者を対象としたテキストである。従来の初級システムアドミニストレータ試験の出題分野に加え、（同試験でセキュリティ分野が重要視される以前より）「不正アクセス対策」「コンピュータウイルス対策」「暗号化技術」をはじめとするセキュリティ分野に大幅に紙面を割いて詳しく解説した先駆的な書籍である。

改訂版では情報技術の発展に伴い古くなったと思われる部分の見直し、冗長と思われる記述や図表の見直しを行ったほか、「システム開発」に関する章の追加を行った。

（編者：山田啓一、分担執筆：山本浩貴、赤松貴文、佐々木彰治、福永良浩。

執筆ページ：pp147-266）

○「ITセミナー」（ふくろう出版、平成 25 年 5 月）

本書は、文科系の大学生ならびに IT パスポート試験の受験者を対象としたテキストである。IT パスポート試験は、情報技術の技術的な側面に加え、企業と法務、経営戦略、システム戦略、システム開発などに関する知識を問う試験であることから、本書は情報技術を仕事に役立てるという視点から、IT パスポート試験が対象とする範囲を網羅した内容となっている。

(分担執筆：山田啓一、木下和也、福永良浩、赤松貴文、山本浩貴、坂本健成。執筆ページ：pp140-207)

○「マネジメントのための ICT 基礎講座」（晃洋書房 平成 27 年 4 月）

本書では、IT パスポート試験が対象とする情報技術の技術的な側面に加え、企業と法務、経営戦略、システム戦略、システム開発などに関する内容を網羅している。本書は、前著「ITセミナー」をさらに進化させたものであり、情報技術を仕事に役立てられるようにすることを目指し、IT パスポート試験の過去問題に加え、日商 PC 検定試験の類似問題も掲載している。

(分担執筆：福永良浩、木下和也、赤松貴文、山本浩貴、坂本健成。

執筆ページ：pp144-222)

【論文】

○「LDAP サーバを用いた統合認証サービスの構築」

(九州栄養福祉大学研究紀要 第 8 号、平成 23 年 12 月)

本稿では、一般ユーザ向けに提供している各種サービスにおけるユーザ認証を一元化するとともに、一般ユーザによるパスワード変更を可能とするために導入した、LDAP による統合認証サービスの概要およびファイル共有サービスにおける LDAP 認証例について述べている。統合認証サービスの導入により、メールサービス、ファイル共有サービス、VPN サービスにおけるユーザ情報を LDAP サーバ上で一元管理できるようになったとともに、一般ユーザがすべてのサービスのパスワードを変更できるようになった。(pp101-117。)

○「オープンソース・ソフトウェア活用事例 9 -Web メールサービスの構築に向けたメールサーバの改良」

(東筑紫短期大学研究紀要 第 42 号、平成 23 年 12 月)

本稿では、Web メールサービスの導入に向けて行ったメールサーバの改良について述べている。これまでは POP によるメールの受信を前提としており、受信メールは各クライアント上で管理されていた。学外からのメールの送受信にも対応していたが、個別設定が必要であり、自身で設定を行えないユーザは、学外からメールを送受信することができなかった。今回の改良により、IMAP によるメールの受信および受信メールのサーバ上での管理が可能となり、Web メールサービスの導入準備が整った。

(萩原勇人、赤松貴文：pp11-20。共同研究につき本人担当部分抽出不可能)

○「インターネット VPN を用いたキャンパス間ネットワークの構築」

(九州栄養福祉大学研究紀要 第 9 号、平成 24 年 12 月)

本稿では、セキュアな拠点間ネットワークを安価に実現するインターネット VPN について述べている。VPN ソフトウェアである `vpnd` をソースコードからコンパイルして `floppyfw` の追加パッケージを作成することで、`floppyfw` を VPN に対応させることができた。これにより、月々のインターネット接続費用のみでセキュアな拠点間ネットワークを構築することが可能となった。

(pp105-117。)

○「オープンソース・ソフトウェア活用事例 10 -Roundcube を用いた Web メールサービスの構築-」

(東筑紫短期大学研究紀要 第 43 号、平成 24 年 12 月)

本稿では、初期設定を行うことなく学外からでもメールを読み書きできる Web メールサービスを構築するために行った、Roundcube の導入と改良について述べている。Roundcube は一般のメールクライアントソフトウェアと比較しても遜色ない操作性を備えた Web メールクライアントソフトウェアであるが、ソースファイルの修正やプラグインの導入を行うことで、さらに利便性を向上させることができた。Roundcube の導入により、学外からでも学内と同一環境でメールを読み書きできる Web メールサービスを提供することができた。

(萩原勇人、赤松貴文：pp159-175。共同研究につき本人担当部分抽出不可能)

○「IP カメラを用いたリモート監視システムの構築 1」

(九州栄養福祉大学研究紀要 第 10 号、平成 25 年 12 月)

本稿では、低コストで監視映像の表示・録画を行うことを目的に、IP カメラを用いた監視システムの構築について述べている。TENVIS 社製の IP カメラは一部機能を HTTP から利用可能であり、監視映像配信する RTSP サーバ機能を備えていることから、複数台の IP カメラを統合管理する Web アプリケーションを構築することができるはずである。本稿では、IP カメラから取得した監視映像を Web ブラウザ上に表示させるとともに、パン・チルトなどの制御、監視映像の録画を行えることを確認した。

(pp245-256。)

○「管理栄養士課程におけるリメディアル教育への取り組み」

(九州栄養福祉大学研究紀要 第 10 号、平成 25 年 12 月)

本稿では、2013 年度に試行的に実施した、初年次における補習授業をはじめとした取り組みについて述べている。本取り組みの目的は、専門課程の授業を理解するために必要な基礎学力を早期に身に付けさせること、および予習・復習を習慣化させることにある。これらの目標を達成するには学生自身に成功体験を実感させることが重要であると考え、「割合計算」に関する補習授業を実施した。加えて、自習教室の整備および復習用のドリルの準備を行った。本取り組み

みの結果、参加学生からは好意的な感想が寄せられるとともに、自習室を利用する学生の姿を多く見かけるようになるなど、一定の成果を上げることができた。

(赤松貴文、楠瀬千春、松本明夫、津田治敏、喜多大三、藤野博史：pp257-270。共同研究につき本人担当部分抽出不可能)

○「オープンソース・ソフトウェア活用事例 11 -LEAF Bering-uClibc を用いたファイアウォールの構築-

(東筑紫短期大学研究紀要 第 45 号、2014 年 12 月)

本稿では、永らく本学および併設校 東筑紫短期大学におけるファイアウォール OS であった floppyfw の開発停滞を受け、OS に LEAF Bering-uClibc を用いたファイアウォールの構築について述べている。LEAF Bering-uClibc は活発な開発が行われている OS であり、floppyfw と比較して、安全性、安定性、拡張性の高いファイアウォールを構築することができた。

(萩原勇人、赤松貴文：pp169-180。共同研究につき本人担当部分抽出不可能)

○「LEAF Bering-uClibc を用いたキャンパス間 VPN の構築」

(九州栄養福祉大学研究紀要 第 11 号、平成 26 年 12 月)

本稿では、floppyfw の開発停滞を受け、OS に LEAF Bering-uClibc を用いたルータによる VPN について述べている。専用線と比較すると安全性は劣るが、各拠点の ISP を統一し、拠点間通信にインターネットを経由しないようにすることで、できる限りセキュアで高速な拠点間ネットワークを安価に実現することができた。

(pp215-225。)

○「オープンソース・ソフトウェア活用事例 12 -ownCloud を用いたオンラインストレージの構築-

(東筑紫短期大学研究紀要 第 46 号、2015 年 12 月)

本稿では、教職員、学生の業務効率および作業効率の向上を図るため、ownCloud を用いたオンラインストレージサービスの構築について述べている。ownCloud は、商用のオンラインストレージサービスと同等の機能を有しており、Web ブラウザをはじめ、デスクトップクライアント、スマートフォンからアクセス可能である。ownCloud と LDAP サーバを連携させることで、本学教職員、学生は、その他の学内サービスと同じユーザ ID、パスワードでオンラインストレージサービスを利用できるようになった。

(萩原勇人、赤松貴文：pp147-160。共同研究につき本人担当部分抽出不可能)

○「IP カメラを用いたリモート監視システムの構築 2」

(九州栄養福祉大学研究紀要 第 12 号、2015 年 12 月)

本稿では、リモート監視システムを低コストで構築することを目標に、複数の IP カメラからキャプチャ画像を取得して表示する集中監視画面の構築、および特定の IP カメラのリアルタイム映像を取得して表示するライブ映像画面の構築を行った。異なる種類の IP カメラが混在することを想定したデータ構造とすることで、IP カメラの増設に対応可能な柔軟性のあるシステムとなった。
(pp219-227。)

- 主な社会活動
- ・北九州市立年長者研修大学校 周望学舎 研修会講師 (研修会)
主催 北九州市立年長者研修大学校 周望学舎 (平成 17 年 8 月)
北九州市立年長者研修大学校 周望学舎に在籍する年長者を対象に、「インターネット体験」、「メールの打ち方」と題した研修会を実施した。
(平成 18 年 8 月、平成 19 年 8 月にも同研修会を実施した。)
 - ・福岡市立粕屋東中学校 3 年生学年集会講師 (研修会)
主催 福岡市立粕谷東中学校 (平成 19 年 2 月)
高校進学を直前に控えた福岡市立粕谷東中学校 3 年生を対象に、「なぜ学ばなければならないのか」というテーマで講演を行った。

所属学会 計測自動制御学会

(平成 8 年 7 月～現在に至る)

原 口 明 子 HARAGUCHI Akiko 准教授

所 属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

担 当 科 目 [食物栄養学部 食物栄養学科]
公衆栄養学Ⅱ、調理学実習Ⅲ、公衆栄養学実習、臨地実習指導（演習）、
臨地実習Ⅱ（保健所・保険センター・病院・介護老人保健施設）、専門ゼミナールⅠ
管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ

専 門 分 野 複合領域、食教育、食習慣、食生活評価、栄養指導

最 終 学 歴 中村学園大学 家政学部 食物栄養学科 管理栄養士専攻
国立公衆衛生院 食物栄養学科

学 位 学士（食物栄養学）

職 歴 国立療養所東埼玉病院 事務部 庶務課栄養管理室栄養士として採用（昭和53年4月1日）
国立病院関東厚生局長より国立病院医療センター事務部庶務課栄養管理室栄養士配置換
（昭和56年4月1日）
九州厚生局長より国立療養所南福岡病院事務部庶務課栄養管理室栄養士配置換
（昭和59年2月1日）
九州厚生局長より国立病院九州がんセンター事務部庶務課栄養管理室栄養士主任昇任
（平成5年4月1日）
九州厚生局長より国立療養所大牟田病院事務部庶務課栄養係長昇任（平成14年12月1日）
国立病院は独立行政法人国立病院機構に引き継がれる（平成16年4月1日）
独立行政法人国立病院機構九州ブロック担当理事より独立行政法人国立病院機構大牟田病
院診療部循環器科栄養管理室主任栄養士に配置換通知（平成16年12月1日）
独立行政法人国立病院機構九州ブロック担当理事より独立行政法人国立病院機構肥前精神
医療センター内科部栄養管理室長昇任通知（平成20年4月1日）
独立行政法人国立病院機構九州ブロック担当理事より独立行政法人国立病院機構大牟田病
院内科部栄養管理室長に配置換（平成23年4月1日）
独立行政法人国立病院機構九州ブロック担当理事より独立行政法人国立病院機構東佐賀病
院内科部栄養管理室長に配置換（平成25年11月1日）
独立行政法人国立病院機構九州ブロック担当理事より独立行政法人国立病院機構東佐賀病
院内科部栄養管理室長で退職（平成27年3月31日）
九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 准教授（平成27年4月1日～現在に至る）

教育上の業績

- 独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター
認知症・高齢者対策研修会「高齢者の食事について」看護師50名対象に説明。
（平成22年10月）
【出張講演】
- 独立行政法人国立病院機構大牟田病院
福岡県山川公民館で循環器科赤崎医師「高血圧について」講演と原口栄養士「高血
圧の食事について」の講演。
対象は山川地区の保健指導の役員、参加者50名。高血圧に対する食事のとり方、お
いしく減塩食をとる方法など。（平成25年10月7日）
- 独立行政法人国立病院機構東佐賀病院
佐賀県三養基郡上峰町老人福祉センター「高齢者の食事について」地域ケア会議の
なかでの講演。看護師、保健師、ケアマネージャ民生委員を対象に嚥下、検査、食
形態、必要栄養量など専門的な内容で説明。参加者20名（平成25年11月8日）

○独立行政法人国立病院機構東佐賀病院
佐賀県三養基郡蓑原公民館で「メタボリックシンドロームについて」対象は70歳代20名。
内容は、メタボリックシンドロームの病態、検査、食事について分かりやすい例を示して説明。
(平成25年11月18日)

○独立行政法人国立病院機構東佐賀病院
佐賀県三養基郡石貝団地公民館で「高齢者の食事につて」対象は、70歳代、20名。
内容は、一般の方が対象なので簡単に分かりやすく、日頃の食事の注意点、栄養失調にならないように、嚥下、減塩など説明。
(平成26年1月22日)

○独立行政法人国立病院機構東佐賀病院
佐賀県三養基郡東分公民館で「メタボリックシンドロームについて」20名。
内容は、メタボリックシンドロームの病態、検査、食事について 分かりやすい例を示して説明。
(平成26年2月5日)

○独立行政法人国立病院機構東佐賀病院
佐賀県三養基郡みやき町保健センター「聞いただけ得する！糖尿病予防のための賢い食べ方」参加者20名糖尿病と食事の必要性、食品の取り方、間食について説明。
(平成26年10月16日)

○独立行政法人国立病院機構東佐賀病院
佐賀県鳥栖市グループホーム「高齢者の食事について」 保健指導の方対象20名。
高齢者の食事、嚥下食を含めて説明。
(平成26年11月19日)

○独立行政法人国立病院機構東佐賀病院
佐賀県三養基郡基山町役場保健センター「メタボリックシンドロームについて」
保健指導の方対象40名。病気と検査、食事のとり方について、おいしく取る方法について説明
(平成26年11月28日)

【公開講座】

○独立行政法人国立病院機構東佐賀病院
「糖尿病について」医師、「糖尿病に必要な検査について」検査技師「おいしく食べよう食事会」原口 500kcalの弁当を提供して、実際の必要量を体験。
食事を通して自分の食事を見直してもらうよう説明
(平成26年3月12日)

○独立行政法人国立病院機構東佐賀病院
「糖尿病の治療について」医師「薬について」薬剤師「糖尿病の食事の取り方について」栄養管理室長原口 500kcalの弁当を提供して実際の食事量を体験してもらう。
弁当を通して必要量を確認してもらう。食品、献立の注意点を説明。
(平成26年5月21日)

○独立行政法人国立病院機構東佐賀病院
「糖尿病の治療について」医師「フットケアについて」看護師「糖尿病の献立の立て方について」栄養管理室長原口 500kcalの弁当を提供。弁当を通して献立の立て方、食品の選び方を説明。食前、食後の血糖値を測定し比較検討行った。
(平成26年7月9日)

○独立行政法人国立病院機構東佐賀病院
「糖尿病の治療について」医師「糖尿病の運動について」理学療法士「糖尿病の献立の立て方について」栄養管理室長原口 500kcalの弁当を提供。弁当を通して献立の立て方、食品の選び方を説明。食前、食後の血糖値を測定し比較検討行った。
(平成27年2月18日)

主な研究活動

1. 「動く重症心身障害児（者）の食事基準を見直して～経過と今後の課題～」共著
新見真奈美、會田千重、浦村一秀、原口明子、山中理香、手塚加奈子

（第33回九州地区重症心身障害研究会 平成23年3月5日）

当院は「動く重症心身障害病棟」が開設してから37年になる。平均年齢が38～40歳と成人化している。生活習慣病の予防の為、平成20年7月に基準の見直しを行った。食事カロリーを2000kcalのみから、1500、1800、2000kcalの三段階とした。基準を三段階に変更しても低栄養になる人は少なかった。三ヶ月評価をしており、Alb値や体重の変動が多い方はその都度病棟、栄養、NSTでフォローしている。

2. 「当院におけるNS活動の現状と今後の課題」共著

伊藤千裕、原口明子、辻みどり、田中友梨、山口奈保子、荒畑創、赤崎卓、原田実根

（第27回日本静脈栄養学会学術集会静脈経腸栄養 507 Vol.27 No.1 2012

平成24年2月20日）

2009年7月よりNST委員会が発足し、同時にNST回診を開始、毎月2回行っている。NST介入件数についての集計とこれまでの活動や取組を計画し今後の課題について検討した。NST介入件数は年々増加しており介入後栄養的問題点が改善するなどの成果も上げている。今後は限られた時間の中での回診の効率化、栄養管理の質の維持、向上、中心静脈栄養、経腸栄養の適正使用の推進、処方設計の支援に積極的に介入したい。

3. 「非結核性抗酸菌患者の栄養状態に関する調査」共著

田中有梨、田邊佳那、辻みどり、渡邊和美、原口明子、森山耕成、榎早苗

（第66回国立病院総合医学会 平成24年11月17日）

p795 栄養と結核の間には双方向性の関係が明らかになっている。抗酸菌感染（NTM症）症患者の栄養に関する研究は十分に行われていない。NTM症は結核と異なり特効薬がなく、その管理における栄養に意義は結核よりもむしろ大きい可能性がある。大牟田病院は多くのNTM症の診断が行われているがやせた患者が多い印象がある。そこでNTM症患者の栄養状態を明らかにすることを目的とした。結果のまとめとして一部発表した。

4. 「長期経管栄養デュシェンヌ型筋ジストロフィー患者におけるカルニチン欠乏について」共著

上野佳代子、田邊佳那、辻みどり、原口明子、荒畑創

（第28回日本静脈栄養学会学術集会静脈経腸栄養 443 Vol.28 No.1 2013

平成25年2月21日）

原因不明の動悸や低血糖症状が出現した長期

経管栄養中のデュシェンヌ型筋ジストロフィー（DMD）患者で、カルニチン欠乏を経験したので報告する。カルニチンを投与することで、低血糖及び心機能の改善が見られた。DMD患者の長期経管栄養にカルニチン欠乏は、低血糖や心機能に影響することが示唆された。今後は低血糖症状や心機能低下に注意する、カルニチン配合の経腸栄養剤も選択肢の一つと考える必要あると思われた。

5. 「統一した二段階の粘度の汁物を提供するための取組」共著

千上みどり、田邊佳那、上野佳代子、原口明子

（九州国立栄養協議会第11回栄養管理学会 平成25年10月5日）

当院は嚥下造影検査（以下VF検査）を行い、液体にとろみが必要な患者様については、二段階で評価を行っている。VF検査の結果を踏まえ、汁物においても適切な粘度でのとろみ付与が必要であるが、VF検査の結果に合わせた二段階の汁物の粘度を決定する為に、Line Spread Testを用いて検討を行った。基準を数値化できるLST法を用いることは有用であり、基準の粘度を作り、調理師でも粘度を統一することができた。

6. 「長期経管栄養中の神経筋患者におけるカルニチン欠乏の現状」共著

上野佳代子、田邊佳那、千上みどり、原口明子、藤本雄一、荒畑創

（九州国立栄養協議会第11回栄養管理学会 平成25年10月5日）

・長期経管栄養中の筋萎縮のある神経筋疾患患者と萎縮のない神経疾患での血清遊離

カルニチン濃度の比較検討を行ったので報告する。筋萎縮のある神経筋疾患患者においては、筋萎縮を来さない患者に比べ早期に血清遊離カルニチン濃度が低下することが示唆された。今後長期的に経管栄養が必要な筋萎縮の患者に対しては、カルニチンの内服だけでなくカルニチン配合の経腸栄養剤の使用も選択肢の一つと考えていく必要があると思われた。

7. 「長期経管栄養中の神経筋患者におけるカルニチン欠乏の現状」 共著
上野佳代子、田邊佳那、千上みどり、原口明子、藤本雄一、荒畑創
(九州国立栄養協議会第11回栄養管理学会 平成25年10月5日)
・長期経管栄養中の筋萎縮のある神経筋疾患患者と萎縮のない神経疾患での血清遊離カルニチン濃度の比較検討を行ったので報告する。筋萎縮のある神経筋疾患患者においては、筋萎縮を来さない患者に比べ早期に血清遊離カルニチン濃度が低下することが示唆された。今後長期的に経管栄養が必要な筋萎縮の患者に対しては、カルニチンの内服だけでなくカルニチン配合の経腸栄養剤の使用も選択肢の一つと考えていく必要があると思われた。
8. 「体重減少、増加を伴った誤嚥性肺炎を繰り返すパーキンソン病患者における経腸栄養剤投与の一例」 共著
原口明子、田邊佳那、千上みどり、上野佳代子
(第39回福岡県栄養改善学会 平成25年11月8日)
2009年7月より全科型NSTが稼働。NST入依頼は経腸栄養投与に関連した物が多いがNST介入により経腸栄養剤変更を試み栄養状態改善に繋がった症例を経験したので報告する。適正栄養投与にもかかわらず栄養状態改善が見られなかった症例に呼吸障害、消化管機能低下対応の消化態栄養剤を用いたことで体重増加等の栄養改善が顕著に見られた。合併症リスク回避の為に対象者にあった栄養剤選択により良好な経過が得られた。
9. 「統一した二段階の粘土にするための汁物を提供するための取組について～調理師の立場から～」 共著
野田広行、森博文、栗山隆尚、住吉秀行、弓削孝幸、真崎奏大、野田敏春、成田博、田邊佳那、千上みどり、上野佳代子、原口明子
(第67回国立病院総合医学会 p634 平成25年11月8日・9日)
当院は嚥下造影検査(以下VF検査)を行い、液体にとろみが必要な患者様については、二段階で評価を行っている。VF検査の結果を踏まえ、汁物においても適切な粘度でのとろみ付与が必要であるが、VF検査の結果に合わせた二段階の汁物の粘度を決定する為に、Line SpreadTestを用いて検討を行った。基準をデジタル化できるLST法を用いることは有用であり、基準の粘度を作り、調理師でも粘土を統一することができた。
10. 「非結核性抗酸菌患者における栄養摂取量及び栄養状態と予後の関係」 共著
上野佳代子、千上みどり、田邊佳那、原口明子、熊副洋幸、槇早苗、永田忍彦、若松謙太郎
(第67回国立病院総合医学会 p448 平成25年11月8日・9日)
非結核性抗酸菌症(以下NTM症)患者の栄養摂取量及び栄養状態と予後の関係について解明する。対象は当院の2010年5月から2011年8月までに登録された症例97症例に内、2年以上経過観察できた患者男性15名、女性53名。今回の検討により十分な栄養摂取ができていないことは、栄養状態、NTM症を悪化させる因子の一つになっている可能性が示唆された。必要栄養量を取るために食事の工夫を提案する必要がある。
11. 「統一した二段階の粘土の汁物を提供するための取組について」 共著
千上みどり、田邊佳那、上野佳代子、原口明子
(第67回国立病院総合医学会 p847 平成25年11月8日・9日)
当院は嚥下機能検査を行い液体にとろみが必要な患者様については、二段階で評価を行っている。VF検査の結果に合わせた二段階の汁物の粘土を決定するために、Line SpreadTestを用いて検討を行った。基準をデジタル化できるLST法を用いることは有用

であり、基準の粘笮を調理師でも統一しうることが出来た。

12. 「重症心身障害児（者）の病棟配膳から中央配膳を体験して」共著

原口明子、久保葵、松川麻梨子、古賀友里恵

(第37回九州地区重症心身障害研究会 平成27年3月)

当院は昭和44年より重症心身障害児（者）の中央配膳をお行っていたが病棟の老朽化を期に新病棟が建設された。これを期に病棟配膳から中央配膳をすることになったが、厨房の新築が出来ずに、職員の増員もなかった中で病院の職員全体の協力、調理師の考えの変化があり2014.3.3から中央配膳を行うことが出来た。病棟配膳から中央配膳にすることで患者の栄養状態の確認まで行ったので報告する。

資 格 等	栄養士	(昭和52年4月12日)
	管理栄養士登録	(平成9年8月5日)
	実践栄養指導講座終了	(平成11年8月2日)
	福岡糖尿病療養指導士認定証	(平成14年6月1日)
	福岡県栄養士会生涯学習・3年研修コース修了証	(平成18年4月1日)
	病態栄養専門師認定(日本病態栄養学会)	(平成20年1月24日)
	管理栄養士特定技能派遣研修会終了証書(独立行政国立病院機構)	(平成23年3月)
	NST40時間実習研修終了(日本病態栄養学会)	(平成23年7月1日)
	医療安全管理研修修了証(独立行政法人国立病院機構大牟田病院)	(2013年2月15日)
	在宅訪問管理栄養士登録	(平成26年4月)
平成27年度倫理委員会受講証	(平成28年3月25日)	
所 属 学 会	全国国立病院管理栄養士協議会会員	(昭和53年～平成27年)
	日本栄養士会会員	(昭和56年～現在に至る)
	日本改善学会会員	(昭和56年～平成25年)
	日本病態栄養学会会員	(平成15年～現在に至る)
	日本静脈栄養学会会員	(平成17年～現在に至る)
	日本在宅栄養管理学会会員	(平成26年～現在に至る)
受 賞 歴	厚生労働大臣より20年以上勤務表彰	(平成11年1月11日)
	福岡県栄養士会会長表彰	(平成12年9月12日)
	独立行政法人国立病院機構理事長より30年以上勤務表彰	(平成20年4月1日)
	福岡県栄養士会総会・議長	(平成22年5月)
	全国国立病院機構栄養士協議会感謝状	(平成26年9月6日)

倉崎信子 KURASAKI Nobuko 准教授

所属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

担当科目 [食物栄養学部 食物栄養学科]

健康スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ、運動生理学、運動処方論

キャリアガイダンスⅡ、専門ゼミナールⅡ、管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ

卒業論文

[東筑紫短期大学 食物栄養学科]

運動生理学

専門分野 健康科学、健康心理学

最終学歴 日本体育大学大学院 体育学研究科 健康科学専攻

(平成2年4月～平成4年3月 体育学修士)

久留米大学大学院 比較文化研究科 前期博士課程心理学専攻

(平成4年4月～平成6年3月 文学修士)

学位 博士(医学)

修士(体育学、文学)

職歴 ○ 久留米大学 医学部薬理学教室 助手 (平成6年4月～平成19年3月)

○ 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 講師

(平成19年4月～平成28年3月)

○ 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 准教授

(平成28年4月～現在に至る)

教育上の業績 (1) 文部科学省新体力テストを1年次および4年次の授業において継続的に導入し、これらの基礎資料を健康教育に活用することで、学生自身の健康や体力に関する情報の管理活用能力や専門職への意識を高めることに貢献している。

主な研究活動 【著書】

○ 「泣くとストレスが緩和するか なぜ泣くの；涙と泣きの大研究」

(朝日新聞社発行 62-77)

涙を出すこと泣くことは、ストレス(ストレス原因)の悪影響を低減させ、ストレスを解消するのに本当に有効なのだろうかとする仮説を検証するための第一歩として日本と韓国の大学生を対象に実施した『涙と泣き』に関する現象の調査結果について述べるとともに、ストレスを緩和する要因としての泣く事の意義について考察した。また心因性の涙を促す場面を実験的に設定し、カオスアトラクターを用いて自律神経系の変化を調べた。(津田彰、原口雅浩、尾関友佳子、倉崎信子)

○ 「不安研究における動物モデルの役割」(心理学評論 36(1):50-63.1993)

防御性覆い隠し反応モデルを利用して、役割ストレスによる不安の形成と発現の生物学的基礎過程を解明する行動神経科学的研究を介し、不安の動物モデルの目的と役割などについて考察した。さらに実験的に現実生活で見られる不安に近い状態を喚起させ、その際の不安の発現と関連する脳内 NA 神経系の神経科学的变化について明らかにし行動学的変化の対応について検証した。

(津田彰、尾関友佳子、倉崎信子)

○ 「ストレスコーピングの心理・生物的相関」(脳と精神の医学 5(2):149-157)

近年のストレスのトランスアクションな理論によるストレスコーピング過程のメカニズムを解明するために、動物の問題焦点型コーピングと情動焦点型コーピングと相関する心理・生物的ストレス反応を分析した。ストレスを低減するうえで効果的である絶対的なコーピングは存在しない。またコーピング反応と行動異常

とを区別する境界線は不明瞭である。ある1つのコーピングの側面でも適応的であるとする考え方をあらためる必要があると考えられる。

(津田彰、尾関友佳子、倉崎信子)

○「ストレスの神経科学のおよび神経薬理学的研究」

(ストレス科学 10 (1) 70-75 1995)

ストレス研究は最近、極めて学際的になってきたためその研究法も多岐にわたっている。ストレスが中枢神経系にどのような影響を及ぼすかを神経科学的にとらえていくための方法論について述べた。ストレスの神経科学的研究法としてはどのようにストレス状況を設定するかということと生じた神経科学的現象をどのような指標としてとられていくかが大きな決め手となることが示唆された。

(田中正敏、吉田真美、横尾秀康、田中隆彦、江本浩幸、溝口克弘、石井秀夫、倉崎信子)

【学術論文】

○「月経周期に伴うメンタル・ストレス反応の変化」

(久留米医学会雑誌 69 : 14-23 2006)

月経周期の卵胞期と黄体期それぞれにメンタルテストを負荷し、唾液中 MHPG、コルチゾール、HVA 濃度を測定し、これらと精神的健康度や POMS との関連についても検討した。POMS の「緊張-不安」「活気」の高い群は低い群に比べて黄体期でより高いストレス反応を示した。ストレス反応は月経周期、つまり卵胞期か黄体期によって異なり、さらにコルチゾール、HVA 濃度の変化はメンタルストレスの課題の質にも影響されることが示唆された。

○「新体力テストからみた本学学生の体力と生活習慣について」

(九州栄養福祉大学研究紀要 第4号 平成19年12月)

一般大学生の運動部学生のコンデショニングにおける BCAA 摂取の影響を検討するために、唾液中コルチゾール濃度、s-IgA 濃度の変化について調べ、さらに主観的な気分の変化との関連性についても調べた。s-IgA 濃度と気分の変化には負の相関がみられ、健康状態やコンデショニングの客観的な指標として有用であることが示唆された。また「抑うつ-落ち込み」「混乱」のスコアの減少から血中 BCAA 濃度を正常に保つことは精神的なコンデショニングにも極めて重要であることが明らかになった。

○「新体力テストからみた本学生の体力と運動習慣について」

(九州栄養福祉大学研究紀要 第6号 平成21年12月)

本学学生における新体力テストの横断的資料を用いて身体的特徴および体力レベルを把握するとともに、運動習慣との関連について検討した。全身持久力、筋力、筋持久力を捉える項目で運動実施頻度および運動実施時間が減少するほど有意に劣ることが示唆された。また体力の向上には現在および中学時の運動経験がより強く関連することより、運動習慣の停滞を防ぐためにも体育教科では身体教養教育システムを活用した授業を展開する必要があると考えられる。

○「女子大学生における健康行動と健康リスク意識」

(九州栄養福祉大学研究紀要 第7号 平成22年12月)

青年期における望ましい健康行動の確立は生活習慣病予防への準備という視点からも重要である。よって本学学生の健康行動と健康リスク意識について検討した結果、学年における健康行動の実行率の相違は社会規範やライフスタイルが関係して事が示唆され、また健康リスク意識については、運動不足に関する健康教育はまだ不十分であることが顕著となった。さらに健康行動と健康リスク意識との関連についてはリスクファクターへの気づきが望ましくない行動の実行率の低さに結びついており、複雑な要因が影響していることを追認した。今後、健康リスク意識の有無による健康行動の実行率の相違について影響を与えている要因や行動を促進する心理社会的な要因についても検討を深め有用な健康教育プログラムを構築していく必要があるだろう。

- 「大学生におけるヤマブシタケの睡眠改善効果」
 (九州栄養福祉大学研究紀要 第10号 平成25年12月)
 大学生の健康行動に着目すると睡眠問題を経験している学生の割合が増加傾向にある。ストレスの低減は睡眠の質を改善するため、抗ストレス作用のあるヤマブシタケ摂取が睡眠に及ぼす影響についてNA代謝産物であるMHPG含量および質問紙を用いて検証した。MHPG濃度は睡眠の質に関わる主観的評価をより反映していることが示唆され、また睡眠の質に悪影響を与えている「不安」の低減に有用な効果がみられた。よってヤマブシタケ摂取は学生の健康増進に寄与する1つの手段となることが期待される。
- 「カテキン・還元型コエンザイム Q10 含有飲料摂取が運動時代謝に及ぼす影響」
 (九州栄養福祉大学研究紀要 第11号 平成26年12月)
 国民の健康づくりへの意識や健康行動変容が向上し、機能性食品の効果や運動との関連について関心が高まっている。よって生活習慣病予防としての健康教育の一助となる機能性食品の活用が運動時のエネルギー代謝に及ぼす影響について検証した。カテキン・還元型コエンザイム Q10 含有飲料摂取は体組成に有意な変化は認められなかったが、カテキンと還元型コエンザイム Q10 の同時摂取は運動時の骨格筋において脂質代謝を亢進させ、有酸素作業能を向上させることが示唆された。また身体疲労を抑制する可能性が見られたことより、生活習慣改善における身体活動量の増加に役立つことが考えられる。
- The effects of *Hericium erinaceus* (Amyroban3399) on sleep quality and subjective well-being among female undergraduate students: A pilot study
 (Personalized Medicine Universe 4(7) 76-78.2015)
 This pilot study assessed the effects of 4 weeks of administration of Amyroban 3399 on subjective well-being and sleep quality in female undergraduate students. The results revealed an increase in salivary free-MHPG, which corresponded to an improvement in anxiety and quality of sleep. Thus, we conclude that one of the possible effects of Amyroban 3399 is to balance out the mind and body. In the future, we will need to study the effects of Amyroban 3399 on sleep quality and everyday work, using a larger number of student participants.

主な社会活動

- ・東筑紫学園のキャンパスで学ぶ周望学舎シニアカレッジ (平成19年、平成20年)
 北九州市内在住の60歳以上の方 約60名の受講者を対象として「健康いきいきー食事と運動ーパート2」、「楽しい筋力トレーニングのすすめ」をテーマに健康維持、増進を目的としたレジスタンス運動や柔軟体操を実施し、安全でより高い効果が得られるよう指導を行った。
- ・福岡県立戸畑高等学校家庭クラブ研修会 (平成20年、平成21年9月)
 福岡県立戸畑高等学校1、2学年生徒(514名)を対象に「スポーツと栄養」についての研修会において講師を務めた。
- ・北九州市立大学野球部栄養サポート (平成19年～20年)
 ゼミ活動の一環として野球部員の栄養サポートを行った。また20年にはコンディショニングにおけるBCAA摂取の影響を調査し検証した。
- ・福岡県立戸畑高等学校野球部栄養サポート (平成21年5月～12月)
 ゼミ活動の一環として生徒の栄養サポートおよび保護者会における栄養教育を行った。

- ・折尾愛真高等学校女子新体操部栄養サポート (平成 22 年 5 月～2 月)
ゼミ活動の一環として新体操部員の栄養サポートを行い、またウエイトコントロール期におけるコラーゲンペプチド飲料摂取のストレス緩和効果を調査し検証した。
- ・福岡県立小倉西高等学校野球部栄養サポート (平成 23 年 5 月～2 月)
ゼミ活動の一環として野球部員の栄養サポートを行った。
- ・豊国学園高等学校サッカー部栄養サポート (平成 24 年 5 月～平成 27 年 1 月)
ゼミ活動の一環としてサッカー部員の栄養サポートならび保護者における栄養教育を行った。
- ・福岡県立小倉西高等学校野球部栄養サポート (平成 27 年 5 月～平成 28 年 1 月)
ゼミ活動の一環として野球部員の栄養サポートを行い、栄養教育の重要性を確認し、またスポーツ貧血における鉄グミサプリメントの有用性を検証した。

所 属 学 会	日本体力医学会	(平成 12 年～現在に至る)
	日本健康心理学会	(平成 16 年～現在に至る)
	日本心臓リハビリテーション学会	(平成 19 年～現在に至る)
	日本スポーツ栄養学会	(平成 20 年～現在に至る)

後藤菜穂子 GOTO Naoko 准教授

所属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科
担当科目 給食管理、給食管理実習、応用栄養学実習、キャリアガイダンスⅡ
臨地実習指導（演習）、臨地実習Ⅲ（特定給食施設）、管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ
専門分野 給食管理、給食経営管理
最終学歴 奈良学園大学 奈良文化女子短期大学 食物栄養学科
学位 短期大学士
職歴 財団法人厚生年金事業団 湯布院厚生年金病院 栄養部
(昭和 57 年 4 月～平成 26 年 3 月)
独立行政法人地域医療機能推進機構 湯布院病院 統括診療部内科診療
(平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月)
九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 准教授
(平成 28 年 4 月～現在に至る)

教育上の業績 ○別府大学食物栄養学科「総合マネジメント演習」・「給食経営管理論講師」
(平成24年度～平成26年度)
○高齢者食支援栄養ケアチーム指導者 (平成24年10月)
○福岡県老健福祉施設協議会講師 (平成24年10月)
○大分県管内保健所嚥下食指導講師 (平成25年4月～平成26年3月)
○大分県回復期リハビリテーション病院協議会講師 (平成25年4月～平成26年3月)
○大分県地域包括ケア推進食支援連携プロジェクトチーム講師 (平成26年4月～平成28年3月)

主な研究活動 ○日本健康・栄養システム学会臨床栄養師認定論文
『当該施設における栄養ケア・マネジメントに関するシステムの継続的改善とその評価
に関する考察』(2010.6)

○全国回復期リハビリテーション・ケア合同研究会発表
『回復期リハ病棟における副食形態の導入前後の評価と課題』(2011. 10)

○第 49 回糖尿病学会九州地方会発表
『糖尿病外来における実食型栄養指導の取り組み』(2011. 10)

○第 50 回糖尿病学会九州地方会発表
『2 型糖尿病患者リハビリテーション栄養と管理栄養士の関わり』(2012. 10)

○第 30 回日本静脈経腸栄養学会学術集会発表
『当院整形外科における術前術後の NST 介入による栄養管理の現状』(2015.2)

主な社会活動 ・糖尿病療養指導士として地域糖尿病予防推進活動において食事・栄養指導を実施する。
(平成 18 年 4 月～平成 28 年 3 月)
・市民公開講座 脳卒中予防の食事他。(平成 25 年 4 月～平成 28 年 3 月)

所 属 学 会	日本栄養士会会員	(昭和 57 年～現在に至る)
	日本健康・栄養システム学会会員	(平成 17 年～現在に至る)
	日本摂食・嚥下学会員	(平成 17 年～現在に至る)
	日本静脈経腸栄養学会員	(2010 年～現在に至る)
受 賞 歴	大分県栄養士会会長表彰	(平成 18 年 4 月)
	財団法人厚生年金事業団病院長表彰	(平成 24 年 4 月)

安 倍 ち か ABE Chika 准教授

所 属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科
担 当 科 目 児童・生徒の栄養指導Ⅰ・Ⅱ、栄養教育論実習Ⅰ
栄養教育実習事前・事後指導、栄養教育実習、教職実践演習（栄養教諭）
専 門 分 野 学校栄養教育（栄養教諭）
最 終 学 歴 山口女子大学（現：山口県立大学）家政学部 食物栄養学科
学 位 学士（家政学）
職 歴 田川郡糸田町立糸田小学校 技師（昭和61年4月～平成7年3月）
田川郡赤池町立市場小学校 主任技師（平成7年4月～平成16年3月）
福岡県教育庁筑豊教育事務所 主任技師（平成16年4月～平成17年3月）
福岡県教育庁 教育振興部 スポーツ健康課 技術主査（平成17年4月～平成19年3月）
福岡県教育庁 教育振興部 体育スポーツ健康課（課名変更）指導主事（平成19年4月～平成23年3月）
田川郡糸田町立糸田小学校 栄養教諭（平成23年4月～平成28年3月）
九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 准教授
○教職に関する専門教育科目 担当（平成28年4月～現在に至る）

教育上の業績 ○学校栄養職員の新規採用研修・5年次研修・10年次研修の企画、運営及び指導（平成17年4月～平成23年3月）
○福岡県の栄養教諭・学校栄養職員研修会の企画、運営及び指導（平成17年4月～平成23年3月）
○福岡県学校料理コンクールの企画・運営（平成17年4月～平成23年3月）
○第57回全国学校給食研究協議大会（福井大会）で指導助言（平成18年）
○福岡県の栄養教諭の免許の認定講習「栄養教育実習」の企画・運営（平成19年）
○第59回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会（福岡大会）の企画・運営等、指導（平成20年）
○文部科学省「学校給食摂取基準策定に関する調査研究協力者会議」委員として、学校給食の栄養管理の基準となる「児童生徒の学校給食摂取基準」の策定に参画（平成21年4月～平成23年3月）
○文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議」マニュアル作成ワーキンググループ委員として「学校給食調理従事者研修マニュアル」の作成に参画（平成23年4月～平成24年3月）

主な研究活動 【著書】共書
○「学校給食ハンドブック―管理運営編―」改訂版の編集（平成22年4月）
福岡県教育委員会・（財）福岡県学校給食会（現：公益財団法人）

学校給食を管理運営するために必要な基礎・基本（事務管理・施設設備管理・栄養管理・衛生管理・物資管理等）を掲載した内容

- 「学校給食調理従事者研修マニュアル」文部科学省（再掲）（平成24年3月）
調理従事者対象の研修を担当する指導者用のためのマニュアルで、学校給食における衛生管理について科学的根拠をもとに標準的手法を示した内容
文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者マニュアル作成ワーキンググループ委員」としてマニュアルを作成。
- 「よくわかる栄養教諭—食育の基礎知識— 第二版」 同文書院（平成28年4月）
編著 藤澤良知・芦川修貳・古畑公・田中弘之・田中延子
著 土谷政代・太田裕美子・白尾美佳・亀田明美・守田真里子・登坂三紀夫
山口蒼生子・梅垣敬三・小河原佳子・堤ちはる・原ゆみ・安倍ちか
12章3節 学校給食で伝えたい食文化 p267～270

【教育論文】

- 福岡県教育論文「自ら健康を考え実践する子どもを育てる学校栄養職員の在り方」
食の専門性を効果的に活かした学習指導の計画の作成及び指導方法の工夫等について研究。（平成14年9月）

【学会発表等】

- 第53回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会（東京大会）における研究発表
「学校給食摂取基準の考え方に基づいた栄養管理の在り方」（平成24年8月）
- 平成25年度福岡県栄養士大会・第39回福岡栄養改善学会における研究発表
「児童・生徒の実態に応じた学校給食における栄養管理の在り方」（平成25年9月）
- 福岡県栄養士会 実務講習会 生涯教育研修会における事例発表
「学校における食物アレルギーの対応について」（平成26年10月）

- 社 会 活 動
- ・第8回福岡県歯科保健研究大会特別講演「食に関する指導の充実」（平成14年10月）
 - ・PTA 学校給食教室の講師（福岡県教育委員会・福岡県学校給食会（現：公益財団法人）（平成17年～平成22年）
 - ・食生活改善推進員対象の研修会（福岡県）（平成22年11月）
 - ・食育の推進実践セミナーの講師（福岡県栄養士会主催）（平成24年11月）
 - ・学校給食関係研修会等の講師（平成16年～現在に至る）

所 属 学 会 日本栄養士会（昭和62年4月～現在に至る）

受 賞 歴 平成27年度 福岡県公立学校優秀教職員表彰 福岡県教育委員会（平成28年1月）
平成27年度 文部科学大臣 優秀教職員表彰（平成28年1月）

中野敬子 NAKANO Keiko 講師

所属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

担当科目 臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学Ⅲ、
臨床実習指導（演習）、臨床実習Ⅰ（病院・介護老人保健施設）、専門ゼミナールⅠ
管理栄養士演習Ⅰ・Ⅱ

専門分野 臨床栄養学、管理栄養士・栄養士における関連業務についての指導

最終学歴 中村学園大学 家政学部 食物栄養学科

学位 学士（食物栄養学）

職歴 行橋記念病院（昭和53年4月～平成10年3月）
筑豊労災病院（平成10年4月～平成20年3月）
九州労災病院勤労者予防医療センター（平成20年4月～平成21年3月）
東筑紫短期大学 食物栄養学科 講師（平成21年4月～平成23年5月）
嘉麻市役所（平成24年11月～平成26年3月）
九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 講師
（平成26年4月～現在に至る）

主な社会活動

- ・看護専門学校 非常勤講師
看護学生を対象に、栄養学についての講義および調理実習
- ・地域糖尿病療養指導士認定試験講師
糖尿病患者の指導を行う病院施設等のスタッフを対象に、福岡県が行っている
地域糖尿病療養指導士認定試験のための講義
- ・糖尿病患者会への支援
研修会・料理教室・糖尿病フェア開催、ウォークラリー引率、会誌の発行等
- ・冊子「高障協ふくおか」投稿
健康的な食生活を行うための食事摂取について解説
- ・子育て支援事業
東筑紫短期大学附属幼稚園の園児・保護者を対象に、食育の一環としての調理
実習
- ・管理栄養士国家試験対策講座講師（食物栄養学科生涯学習）
担当科目：「応用栄養学」、「臨床栄養学」

所属学会 日本病態栄養学会（平成11年～現在に至る）
日本糖尿病学会（平成15年～現在に至る）
日本栄養改善学会（平成26年～現在に至る）

受賞歴 福岡県栄養士会会長表彰（平成8年）
日本栄養士会会長表彰（平成13年）
福岡県知事感謝状（平成20年）

川 下 剛 KAWASHITA Takeshi 講師

所 属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

担 当 科 目 [食物栄養学部 食物栄養学科]
実用英語の基礎Ⅰ・Ⅱ、実用英語Ⅰ・Ⅱ、キャリアガイダンスⅡ
〔リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科〕
実用英語の基礎Ⅰ・Ⅱ
〔東筑紫短期大学 保育学科〕
英語Ⅰ・Ⅱ

専 門 分 野 アメリカ文学

最 終 学 歴 九州大学大学院人 文科学府英語学・英文学専修博士課程単位取得退学
学 位 修士（文学）

職 歴 筑紫女学園大学 非常勤講師 (平成17年4月～平成23年3月)
専門学校福岡カレッジ・オブ・ビジネス (平成23年4月～平成26年1月)
近畿大学 非常勤講師 (平成24年4月～平成26年3月)
九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 講師
(平成26年4月～現在に至る)

教育上の業績 ○九州栄養福祉大学においてクラス担任、リメディアル委員、図書委員、学生委員等の学内委員を兼務

主な研究活動 ○Genealogy of a History for Children: Politics and Target Reader in *The Whole History of Grandfather's Chair* (論文)
(『九州アメリカ文学』47号 平成18年11月)

○曲がった杖—Hollingsworth をめぐる Brook Farm 批判 (発表)
日本ナサニエル・ホーソーン協会第24回全国大会 (平成17年5月)

○“The Wedding Knell” におけるイメージの美学 (発表)
第35回日本ナサニエル・ホーソーン協会九州支部研究会 (平成21年6月)

○若き日のホーソーン (発表)
第56回日本ナサニエル・ホーソーン協会九州支部研究会 (平成26年9月)

○「婚礼の吊鐘」におけるイメージの美 (論文)
(九州栄養福祉大学研究紀要第11号 平成26年12月)

○The Man of Adamant とレイシストの諧謔 (発表)
第59回日本ナサニエル・ホーソーン協会九州支部研究会 (平成27年7月)

○管理栄養士課程における日本語教育への取り組み (論文)
(九州栄養福祉大学研究紀要第12号 平成27年12月)

○The Man of Adamant とレイシストの諧謔 (論文)
(九州栄養福祉大学研究紀要第12号 平成27年12月)

○“Hawthorne and His Mosses” と “Night Sketches” (研究ノート)
(『ホーソーン研究』3 平成28年1月)

所 属 学 会	日本ナサニエル・ホーソン協会 九州支部研究会	(平成 14 年～現在に至る)
	日本ナサニエル・ホーソン協会	(平成 17 年～現在に至る)
	九州アメリカ文学会	(平成 18 年～現在に至る)
	北九州アメリカ文学研究会	(平成 26 年～現在に至る)

南 育 子 MINAMI Ikuko 助教

所 属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

担 当 科 目 [食物栄養学部 食物栄養学科]

キャリアガイダンス I、基礎化学、微生物学、食品衛生学、食品衛生学実験、
食品学実験 I、管理栄養士演習 I・II

[リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科]

基礎化学

専 門 分 野 食品学、食品衛生学、栄養学

最 終 学 歴 岡山大学大学院 自然科学研究科博士後期課程バイオサイエンス専攻

(平成 20 年 4 月～平成 24 年 3 月)

学 位 博士 (農学)

職 歴 岡山大学大学院 環境生命科学研究科 博士研究員

(平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月)

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 助教 (平成 25 年 4 月～現在)

教育上の業績 ○九州栄養福祉大学において、クラス担任、リメディアル教育委員、入学前教育
担当、国家試験対策担当等の学内委員を兼務

主な研究活動 1. 「低酸素ストレスに対するイネの初期応答遺伝子群の解析」

大塚智恵、南育子、小田賢司

岡山県生物科学総合研究所 (現：岡山県農林水産総合センター生物科学研究所)

平成 18 年研究年報: 45-48. 2007.

2. Hypoxia-inducible genes encoding small EF-hand proteins in rice and
tomato. C. Otsuka, I. Minami, K. Oda.

(Biosci. Biotechnol. Biochem. 74: 2463-2469. 2010.)

3. Allyl isothiocyanate (AITC) induces stomatal closure in Arabidopsis. Md. A.
R. Khokon, I. Minami (6 番目), Y. Nakamura, and Y. Murata (計 10 名) .

(Plant Cell Environ. 34: 1900-1906. 2011.)

4. Effect of γ irradiation on the fatty acid compositions of soybean and soybean
oil. I. Minami, Y. Nakamura, S. Todoriki, and Y. Murata.

(Biosci. Biotechnol. Biochem. 76: 900-905. 2012) .

5. Catalases CAT1 and CAT3 Are not Key Enzymes in Alleviating Gamma
Irradiation-Induced DNA Damage, H₂O₂

Accumulation, or Lipid Peroxidation in Arabidopsis thaliana. A. Sultana, I.
Minami, Y. Nakamura, S. Todoriki, and Y. Murata.

(Biosci. Biotechnol. Biochem. 77: 1984-1987. 2013.)

6. Effects of γ Irradiation on Larval and Adult Stages of *Tribolium castaneum*
(Red Flour Beetle). A. Sultana, I. Minami, R. Ichiba, M. Issak, M. Tada,

Y. Nakamura, T. Miyatake, S. Todoriki, and Y. Murata.

(Food Irradiation, Japan. 48: 19-23. 2013.)

7. Catalase, CAT2, is not involved in mitigation of gamma irradiation-induced H₂O₂ accumulation or lipid peroxidation in *Arabidopsis thaliana*. A. Sultana, I. Minami, D. Matsushima, M. Issak, Y. Nakamura, S. Todoriki, and Y. Murata.

(Food Irradiation, Japan. 48: 38-41. 2013.)

8. 「管理栄養士養成課程における食品照射についての教育」 南育子
(食品照射. 49: 41-45. 2014.)

主な社会活動

1. 「食品衛生カレッジモニター」
(北九州市保健福祉局生活衛生課主催「食品の安全に関するリスクコミュニケーション事業」) (2014年9月、2015年9月)
2. 佐賀県基山町第六次産業化「エミュー飼育による町の特色と町おこし」に係るエミューオイルの分析 (2015年1月～現在に至る)

所属学会

- | | |
|-------------|-----------------|
| 日本栄養・食糧学会 | (平成 22 年～現在に至る) |
| 日本農芸化学会 | (平成 24 年～現在に至る) |
| 日本栄養改善学会 | (平成 24 年～現在に至る) |
| 日本食品科学工学会 | (平成 25 年～現在に至る) |
| 日本食品衛生学会 | (平成 25 年～現在に至る) |
| 日本食品照射研究協議会 | (平成 25 年～現在に至る) |
| 日本食品化学学会 | (平成 27 年～現在に至る) |
-

室井由起子 MUROI Yukiko 助教

所属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

担当科目 [食物栄養学部 食物栄養学科]

調理学実習Ⅲ、栄養士のための農園演習、スポーツ栄養学

[リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科]

食と農園

[東筑紫短期大学 保育学科]

子どもの食と栄養

専門分野 管理栄養士養成、スポーツ栄養学

最終学歴 福岡教育大学大学院 教育学研究科教育科学専攻 保健体育コース

学位 修士(教育学)

職歴 医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院 管理栄養士

(平成20年4月～平成22年3月)

学校法人 タイケン学園 日本ウェルネス専門学校北九州校

非常勤講師(「スポーツ栄養学」、「発育発達老化論」担当)

(平成23年10月～現在に至る)

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 助手

(平成24年4月～平成27年3月)

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 助教

(平成27年4月～現在に至る)

主な研究活動 ○「摂食パターンからみた乳製品の栄養生理学的研究

—運動時の血清クレアチンホスホキナーゼ活性に及ぼす影響を中心として—

牛乳の栄養効果の効果的発現にむけて食物摂取行動としての摂食パターンをとりあげ、CPKをメルクマークとして運動時の筋損傷の修復に及ぼす影響について検討を行った。(第59回日本栄養改善学会発表)

○「世界の一体化」をめぐる歴史叙述の試み

—教科に関する科目(大学院)「スポーツ史演習」の教育実践—

○本学学生の食意識及び運動習慣

食生活については、国民健康・栄養調査の18～29歳の同世代と比較すると

有意な差は認められなかったが、日本人の食事摂取基準と比較すると、推奨量並びに、目標量に達しておらず、管理栄養士、理学療法士、作業療法士を目指し国民の健康増進に携わる専門家としては、まず自らの食行動の見直しが課題となる。特に、心身ともに成熟期を迎える年齢時の「食と運動」の基本姿勢の「確立」はその後のライフスタイルに大きな影響を及ぼすことが考えられることから、この時期での正しい食習慣の形成を重要視しなければならない。

【九州栄養福祉大学農園便りの編集】

- ・「九州栄養福祉大学 農園便り」春季 第一号
- ・「九州栄養福祉大学 農園便り」秋季 第二号
- ・「九州栄養福祉大学 農園便り」冬季 特別号三号
- ・「九州栄養福祉大学 農園便り」春季 第四号
- ・「九州栄養福祉大学 農園便り」秋季 第五号
- ・「九州栄養福祉大学 農園便り」冬季 第六号

○「トマト酢」レシピ作りプログラムが管理栄養士養成課程学生の「ライフスキル」に及ぼす影響

「トマト酢」の有効性試験を行うための「トマト酢」を用いたレシピ作成プログラムが、発達段階の心身ともに最終段階を迎える年齢期の学生にどのような影響を及ぼすかということに焦点をあて、日常生活スキル尺度（大学生版）を用いて評価・検討をすることを目的とし事前平均値(標準偏差)57.18±6.59 点、事後 63.06±6.51 点と有意に得点が増加した(p<.01)。管理栄養士として育っていく本学学生に、このような小さな実学体験を通して地についての主体性・創造力を養成できればと思われる。(第 22 回日本健康教育学会発表)

○「管理栄養士養成課程学生における自己管理能力育成プログラムの実践」

自らの体型に悩みがあり、管理栄養士となる学生が、自己管理能力育成プログラムを実践することで自らの行動変容の難しさを実感し、対象者の気持ちを享受し、質の高い栄養指導に繋がれることを目的とした。対象者は、本学寮生(18.4±0.52 歳)、毎朝身体測定を行い、月に数回の自己管理能力育成プログラムを行い、プログラム前後に食生活アンケートを実施した。プログラム前後において、体重の平均値を検討した結果、10 月 1 週目と 11 月 1 週目において有意に減少した (p<.05)。毎朝の身体測定、目標設定の記録を行うことで、自己管理能力が身に付き、また集団で実施することが意識を高めることに繋がり行動変容をし、持続することを促した。(第 22 回日本健康教育学会発表)

○「成熟トマト・未成熟トマトの機能性評価」

トマトを栽培する場合は、栽培途中に、間引きという作業を行うため、未成熟の青トマトや葉・茎等も廃棄物となる。成熟(赤)トマトおよび未成熟(青)トマトの各部位(蒂・果肉・外皮・葉・枝・根)の水抽出物、EtOH 抽出物における機能性を評価し、廃棄物となる部分を有効活用する方法を探索することで、付加価値の高い新たな利用法を見出すことを目的とした。サンプルの抽出にあたっては、EtOH 抽出物、水抽出物 を調製し、抗酸化活性の測定には、ORAC 法で行い、メラニン生成抑制活性の測定には、MTT 法による細胞生存率、メラニン量の測定を行った。未使用、廃棄物である葉や青トマトに、抗酸化活性作用・メラニン生成抑制作用が検出されたため、今後、当該部分を用い、化粧水・美白化粧水等の付加価値の高い利用法の開発が期待される。(第 60 回栄養改善学会発表)

○「トマトの部位別におけるリパーゼ阻害活性の検討」

成熟（赤）トマト、未成熟（青）トマトを部位別に分類しリパーゼ阻害活性試験を行うことで網羅的にトマトの未利用部分も含めた機能性評価を行った。成熟（赤）トマト、未成熟（青）トマトの各抽出物がリパーゼの活性へ与える影響を検討した結果、トマト(葉)の EtOH 抽出物、トマト(茎)の水抽出物、青トマト(外皮)の水抽出物にリパーゼ活性が確認された ($p < .01$)。リパーゼ活性が阻害されるような物質は、摂取エネルギーを低下させ、抗肥満効果を発揮する有効なアプローチの一つとして考えられ、トマトの未利用部位を含めた新規活用法の開発が期待される。（第 60 回日本栄養改善学会発表）

- 主な社会活動
- ・東筑紫学園高等学校野球部への栄養指導
 - ・福岡教育大学陸上部への栄養指導
 - ・東筑紫附属幼稚園への食育指導及び農園指導
 - ・だきしめ保育園保護者会講師（平成 26 年 4 月 12 日）
 - ・下関保育士研修会講師（平成 26 年 5 月 8 日）

所 属 学 会	日本栄養改善学会	(平成 23 年 1 月～現在に至る)
	日本リハビリテーション研究会	(平成 24 年 4 月～現在に至る)
	日本健康教育学会	(平成 25 年 4 月～現在に至る)

高尾美由紀 TAKAO Miyuki 助手

所 属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科
担 当 科 目 講義補助：公衆栄養学実習（学内）、基礎栄養学実験、管理栄養士演習
専 門 分 野 管理栄養士養成
最 終 学 歴 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科
学 位 学士（食物栄養学）
職 歴 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 助手 （平成26年4月～現在に至る）
所 属 学 会 日本栄養改善学会会員 （平成27年～現在に至る）

永井智子 NAGAI Tomoko 助手

所属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

担当科目 講義補助：臨床栄養学実習Ⅰ、臨床栄養学実習Ⅱ、料理特別実習Ⅰ（洋料理）、
栄養教育論実習Ⅰ、管理栄養士演習

専門分野 管理栄養士養成

最終学歴 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

学位 学士（食物栄養学）

職歴 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 助手（平成26年4月～現在に至る）

渡邊 江里奈 WATANABE Erina 助手

所 属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科
担 当 科 目 講義補助：給食管理実習、解剖生理学実験、応用栄養学実習、臨地実習指導（演習）
専 門 分 野 管理栄養士養成
最 終 学 歴 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科
学 位 学士（食物栄養学）
職 歴 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 助手（平成 26 年 4 月～現在に至る）

梅 田 恵 子 UMEDA Keiko 助手

所 属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

担 当 科 目 講義補助：調理学実習Ⅲ、栄養士のための農園演習、栄養福祉論

専 門 分 野 管理栄養士養成

最 終 学 歴 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

学 位 学士（食物栄養学）

職 歴 医療法人博愛会 頤田病院 (平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月まで)

エームサービス西日本株式会社済生会飯塚嘉徳病院事業所
(平成 21 年 8 月～平成 22 年 8 月まで)

有限会社 ワイドエー (平成 22 年 9 月～平成 25 年 9 月まで)

医療法人康和会 介護老人保健施設和泉の澤 (平成 25 年 10 月～平成 26 年 4 月まで)

学校法人東筑紫学園 法人事務局総務課 (平成 26 年 10 月～平成 27 年 11 月まで)

九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 助手 (平成 27 年 12 月～現在に至る)

千 草 友 美 CHIGUSA Tomomi 助手

所 属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

担 当 科 目 講義補助：調理学実習Ⅰ・Ⅱ、料理特別実習Ⅱ（和料理）

専 門 分 野 管理栄養士養成

最 終 学 歴 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

学 位 学士（食物栄養学）

職 歴 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 助手（平成27年4月～現在に至る）

矢津田みずほ YATSUDA Mizuho 助手

所 属 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

担 当 科 目 講義補助：料理特別実習Ⅲ（中華料理）、食品基礎実験

専 門 分 野 管理栄養士養成

最 終 学 歴 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科

学 位 学士（食物栄養学）

職 歴 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科 助手(平成28年4月～現在に至る)

平成 28 年度 九州栄養福祉大学・大学院 教員情報

【リハビリテーション学部 理学療法学科】・【健康科学研究科 健康栄養学専攻】

橋元隆	HASHIMOTO Takashi	教授 (九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス 副学長)
所属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科	
担当科目	〔リハビリテーション学部 理学療法学科〕 キャリア教育、リハビリテーション概論、神経障害系運動療法Ⅰ、 日常生活活動分析、日常生活活動支援、理学療法ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、 理学療法基礎演習、理学療法専門演習、卒業論文、臨床実習Ⅱ・Ⅲ 〔リハビリテーション学部 作業療法学科〕 キャリア教育、リハビリテーション概論 〔食物栄養学部 食物栄養学科〕 リハビリテーション概論 〔大学院 健康科学研究科〕 健康科学特別講義、リハビリテーション学特論Ⅰ、健康運動機能特論Ⅱ	
専門分野	リハビリテーション医学、理学療法学、運動療法治療学、障害学、 日常生活活動学、介護予防	
最終学歴	佛教大学社会学部社会福祉学科、九州芸術工科大学大学院後期課程単位取得退学	
学位	社会学士	
職歴	労働福祉事業団 九州労災病院理学診療科入職 (昭和 44 年 4 月～昭和 47 年 5 月) 労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科助手 (昭和 47 年 5 月～昭和 47 年 9 月) 英国ストーク・マンデビル病院留学：労働省奨学生 (昭和 47 年 9 月～昭和 48 年 9 月) 労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科講師 (昭和 48 年 9 月～昭和 55 年 1 月) 労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科助教授 (昭和 55 年 1 月～平成 3 年 3 月) 労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校 教授及び理学療法学科長 (平成 3 年 4 月～平成 16 年 3 月) 専門学校 九州リハビリテーション大学校 教学部長、理学療法学科教授並びに理学療法学科長 (平成 16 年 4 月～平成 20 年 3 月) 専門学校 九州リハビリテーション大学校 副学校長・教学部長、理学療法学科教授 (平成 20 年 4 月～平成 23 年 3 月) 九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス副学長・リハビリテーション学部学部長 兼教授／兼専門学校 九州リハビリテーション大学校 副学校長・教学部長、理学療法学科教授 (平成 23 年 4 月～平成 25 年 3 月) 九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス副学長・理学療法学科教授／兼専門学校	

九州リハビリテーション大学校副学校長・教学部長、理学療法学科教授

(平成25年4月～平成26年3月)

九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス副学長・リハビリテーション学部理学療法
学科教授、大学院 健康科学研究科教授 (平成26年4月～現在に至る)

教育上の業績 ○教育実践例

【理学療法士教育専門担当科目】

- ・「物理療法学」(牽引・マッサージ：昭和48年10月～平成2年3月、
一般物理療法学：平成3年4月～平成15年3月)
- ・「検査測定(理学療法評価学)」 (昭和53年4月～平成15年3月)
- ・「運動療法：機能統合訓練」(現.神経障害系運動療法)
(昭和48年10月～現在に至る)
- ・「日常生活動作(活動)学」(現.日常生活活動分析論、日常生活活動支援)
(昭和48年10月～現在に至る)
- ・「地域保健学」 (平成16年4月～平成23年3月)
- ・「リハビリテーション概論」 (平成16年4月～現在に至る)
- ・「キャリア教育」 (平成24年～現在に至る)

【教科書等の執筆】

- 「日常生活活動(動作)評価と訓練の実際」(分担執筆)
(医歯薬出版 昭和53年 初版～第3版)
- 「学びやすい リハビリテーション論」(編集・分担執筆)
(金芳堂 平成11年 初版～第2版)
- 「日常生活活動(ADL)」(編集・分担執筆)
(神陵文庫 平成11年 初版～第3版)
- 「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学」(分担執筆)
(医学書院 平成13年 初版～第3版)
- 「標準理学療法学 臨床実習とケーススタディ」(分担執筆)
(医学書院 平成13年 初版～第2版)
- 「日常生活活動(ADL)評価のポイント」(単行) (日医総研 平成15年)
- 「理学療法学概論」(分担執筆) 神陵文庫 (平成16年 第2版～第3版)
- 「生活環境論」(編集・分担執筆) 神陵文庫 (平成18年 初版)
- 「理学療法事典」(分担執筆) (医学書院 平成18年)
- 「理学療法概論」(分担執筆) (医歯薬出版 平成19年 第4版～第6版)
- 「義肢装具学」(編集・分担執筆) (神陵文庫 平成20年 初版)
- 「新版 日常生活活動(ADL) 評価と支援の実際」(分担執筆)
(医歯薬出版 平成22年 初版)
- 「服部リハビリテーション技術全書」(分担執筆・編集協力)
(医学書院 平成26年第3版)
- 「脊髄損傷理学療法マニュアル」(分担執筆) (文光堂 平成26年 第2版)

【教育に関する職位】

- ・九州リハビリテーション大学校理学療法学科教授および学科長
(平成3年4月～平成16年3月)
- ・専門学校九州リハビリテーション大学校理学療法学科教授及び教学部長並びに理学療法学科長
(平成16年4月～平成20年3月)
- ・専門学校九州リハビリテーション大学校理学療法学科教授及び副学校長
(平成20年4月～平成23年3月)
- ・九州栄養福祉大学 南区キャンパス副学長 リハビリテーション学部学部長教授、兼専門学校九州リハビリテーション大学校理学療法学科教授及び副学校長
(平成23年4月～平成25年3月)
- ・九州栄養福祉大学 南区キャンパス副学長 リハビリテーション学部・大学院健康科学研究科教授
(平成26年4月～)

(学会等役職)

- ・第1回九州地区理学療法士会研修会準備委員長 (昭和54年11月 北九州市)
- ・第10回九州地区理学療法士・作業療法士合同学会学会長
(昭和63年11月 福岡市)
- ・第17回九州理学療法士・作業療法士合同学会学会長
(平成7年11月 北九州市)
- ・第24回九州理学療法士・作業療法士合同学会副学会長
(平成15年11月 福岡市)
- ・第7回東アジアヘルスプロモーション会議 in 北九州 2009 大会長
(平成21年9月 北九州市)
- ・第10回介護保険推進全国サミット in 北九州実行委員長
(平成21年10月 北九州市)

- 主な研究活動
- 「社会の中の理学療法」日本理学療法士協会卒後研修会 平成23年1月(熊本)
 - 「高齢者の健康づくりの場『すこやか公園』整備に向けた調査報告書」
(平成23年3月)(北九州市委託)
 - 「理学療法教育 外国人教員から日本人教員の手へ」
(理学療法学 Vol.38 No2. 平成23年4月)
 - 「作業療法・理学療法的視点から捉える『食ること』のリハビリテーション学的意味 ～地域で暮らす高齢・障害者の事例および食のための身体的機能分析から～」 共著 (九州栄養福祉大学研究紀要 pp191～202 2012.)
 - 「地域公園におけるオリジナル健康遊具の有効性について」 共著
(九州栄養福祉大学研究紀要 pp285～317 2012.)
 - 「本学学生の食意識及び運動習慣」 共著
(九州栄養福祉大学研究紀要 pp319～329 2012.)
 - 「生きをひき取る」①～⑯ 西日本新聞連載 (2012年12月～2013年3月)

- 「北九州市介護予防十二式太極拳（ひまわりタイチー）における運動負荷の検証」共著
（九州栄養福祉大学研究紀要 pp77～86 2013.）
- 「地域公園における運動利用の実態調査」共著
（九州栄養福祉大学研究紀要 pp163～178 2013.）
- 「足圧モニターインソールを用いた歩行の定量的評価—脳卒中片麻痺患者に対する臨床応用—」（共同）
（第 35 回九州理学療法士・作業療法士合同学会（熊本）平成 25 年 11 月）
- 「公園における健康遊具を用いた健康づくり事業について」（共同）
（第 35 回九州理学療法士・作業療法士合同学会（熊本）平成 25 年 11 月）
- 「インソール式足圧力モニター装置を用いた歩行の定量的評価—慢性期脳卒中片麻痺患者に対する臨床応用—」共著（J UOE H 36（1）pp41～48 2014.）
- 「理学療法士・作業療法士教育における解剖学実習ことはじめ」
（コ・メディカル形態機能学会第 13 回学術集会 特別講演
平成 26 年 9 月 20 日（北九州市））
- 「蓄尿障害が生活の質に与える影響について～ICIQ - SF を用いて～」共著
（九州栄養福祉大学研究紀要 第 11 号 pp81～91）
- 「介護予防におけるロコモティブシンドロームについて」
（北九州介護予防訪問員研修会 講演 平成 27 年 1 月 6 日（北九州市））
- 「理学療法士の役割と機能 ～自立を目指す地域ケアへのアプローチ～」
（福岡県糸島保健福祉事務所 在宅医療実務担当者会議 講演
平成 27 年 3 月 13 日（糸島市））
- 「新たな 50 年に向けて いま伝えたいこと 11」
（理学療法ジャーナル Vol.49. No.2 pp175～179）
- 「理学療法の 50 年の歩みと展望 —新たなる可能性への挑戦— わが国の理学療法の歴史と継承 九州からの発信」第 50 日本理学療法学会 メインシンポジウム I 平成 27 年 6 月 6 日（東京）
- 「歩行支援ロボット Tree の紹介 —産学官民の連携を通して—」
（地域リハビリテーション Vol.10 No.8 pp552～558 2015）
- 「理学療法の 50 年の歩みと展望 —新たなる可能性への挑戦— 九州からの発信」
（理学療法学 Vol.42 No.8 pp628～629 2015）
- 「理学療法の幕開け／理学療法の黎明期を支えたりハビリテーション機器」
（理学療法ジャーナル Vol. 50 No.1 pp i ～vi 2016）
- 「E・G 体操 ～みんなで Enjoy Genki になろう!!～」監修（DVD）
（北九州市認知症支援・介護予防センター企画・製作 平成 28 年 3 月）

主な社会活動（協会・行政等委員会委員）

- ・福岡県理学療法士会理事（学術担当・事務局長・副会長）

（昭和 45 年 4 月～17 年間）

- ・福岡県理学療法士会会長

（昭和 63 年 4 月～10 期 20 年間）

- ・全国理学療法士・作業療法士学校連絡協議会理事 (平成12年4月～7年間)
- ・北九州市介護認定審査会平準化委員会委員 (平成12年4月～現在に至る)
- ・北九州市リハビリテーションシステム実務者委員会委員
(現：北九州市リハビリテーション支援体制検討委員会)
(平成12年4月～現在に至る)
- ・北九州市高齢者介護の質の向上委員会委員
(現：北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議)
(平成18年4月～現在に至る)
- ・北九州市高齢者介護の質の向上委員会介護保険部会部会長
(平成18年4月～現在に至る)
- ・北九州市障害程度区分認定審査会調整委員 (平成19年4月～現在に至る)
- ・福岡県介護予防市町村支援委員会委員 (平成19年4月～現在に至る)
- ・福岡県介護予防運動器専門部会委員長 (平成19年4月～現在に至る)
- ・北九州市健康づくり協議会委員
(現：北九州市健康づくり推進プランの推進に関わる意見交換会委員)
(平成20年4月～現在に至る)
- ・厚生労働省医道審議会理学療法士・作業療法士専門部会委員
(平成20年4月～現在に至る)
- ・福岡県老人医療費検討委員会委員
(現：福岡県医療費適正化計画推進委員会) (平成21年4月～現在に至る)
- ・リハビリテーション教育評価機構評価員 (平成25年4月～現在に至る)
- ・北九州市指定管理者制度推進会議委員 (平成21年4月～平成25年3月)

所 属 学 会 日本理学療法士協会
 日本職業・災害医学会
 日本脊髄障害医学学会
 国際パラプレジア医学会
 日本リハビリテーション医学会
 日本人間工学学会
 日本公衆衛生学会

受 賞 歴 平成 6年8月日本リハビリテーション工学協会福祉機器コンテスト'94 グランプリ
 平成17年11月厚生労働大臣表彰
 平成18年5月社団法人日本理学療法士協会協会長表彰
 平成19年6月社団法人福岡県理学療法士会特別功労賞
 平成20年11月九州理学療法士・作業療法士合同学会合同士会長会議特別表彰
 平成25年2月北九州市市制50周年記念市表彰(功労章)

高橋 精一郎 TAKAHASHI Seichiro 教授 (リハビリテーション学部長)

所 属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科

担 当 科 目 [リハビリテーション学部 理学療法学科]
運動療法学概論、中枢神経障害系理学療法Ⅰ、理学療法研究法演習Ⅰ、
神経障害系運動療法Ⅱ、理学療法ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、理学療法基礎演習、
理学療法専門演習、卒業論文、臨床実習Ⅱ・Ⅲ
[大学院 健康科学研究科]
健康科学特別講義、特別研究Ⅰ、健康運動機能特論Ⅰ、
自律神経障害支援特論Ⅰ

専 門 分 野 運動機能障害理学療法分野、内部障害系理学療法分野

最 終 学 歴 山口大学大学院 医学研究科博士課程修了

学 位 博士 (医学)

職 歴 労働福祉事業団 九州労災病院 理学療法科勤務 (昭和46年4月)
労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校
理学療法学科助手 (昭和53年4月)
Heidelberg Universität Orthopädische Klinik 留学 (昭和53年5月)
同 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科講師 (昭和54年4月)
同 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科助教授 (昭和59年4月)
学校法人 国際医療福祉大学大学院 教授 (平成16年4月)
学校法人 国際医療福祉大学 福岡リハビリテーション学部 理学療法学科教授
(平成17年4月)
九州栄養福祉大学リハビリテーション学部 学部長・理学療法学科教授兼大学院教授
(平成25年4月～現在に至る)

教育上の実績 【教科担当科目】

理学療法概論、運動療法学、内部系理学療法学 (呼吸理学療法学)、
リハビリテーション論、高次脳機能障害学、理学療法研究法 他

(非常勤講師)

- ・京都看護専門学校(看護師科) (平成元年4月～平成15年10月)
- ・北九州保育福祉専門学校(介護福祉科) (平成3年4月～平成13年3月)
- ・麻生医療福祉専門学校(介護福祉科) (平成7年4月～平成12年3月)
- ・県立戸畑高等技術専門学校(介護サービス科) (平成9年4月～平成15年11月)
- ・福岡国際医療福祉学院(理学療法学科) (平成16年4月～平成18年3月)
- ・東筑紫学園 九州リハビリテーション大学校(理学療法学科)
(平成17年4月～平成24年3月)
- ・福岡国際医療福祉学院(看護学科) (平成22年4月～平成25年3月)
- ・国際医療福祉大学福岡看護学部 (平成23年4月～平成25年3月)
- ・九州栄養福祉大学リハビリテーション学部(理学療法学科)
(平成23年4月～平成25年3月)

主な研究活動 テーマ：自律神経活動を指標とした理学療法の効果検討と治療手法の開発

【学会発表】

(共)「香り刺激による心拍のゆらぎ」中富香織、甲斐 悟、高橋精一郎
(第43回日本理学療法学会、2008年)

(共)「重症心身障害児の背臥位時における下肢下垂法の考案と効果について
ー圧力分布測定システムと自律神経機能評価を指標としてー」
奥田憲一、笠井 恵美子、吉開 歩、高橋精一郎、甲斐 悟、高嶋幸男他
(第43回日本理学療法学会、2008年)

(共)「筋萎縮性側索硬化症患者に対する呼気抵抗運動が呼吸機能および自律神経系機能に及ぼす効果」北野晃佑、高橋精一郎、甲斐 悟
(第32回九州理学療法士・作業療法士合同学会、2010年)

【論文】

(共)「Heart Rate Variability during Two-Leg to One-Leg Standing Shift in the Elderly」: Satoru Kai, Masami Nakahara, Shigeo Murakami, Ryuji Yoshimoto, Kazuo Watari, Yuko Ooura, Kaori Nakatomi, Seiichiro Takahashi
(J.Phys.Ther.Sci.20: 67-70,2008)

(共)「筋萎縮性側索硬化症患者に対する咳嗽運動が呼吸機能と自律神経系機能へ及ぼす効果」: 北野晃祐、甲斐 悟、高橋精一郎
(理学療法科学 27(2): 155~160, 2012)

【書籍】

- 「理学療法入門テキスト」(分担執筆): 細田多穂監修, (南江堂 平成19年)
- 「理学療法概論(第3版)」(分担執筆): 千住秀明監修, (神陵文庫 平成22年)
- 「医学教育白書 2010年版」(分担執筆): 日本医学教育学会編,
(篠原出版新社 平成22年)
- 「実践!理学療法スキル」(分担執筆): 小林 賢編, (医歯薬出版 平成22年)
- 「治療の目でみるレクリエーション」(監修): 清水和代著,
(神陵文庫 平成22年)
- 「理学療法概論(第4版)」(分担執筆): 千住秀明監修, (神陵文庫 平成25年)

主な社会活動

- ・(社)福岡県理学療法士会会員 (昭和46年8月~現在に至る)
- ・ 同 理事 (昭和52年4月~平成19年3月)
- ・ 同 監事 (平成19年4月~平成21年3月)
- ・(社)日本理学療法士協会全国代議員 (平成5年4月~平成19年3月)
- ・ 同 倫理委員会委員長 (平成11年4月~平成14年3月)

- ・福岡県障害者施策推進委員会委員 (平成 16 年 11 月～現在に至る)
- ・第 43 回日本理学療法学会副大会長 (平成 18 年 5 月～平成 20 年 6 月)
- ・(社) 日本理学療法士協会教育局教育部部長 (平成 19 年 4 月～平成 25 年 5 月)
- ・同 学術誌 (理学療法学会) 査読委員 (平成 20 年 4 月～平成 25 年 3 月)
- ・日本理学療法科学学会学術誌「理学療法科学」査読委員
(平成 21 年 1 月～現在に至る)
- ・(公社) 日本理学療法士協会生涯教育業務執行委員会委員
(平成 25 年 6 月～現在に至る)
- ・(公社) 日本理学療法士協会臨床実習ガイドラインワーキンググループ長
(平成 25 年 6 月～平成 26 年 5 月)
- ・(公社) 日本理学療法士協会企画研修小委員会委員
(平成 27 年 6 月～現在に至る)

所 属 学 会 日本理学療法士学会
 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会
 日本公衆衛生学会
 日本自律神経学会

受 賞 暦 日本理学療法士学会 学会奨励賞 (平成元年)
 日本理学療法士協会協会長賞 受賞 (平成 17 年)
 厚生労働大臣表彰 (平成 17 年)

大 峯 三 郎 OHMINE Saburou 教授 (リハビリテーション学部 理学療法学科長)

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	[リハビリテーション学部 理学療法学科] 医学倫理学、人間と環境、義肢装具学、臨床義肢装具演習、運動療法概論、 理学療法ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、理学療法基礎演習、理学療法専門演習、 卒業論文、地域ケア方法、臨床実習Ⅱ・Ⅲ [リハビリテーション学部 作業療法学科] 医学倫理学、人間と環境 [大学院 健康科学研究科] 健康科学研究法特論演習、健康運動機能特論Ⅰ、リハビリテーション学特論Ⅱ、 特別研究Ⅰ
専 門 分 野	理学療法、リハビリテーション医学、義肢装具、福祉用具
最 終 学 歴	放送大学 教養学部 生活と福祉学科
学 位	博士 (医学) 産業医科大学 乙第 413 号 (平成 26 年 2 月)
職 歴	兵庫県事業団 兵庫県リハビリテーションセンター 入職 (昭和 45 年 4 月) 学校法人 産業医科大学病院 リハビリテーション部 入職 (昭和 54 年 4 月) 学校法人 東筑紫学園 専門学校 九州リハビリテーション大学校 (平成 20 年 4 月) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 教授 九州栄養福祉大学大学院 健康科学研究科 教授 (平成 24 年 4 月～現在に至る) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科長 (平成 27 年 4 月～現在に至る)
教 育 上 の 業 績	・理学療法士養成校の臨床実習生の教育指導 (昭和 45 年 4 月～平成 20 年 3 月) ・長崎リハビリテーション学院 (義肢学 非常勤講師) (平成 13 年 4 月～平成 20 年 3 月) ・国際医療福祉大学 (義肢装具学 非常勤講師) (平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月) ・九州看護福祉大学 (生活環境論 非常勤講師) (平成 19 年 4 月～平成 20 年 3 月)
主 な 研 究 活 動	【著書】 ○「義肢装具学 第 4 版」 (平成 21 年 3 月) ○「よくわかる脳卒中介護指導教本」 (平成 21 年 7 月) ○「関節連鎖～リンクする身体」 (平成 23 年 5 月) ○「理学療法診療ガイドライン第 1 版(2011)」 14.下肢切断 (平成 23 年 10 月) ○「すぐに役立つ効率的理学療法の実践」 (平成 24 年 5 月) ○「理学療法概論」 (平成 25 年 3 月) ○「筋骨格障害系理学療法学」 (平成 26 年 2 月) ○「服部リハビリテーション技術全書」 (平成 26 年 4 月) ○「義肢装具学第 2 版」 (平成 27 年 3 月)

【学術論文】

- 「下腿義足のソケットの開発変遷」(理学療法ジャーナル 42(7)607-6 平成 20 年 7 月)
- 「動作障害に対する理学療法アプローチの考え方」
(理学療法 27(1)6-16 平成 22 年 1 月)
- 「臨床医学の展望リハビリテーション医学」
(日本医事新報 4530 69 平成 23 年 2 月)
- “Community-based survey of amputation derived from the physically disabled person’s certification in Kitakyushu city, Japan.”
(Prosthetics and Orthotics International 36(2)196-202 平成 24 年 6 月)
- 「運動療法の変遷と今後の展望」(理学療法 30(1) 11-18 平成 25 年 1 月)
- 「TSB および PTB 式固い義足のインターフェイス特性—F スキャン・センサーを用いた圧力分布特性—」
(九州栄養福祉大学研究紀要 10 37-45 平成 25 年 12 月)
- 「下肢切断 理学療法診療ガイドライン」(理学療法学 42: 296-304 平成 27 年 6 月)
- 「入試形態の違いからみた運動療法学概論小テストの結果比較」
(九州栄養福祉大学研究紀要 12:1-6 平成 27 年 12 月)
- 「高齢透析患者に対する低負荷運動療法についての一考察」
(九州栄養福祉大学研究紀要 12:19-26 平成 27 年 12 月)
- 「高齢者のリハビリテーションにおける疲労回復と栄養状態との関連性」
(九州栄養福祉大学研究紀要 12:125-134 平成 27 年 12 月)
- 「超高齢者に対する理学療法の効果・適性運動量の検討」
(九州栄養福祉大学研究紀要 12:135-144 平成 27 年 12 月)
- 「理学療法士の臨床活動における継往開来」
(理学療法ジャーナル 49:1077-1084 平成 27 年 12 月)
- 「日本支援工学理学療法学会の取り組み・学会の現状と今後の展望。」
(福祉介護テクノプラス Jan.1:1-3 平成 28 年 1 月)

【学会発表等】

- 第 7 回東アジアヘルスプロモーション会議 in 北九州市 2009
「身体障害者手帳診断書に基づく北九州市における切断調査」(平成 21 年 9 月)
- 認定理学療法士必須研修会(補装具)
「装具療法における理学療法介入(基礎と応用)(講演)」(平成 22 年 8 月)
- 第 22 回長崎県理学療法士学会「生活環境支援における理学療法介入の基本的理解に向けて」
- 第 7 回中国血友病治療セミナー「血友病の理学療法の実際」(平成 23 年 4 月)
- 高齢者等住宅相談員・すこやか住宅助成事業施行業者研修会
「高齢者・障がい者の心身機能特性」(平成 23 年 4 月)
- 認定理学療法士必須研修会(補装具)「装具療法における理学療法介入(基礎と応用)」
(平成 23 年 11 月)

- 高齢者等住宅相談員・すこやか住宅助成事業施行業者研修会
「高齢者の身体特性と介護予防-高齢者の転倒」 (平成 24 年 4 月)
- 第 30 回日本私立医科大学理学療法学会「理学療法温故知新-過去、現在、未来-」
(平成 24 年 10 月)
- 第 10 回さつまの会「理学療法における運動療法と義肢装具との融合」
(平成 25 年 8 月)
- 第 29 回日本義肢装具学会学術大会
「Meet to the mentor 義足とリハビリテーション」 (平成 25 年 10 月)
- 全国労災病院リハビリテーション技師会 第 42 回全国研修会
「脳卒中下肢装具療法の最新の知見」 (平成 25 年 10 月)
- 平成 25 年度第 5 回生活環境支援理学療法研究部会学術集会セミナー
「下肢装具を生活環境支援に生かす~生活環境支援および臨床の側面から (パネルディスカッション)」 (平成 25 年 12 月)
- 第 49 回日本理学療法学術大会専門領域研究部会
「生活環境支援理学療法研究部会シンポジウム我々が考えてきた生活環境支援~過去から現在、そして未来への提言~ (シンポジウム)」 (平成 26 年 6 月)
- 北九州市 福祉機器専門研修会「義肢・装具」 (平成 26 年 6 月)
- 理学療法士講習会基本編「理学療法士に必要な補装具の知識と基本となる考え方」
(平成 26 年 9 月)
- 第 30 回日本義肢装具学会学術大会「北九州市における切断者の地域調査に基づく外傷性切断者の特性について」 (平成 26 年 10 月)
- 認定理学療法士必須研修会(補装具)
「理学療法における装具療法の介入」 (平成 26 年 11 月)
- 第 1 回日本支援工学理学療法学会
「未来の日本を支える生活支援工学-義肢・装具領域からの提言-」 (平成 26 年 12 月)
- 第 15 回さつまの会
「理学療法における運動療法と義肢装具との融合」 (平成 27 年 3 月)
- 第 11 回 Resta 勉強会「運動療法と義肢装具の融合-理学療法における義肢装具の臨床的意義、効果と限界を知る-」 (平成 27 年 5 月)
- 第 33 回日本私立医科大学理学療法研究会学術集会「高齢入院患者に対する低強度運動の効果」 (平成 27 年 10 月)
- 第 33 回日本私立医科大学理学療法研究会学術集会
「高齢者のリハビリテーションにおける栄養状態の相違による検討-疲労回復と運動能力面について-」 (平成 27 年 10 月)

- 主な社会活動
- ・福岡県理学療法士会副会長 (昭和 62 年 4 月~平成 19 年 3 月まで)
 - ・日本義肢装具学会評議委員 (平成 5 年 9 月)
 - ・水巻町在宅福祉住宅改造相談調整会議委員 (平成 7 年 10 月)
 - ・日本理学療法士協会生活環境支援系理学療法研究部会長 (平成 15 年 4 月)
 - ・日本私立医科大学理学療法研究会会長 (平成 15 年 10 月~平成 25 年 9 月まで)

- ・日本義肢装具学会理事 (平成 18 年 9 月～平成 24 年 9 月まで)
- ・血友病理学療法研究会会長 (平成 20 年 5 月)
- ・日本私立医科大学理学療法研究会監事 (平成 25 年 10 月)
- ・日本理学療法士協会 日本支援工学理学療法学会代表運営幹事 (平成 26 年 4 月)

所 属 学 会 日本理学療法士協会
 日本義肢装具学会
 日本私立医科大学理学療法学会
 世界義肢装具連盟

受 賞 歴 日本義肢装具学会 飯田賞奨励賞 (平成 8 年 11 月)
 第 9 回総合リハビリテーション賞 (平成 13 年 9 月)
 日本理学療法士協会 協会賞 (平成 16 年 5 月)
 日本理学療法士協会 厚生労働大臣賞 (平成 18 年 10 月)
 日本義肢装具学会 飯田賞本賞 (平成 22 年 11 月)

千代丸 信一 CHIYOMARU Shinichi 教授

所 属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目 [リハビリテーション学部 理学療法学科]
人間発達学、理学療法評価学概論、理学療法ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、
発達障害系理学療法Ⅰ、理学療法基礎演習、理学療法専門演習、
卒業論文、臨床実習Ⅱ・Ⅲ
専 門 分 野 小児理学療法、人間発達学
最 終 学 歴 北九州市立大学 人間文化研究科
学 位 修士（人間関係学）
職 歴 北九州市足立学園（現・北九州市立総合療育センター）訓練科理学療法係
（昭和45年4月）
近畿福祉大学 社会福祉学部 介護福祉学科 准教授 （平成13年4月）
国際医療福祉大学 福岡リハビリテーション学部理学療法学科 教授
（平成18年4月）
九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 教授
（平成23年4月～現在に至る）

教育上の業績 ○理学療法士の臨床実習指導に31年間従事
○社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の養成教育に5年間従事
○理学療法士の養成教育に5年間従事

主な研究活動 ○脳性麻痺児の理学療法
○小児療育領域における医療事故
○乳幼児期の移動動作の多様性

所 属 学 会 日本理学療法士学会

受 賞 歴 福岡県社会福祉協議会表彰 （平成11年10月）
福岡県表彰 （平成12年10月）
日本理学療法協会協会賞 （平成18年5月）

石橋 敏郎 ISHIBASHI Toshirou 教授

所 属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科

担 当 科 目 [リハビリテーション学部 理学療法学科]
北九州市のノーマライゼーション (ESD)、運動学各論、運動学総論、
運動療法学演習、臨床運動分析、スポーツリハビリテーション、
理学療法ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、理学療法基礎演習、理学療法専門演習、
卒業論文、臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

[リハビリテーション学部 作業療法学科]

北九州市のノーマライゼーション (ESD)

専 門 分 野 人間医工学、教育学、外科系臨床医学、健康・スポーツ科学

最 終 学 歴 福岡県立大学大学院 人間社会学研究科地域教育支援専攻卒業

学 位 修士 (地域教育支援)

職 歴 九州労災病院リハビリテーション診療科 (5年間)

教育上の業績 労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科専任講師 (9年間)、
専門学校 九州リハビリテーション大学校 専任講師

九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 教授

(平成28年4月～現在に至る)

主な研究活動 ○変形性膝関節症に対する保存療法
○臨床実習指導のあり方
○神経運動器協調運動のトレーニング内容と効果
○姿勢制御能力から見た転倒予防とパフォーマンスの向上
○解剖による運動器の機能面について
○スポーツ傷害後の理学療法のあり方と予防法

主な社会活動 ・障害者スポーツ講習会講義 (初級および中級)
・行橋市 介護認定審査会

所 属 学 会 理学療法士協会・学会
日本物理療法学会
理学療法科学学会
九州教育学会
コ・メディカル形態機能学会
日本臨床バイオメカニクス学会

廣 滋 恵 一 HIROSHIGE Keiichi 准教授

- 所 属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
- 担 当 科 目 [リハビリテーション学部 理学療法学科]
理学療法評価学基礎技術演習Ⅰ・Ⅱ、疾患別理学療法評価学演習、
理学療法研究法演習、系統別理学療法評価、理学療法ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、
理学療法基礎演習、理学療法専門演習、卒業論文、臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- 専 門 分 野 運動器疾患、呼吸器疾患、脳血管疾患、脊髄・脊椎疾患、
代謝系疾患における生活習慣病や作業関連骨関節疾患等の予防理学療法
日本理学療法士協会認定 運動器専門理学療法士
- 最 終 学 歴 山口大学大学院医学系研究科 医療環境統御医学領域 環境保健医学分野 修了
甲第 1291 号
- 学 位 学士（法学；北九州大学）
修士（保健医療学；国際医療福祉大学）
博士（医学；山口大学）
- 職 歴 労働福祉事業団 九州労災病院 (平成 7 年 4 月～平成 16 年 3 月)
労働者健康福祉機構 九州労災病院 (平成 16 年 4 月～平成 22 年 3 月)
九州労災病院 勤労者予防医療センター (平成 22 年 4 月～平成 25 年 3 月)
九州栄養福祉大学リハビリテーション学部 理学療法学科 准教授
(平成 25 年 4 月～ 現在に至る)
- 教育上の実績 ○理学療法士養成校学生に対する臨床実習指導 (平成 11 年～平成 21 年)
○介護健康教室（ふれあい健康事業推進協議会主催） (平成 21 年)
○九州栄養福祉大学リハビリテーション学部 非常勤講師
「理学療法評価学技術論」、「基礎内部障害系理学療法論」、
「臨床内部障害系理学療法論」 担当 (平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月)
- 主な研究活動 【著書（分担共著）】
1) セラピストのためのリハビリテーション医療. 永井書店 (平成 17 年)
2) 勤労者医療の実際ーリハビリテーション技術による健康増進と職場復帰支援
ー. 全国労災病院リハビリテーション技師会 (平成 18 年)
3) 理学療法学テキストⅥ 義肢装具学. 神陵文庫 (平成 20 年)
4) 実践 MOOK 理学療法プラクティス これだけは知っておきたい腰痛の病態と
その理学療法アプローチ. 文光堂 (平成 20 年)
5) 腰痛の理学療法とケア. 理学療法 magazine. Vol.2, No.2 (平成 27 年)
- 【学術論文】
1) 廣滋恵一, 豊永敏宏, 日吉悦子, 福田里香: 勤労者を対象とした上腕一足首脈
波伝播速度に影響する体成分分析要因の検討.
(日本職業・災害医学会会誌 第 60 巻 第 5 号 p.289-294, 2012)

- 2) Keiichi Hiroshige, MH Mahbub, Noriaki Harada. Neuromuscular responses to acute whole body vibration in healthy young men.
(Bulletin of Yamaguchi Medical School Vol.59, No.1-2, p.15-24, 2012.)
- 3) 廣滋恵一：腰痛の予防と運動。(理学療法福岡 (26) : 59 -65, 2013)
- 4) Keiichi Hiroshige, MH Mahbub, Noriaki Harada. Effects of whole-body vibration on postural balance and proprioception in healthy young and elderly subjects: a randomized cross-over study.
(Journal of Sports Medicine and Physical Fitness. 54(2):216-24, 2014)
- 5) 廣滋恵一, 石橋敏郎, 室井廣大, 大丸幸：リハビリテーション学部オープンキャンパス参加者へのアンケート調査と入学志望向上への一考察 (第一報).
(九州栄養福祉大学研究紀要 第 11 号 p.63-80, 2014)
- 6) 廣滋恵一, 高橋精一郎, 神崎良子, Hossain Mahbub : 全身振動刺激が自律神経系および呼吸機能に及ぼす影響について.
(九州栄養福祉大学研究紀要 第 11 号 p.51-62, 2014)
- 7) 廣滋恵一, 四元孝道, 室井由起子 : 表面筋電図を用いた咀嚼筋活動量評価と記憶力との関連性について.
(九州栄養福祉大学研究紀要 第 12 号 p.11-18, 2015)

【学術論文・共同研究】

- 1) MH Mahbub, Keiichi Hiroshige, Kazuko Tanigawa, Hirohiko Kan, Yukio Takahashi, Taisuke Togari, Noriaki Harada. Acute effects of vibration from grasping a vibrating handle on vibrotactile perception and circulation at palmar and dorsal skin in healthy subjects.
(Proceedings of 17th Japan Conference on Human Response to Vibration, Tokyo, Japan, pp. 53-61, 2009)
- 2) MH Mahbub, Hiroto Ohnari, Kazuko Tanigawa, Keiichi Hiroshige, Yukio Takahashi, Taisuke Togari, Noriaki Harada. Vibrotactile perception at glabrous and nonglabrous skin of fingers: repeatability of measurements and changes induced by acute vibration exposure.
(Journal of Occupational Health Vol.53, No.1, pp.10-15, 2011)
- 3) 藤村宜史, 武田正則, 浅田史成, 川瀬真史, 高野賢一郎, 澤田小夜子, 廣滋恵一 : 多施設共同研究による病棟勤務看護師の腰痛実態調査.
(日本職業・災害医学会会誌 第 60 巻 第 2 号 p.91-96, 2012)
- 4) 井元 淳、豊永敏宏、出口純子、福田里香、廣滋恵一 : 勤労者の上腕—足首脈波伝播速度に影響を与える要因の検討.
(日本職業・災害医学会会誌 第 62 巻 第 2 号 p.104-110, 2014)
- 5) 吉田遊子, 千代丸信一, 石橋敏郎, 廣滋恵一, 中藤佳絵, 神崎良子, 井元淳 : 本学理学療法学科における客観的臨床能力試験 (OSCE) の試行.
(九州栄養福祉大学研究紀要 第 11 号 p.93-108, 2014)
- 6) 四元孝道, 高橋精一郎, 廣滋恵一, 長尾哲男, 奥村克博, 渡邊恭弘, 萩原隆二 :

座位バランス訓練装置の開発（第2報）～片麻痺患者のバランス反応～。
（九州栄養福祉大学研究紀要 第12号 p.87-94, 2015）

【学会発表】

- 1) 廣滋恵一、大野寿子、黒田恭子、和田茜：
看護業務における腰痛発生要因の検討 トランスファー介助動作時の筋電図評価
第38回日本理学療法学会 第12号 p.87-94, 2015
第38回日本理学療法学会 (平成15年)
- 2) 廣滋恵一、半田一登、大野寿子、和田茜、富崎珠美、川江享子：
看護師の始業前腰痛体操が柔軟性および腰痛有訴率に及ぼす影響
日本職業・災害医学会 (平成17年)
- 3) 廣滋恵一：【臨床検査・薬剤部門・放射線・リハビリテーション共同シンポジウム】医療従事者の安全対策 医療従事者の腰痛予防対策
日本職業・災害医学会 (平成18年)

【学会発表・共同研究】

- 1) 丹羽義明、廣滋恵一、和田茜：当院における生活習慣病予防の取り組み
年齢による初回参加時の運動能力の相違について。
第39回日本理学療法学会 (平成16年)
- 2) 大野寿子、半田一登、廣滋恵一、和田茜、川江享子、和田厚子、今村とも子、
毛利恵、山口美香、河内良重、河野一美、伊藤あゆみ、富崎珠美：
看護師の腰痛予防への取り組み その2-始業前予防体操を導入して。
日本職業・災害医学会 (平成17年)
- 3) 村上公照、廣滋恵一、白仁田厚、鬼塚俊宏：当院における肩腱板縫合術後のリ
ハビリテーションの取り組み ADL 指導用パンフレットの作成と活用につ
いて。日本作業療法学会 (平成21年)

- 主な社会活動
- ・生活習慣病予防・健康増進に関する講演（福岡・北九州企業）
(平成22年～平成24年)
 - ・第33回九州理学療法士・作業療法士合同学会 教育講演 司会 (平成23年11月)
 - ・第47回日本理学療法学会 ステージプレゼンテーション講師
(平成24年5月)
 - ・第1回産業理学療法研究会 研修会 講師 (平成24年12月)
 - ・第22回福岡県理学療法士学会 市民公開講座 講師 (平成25年2月)
 - ・労働衛生コンサルタント会 腰痛予防対策講習会講師
(平成25年～平成26年)
 - ・北九州マラソン2014（医療・救護）ボランティアスタッフ (平成26年2月)
 - ・第97回福岡県理学療法士会 学術研修大会 特別講演 司会 (平成26年6月)
 - ・福岡県理学療法士会 平成26年度新人研修会 講師 (平成26年9月)
 - ・平成26年度北九州市民カレッジ講師 (平成26年12月)
 - ・中央労働災害防止協会 腰痛予防対策講習会講師
(平成26年～平成27年1月)

- ・第 24 回福岡県理学療法士学会 特別講演 司会 (平成 27 年 2 月)
- ・第 1 回日本予防理学療法学会学術集会 座長 (平成 27 年 2 月)
- ・第 98 回福岡県理学療法士学会学術研修大会 特別講演 司会 (平成 27 年 6 月)
- ・第 50 回日本理学療法学術大会 座長 (平成 27 年 6 月)
- ・福岡県理学療法士会 平成 27 年度新人研修会 講師 (平成 27 年 10 月)
- ・福岡県理学療法士会 北九州 2 地区勉強会 講師 (平成 27 年 11 月)
- ・財団法人日本少年野球連盟福岡県北支部所属チーム指導 (平成 24 年度～現在)

- 所 属 学 会
- 産業理学療法研究会 幹事 (平成 23 年度～現在に至る)
 - 社団法人福岡県理学療法士会 理事 (平成 19 年度～平成 24 年度)
 - 公益社団法人福岡県理学療法士会 理事 (平成 25 年度～現在に至る)
 - 公益社団法人日本理学療法士協会 代議員 (平成 26 年度～現在に至る)
 - 日本予防理学療法学会 運営幹事 (平成 26 年度～現在に至る)
 - 公益社団法人福岡県理学療法士会 学術誌編纂委員会 委員長
(平成 27 年度～現在に至る)
 - 公益社団法人福岡県理学療法士会 査読委員会 委員長 (平成 27 年度～現在に至る)
 - 公益社団法人福岡県理学療法士会 研究助成審査会 委員長
(平成 27 年度～現在に至る)
 - 公益社団法人福岡県理学療法士会 組織検討委員会 委員
(平成 27 年度～現在に至る)
 - 理学療法科学学会 学会員
 - 日本職業・災害医学会 学会員
-

野村 健 Takeshi Nomura 准教授

所属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担当科目	〔リハビリテーション学部 理学療法学科〕 生理学Ⅰ・Ⅱ、解剖生理学総合実習（生理学実習）、健康スポーツ科学、理学療法ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、理学療法基礎演習、理学療法専門演習、卒業論文 〔リハビリテーション学部 作業療法学科〕 生理学Ⅰ・Ⅱ、解剖生理学総合実習（生理学実習）、健康スポーツ科学
専門分野	生物物理学、生理学、運動生理学
学歴	平成8年3月福岡大学体育学部体育学科中途退学（大学院早期進学の為：飛び級） 平成10年3月福岡大学大学院体育学研究科 運動健康学専攻 修士課程修了 平成14年3月名古屋大学大学院医学系研究科 健康・スポーツ医学専攻 博士課程修了
学位	平成10年3月 修士（体育学）福岡大学（第2077号） 平成14年3月 博士（医学）名古屋大学（甲種 第5270号）
職歴	科学技術振興事業団 国際共同研究「細胞力覚プロジェクト」技術補佐員 （平成14年4月1日～平成14年10月15日） 名古屋大学大学院医学系研究科 第二生理学教室 産学官連携研究員 （平成14年10月16日～平成15年3月31日） 独立行政法人 科学技術振興機構 国際共同研究「細胞力覚プロジェクト」技術員 （平成15年4月1日～平成16年5月31日） 独立行政法人 科学技術振興機構 国際共同研究「細胞力覚プロジェクト」研究員 （平成16年6月1日～平成16年12月31日） 独立行政法人 科学技術振興機構 継続発展研究 「ナノマイクロ超分子複合体によるイオンチャンネル機構の解明」 研究員（平成17年1月1日～平成22年3月31日） Victor Chang Cardiac Research Institute（ビクター・チャン心臓研究所：オーストラリア） ポストドクトラルフェロー（平成22年4月6日～平成25年3月20日） 京都府立医科大学大学院 医学研究科バイオミクス講座 助教 （平成25年4月1日～平成27年3月31日） 京都府立医科大学大学院 医学研究科細胞生理学 助教（兼任） （平成25年4月1日～平成27年3月31日） 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 准教授 （平成27年4月1日～現在に至る） ○生理学Ⅰ・Ⅱ、○運動生理学、○解剖生理学総合実習、 ○健康スポーツ科学 担当

主な研究活動 【著書】

1. B. Martinac, P. Rhode, C. Cranfield and T. Nomura. Patch-clamp electrophysiology for the study of bacterial ion channels in giant

- spheroplasts of *E. coli*. *Methods Mol Biol.* 966: 367-380, 2013
2. Charles G. Cranfield, Ania Kloda, Takeshi Nomura, Evgeny Petrov, Andrew Battle, Maryrose Constantine and Boris Martinac. Force from lipids: A multidisciplinary approach to study bacterial mechanosensitive ion channels. *Mechanically Gated Channels and their Regulation* Volume 6 - Kamkin & Lozinsky - eds, Springer, 1-33, 2012
 3. Cranfield C, Kloda A, Petrov E, Battle A, Nomura T., Rohde P, Cox C and Martinac B. Techniques for investigating the mechanosensitivity of ion channels. *Encyclopedia of Biophysics*, Springer, 1-9, 2012

【原著論文】

1. Nomura T, Cox CD, Bavi N, Sokabe M and Martinac B. Unidirectional incorporation of a bacterial mechanosensitive channel into liposomal membranes. *FASEB J.* 29(10): 4334-45, 2015 (査読有り)
2. Almanjahie IM, Khan RN, Milne RK, Nomura T and Martinac B. Hidden Markov analysis of improved bandwidth mechanosensitive ion channel data. *Eur Biophys J.* 44(7): 545-56, 2015 (査読有り)
3. Radomir I. Slavchov, Takeshi Nomura, Boris Martinac, Masahiro Sokabe and Frederick Sachs. Gigaseal mechanics: creep of the gigaseal under the action of pressure, adhesion and voltage. *J. Phys. Chem B.* 118(44): 12660-72, 2014 (査読有り)
4. Shaista Shaikh, Takeshi Nomura, Charles D Cox and Boris Martinac. Energetics of gating MscS by membrane tension in azolectin liposomes and giant spheroplasts. *Channels.* 8(3): 1-6, 2014 (査読有り)
5. Yong Wang, Yanxin Liu, Hannah DeBerg, Takeshi Nomura, Melinda Hoffman, Paul Rohde, Klaus Schulten, Boris Martinac and Paul Selvin. Single Molecule FRET Reveals Pore Size and Opening Mechanism of MscL. *eLIFE.* 3: e01834, 2014 (査読有り)
6. Cox CD, Nomura T, Ziegler CS, Campbell AK, Wann KT and Martinac B. Selectivity mechanism of the mechanosensitive channel MscS revealed by probing channel subconducting states. *Nature Communications.* 4(7): 2137, 2013 (査読有り)
7. Petrov E, D. Palanivelu, M. Constantine, PR Rohde, CD Cox, T. Nomura, DL Minor Jr and B. Martinac. Patch-clamp characterization of the MscS-like mechanosensitive channel from *Silicibacter pomeroyi*. *Biophys J.* 104(7): 1426-1434, 2013 (査読有り)
8. Becker M, K. Börngen, T. Nomura, AR Battle, K. Marin, B. Martinac and R. Krämer. Glutamate efflux mediated by *Corynebacterium glutamicum* MscCG, *Escherichia coli* MscS, and their derivatives. *Biochim Biophys Acta.* 1828(4): 1230-1240, 2013 (査読有り)

9. Nomura T, CG Cranfield, E. Deplazes, DM Owen, A. Macmillan, AR Battle, M. Constantine, M. Sokabe and B. Martinac. Differential effects of lipids and lyso-lipids on the mechanosensitivity of the mechanosensitive channels MscL and MscS. *Proc Natl Acad Sci U S A*. 109(22): 8770-8775, 2012 (査読有り)
10. Corry B, AC Hurst, P. Pal, T. Nomura, P. Rigby and B. Martinac. An improved open-channel structure of MscL determined from FRET confocal microscopy and simulation. *J. Gen. Physiol.* 136(4): 483-494, 2010 (査読有り)
11. Nomura T, M. Sokabe and K. Yoshimura Interaction between the cytoplasmic and transmembrane domains of the mechanosensitive channel, MscS. *Biophys. J.* 94(5): 1638-1645, 2008 (査読有り)
12. Nomura T, M. Sokabe and K. Yoshimura Lipid-protein interaction of the MscS mechanosensitive channel examined by scanning mutagenesis. *Biophys. J.* 91(8): 2874-2881, 2006 (査読有り)
13. Yoshimura K., T. Nomura, and M. Sokabe. Loss-of-function mutations at the rim of the funnel of mechanosensitive channel MscL. *Biophys. J.* 86(4): 2113-2120, 2004 (査読有り)

【総説】

1. Cox, CD, Nakayama, Y, Nomura, T and Boris Martinac. The evolutionary 'tinkering' of MscS-like channels: generation of structural and unctional diversity. *Pflügers Archiv - Eur J Physiol.* 467(1): 3-13, 2015 (査読有り)
2. Martinac B, Nomura T, Chi G, Petrov E, Rohde PR, Battle AR, Foo A, Constantine M, Rothnagel R, Carne S, Deplazes E, Cornell B, Cranfield CG, Hankamer B and Landsberg MJ. Bacterial mechanosensitive channels: Models for studying mechanosensory transduction. *Antioxid Redox Signal.* 20(6): 952-969, 2014 (査読有り)
3. 吉村建二郎, 野村健, 曾我部正博 細胞メカノセンサーの実体と機能, *日本物理学会誌*, 62(1): 9-15, 2007 (査読有り)

【学会発表】

(国内会議)

1. 野村健, 曾我部正博, Boris Martinac 細菌機械受容チャネルMscSのリポソーム膜上での配向 (ポスター発表), 第51回日本生物物理学会,
(国立京都国際会館, 平成25年10月28日)
2. Nomura T and B. Martinac. Orientation of the bacterial mechanosensitive channel MscS in liposomal membranes. (Oral),
(The 36th Australian Society for Biophysics, Sydney UNSW Kensington Campus, Australia, 平成24年12月3日)

3. Nomura T., CG. Cranfield and B. Martinac. Patch fluorimetry to measure the membrane tension required to gate mechanosensitive ion channels. (Poster), (The 35th Australian Society for Biophysics, Wollongong, Australia, 平成23年12月5日)
4. Nomura T., AR. Battle and B. Martinac. Lipid and lyso-lipid effects on the behavior of liposome co-reconstituted MscS and MscL. (Poster), (The 34th Australian Society for Biophysics, Adelaide, Australia, 平成22年11月29日)
5. 野村健, 吉村建二郎, 曾我部正博 クロルプロマジジンによる細菌機械受容チャネルMscLの活性化機構 (ポスター発表),
(第46回日本生物物理学会, 福岡国際会議場, 平成20年12月15日)
6. 野村健, 吉村建二郎, 曾我部正博 クロルプロマジジン (CPZ) による機械受容チャネルMscLのチャネル活性の修飾 (ポスター発表)
(第85回日本生理学会, 京王プラザホテル東京, 平成20年3月25日)
7. 野村健, 吉村建二郎, 曾我部正博 大腸菌機械受容チャネルMscSの細胞質ドメインと膜貫通ヘリックスを繋げるループドメインとの静電的相互作用はゲーティングキネティクスに影響を及ぼす (ポスター発表)
(第84回日本生理学会, 大阪国際交流センター, 平成19年3月22日)
8. 野村健, 吉村建二郎, 曾我部正博 大腸菌機械受容チャネルMscSの電位センサー部位の探索 (ポスター発表)
(第83回日本生理学会, 群馬県民会館・前橋商工会議所, 平成18年3月28日)
9. 野村健, 吉村建二郎, 曾我部正博 大腸菌機械刺激受容チャネルMscSの電位センサーの探索 (ポスター発表)
(第43回日本生物物理学会, 札幌コンベンションセンター, 平成17年11月24日)
10. 野村健, 吉村建二郎, 曾我部正博 大腸菌機械刺激受容チャネルMscSのメカノセンサー部位の同定 (ポスター発表)
(第42回日本生物物理学会, 京都国際会議場, 平成16年12月14日)
11. 野村健, 吉村建二郎, 曾我部正博 大腸菌機械受容チャネル MscS の張力センサー部位の同定 (ポスター発表)
(第81回日本生理学会 札幌コンベンションセンター, 平成16年6月2日)
12. 野村健, 吉村建二郎, 曾我部正博 機械的刺激受容チャネルMscLの突然変異体の発現が大腸菌の表現型に及ぼす影響 (ポスター発表)
(第80回日本生理学会, マリンメッセ福岡, 平成15年3月26日)

(国際会議)

1. Nomura T., M. Sokabe and B. Martinac. The right-side-out orientation of MscS in liposomal membranes. (Poster) Biophysical Society 57th Annual Meeting, Philadelphia, Pennsylvania. 平成25年2月2-6日
2. Nomura T., Battle AR and B. Martinac. Lipid and liso-lipid effects on the mechanosensitivity of co-reconstituted MscS and MscL. (Poster)

ICCPB2011, Nagoya, Japan. 平成23年6月2日

3. Nomura T., Battle AR and B. Martinac. Lipid and liso-lipid effects on the mechanosensitivity of liposome co-reconstituted MscS and MscL. (Poster) Biophysical Society 55th Annual Meeting, Baltimore, Maryland. 平成23年5月7日
4. Nomura T., AR. Battle and B. Martinac. Lipid and lyso-lipid effects on the mechanosensitivity of liposome co-reconstituted MscS and MscL. (Oral) 7th Asian Biophysics Association (ABA) Symposium & Annual Meeting of the Indian Biophysical Society (IBS) 2011, Delhi, India. 平成23年1月30日
5. Nomura T., K. Yoshimura and M. Sokabe. Activation mechanism of bacterial mechanosensitive channel MscL by chlorpromazine. (Poster), The 13th International membrane research forum, Kyoto, 平成22年1月28日
6. Nomura T., K. Yoshimura and M. Sokabe. Activation mechanism of bacterial mechanosensitive channel MscL by chlorpromazine. (Poster), XXXVI IUPS, Kyoto, 平成21年7月27日-8月1日
7. Nomura T., K. Yoshimura and M. Sokabe. Interaction between the cytoplasmic and transmembrane domains of the mechanosensitive channel MscS. (Poster), The 11th Membrane research forum, Kyoto, 平成20年2月21日
8. Nomura T., K. Yoshimura and M. Sokabe. Electrostatic interaction between cytoplasmic vestibule and a loop connecting transmembrane helices is crucial in the mechano-gating of MscS. (Poster), Biophysical Society 51th Annual Meeting, Baltimore, Maryland, 平成19年3月4日
9. Nomura T., K. Yoshimura and M. Sokabe. Voltage Dependence of the Adaptation in MscS Occurs Independent of the Charged Residues in the Transmembrane Domain. (Poster), The 9th Membrane research forum, Kyoto, 平成18年5月17日
10. Nomura T., K. Yoshimura and M. Sokabe. Voltage Dependence of the Adaptation in MscS Occurs Independent of the Charged Residues in the Transmembrane Domain. (Poster), Biophysical Society 50th Annual Meeting, Salt Lake City, Utah, 平成18年2月20日
11. Nomura T., K. Yoshimura and M. Sokabe. Exploring the Lipid-Protein Interface Essential to the Mechanosensitivity of MscS, a Mechanosensitive channel from *E. coli*. (Poster), Biophysical Society 49th Annual Meeting, Long Beach, California, 平成17年2月14日
12. Nomura T., K. Yoshimura and M. Sokabe. Exploring the Lipid-Protein Interface Essential to the Mechanosensitivity of MscS, (Poster), The 8th Membrane research forum, Nagoya, 平成16年11月24日

(招待講演)

Takeshi Nomura The Effects of Lipid Environment on the
Mechanosensitivity of Bacterial Mechanosensitive Channel.
Mechanosensory Transduction Symposium, Gold Coast, Australia,
August 2, 2014

(研究会)

1. 野村健, 曾我部正博 細菌機械受容チャネルの機械刺激感受性に対する脂質環境の効果 (口頭) (岡崎生理学研究所, 平成25年9月5日)
2. 野村健 機械受容チャネルMscSの活性化・不活性化の分子メカニズム, 膜機能分子ダイナミクス of 分子機構解明に向けて (口頭) (岡崎生理学研究所, 平成19年9月7日)
3. 野村健 機械受容チャネルMscLとMscSの機械刺激感受性と電位依存性, 第2回VSP研究会, (筑波大学下田臨海実験研究センター, 平成18年6月20日) (口頭)

所 属 学 会 日本生物物理学会
日本生理学会
アメリカ生物物理学会 (Biophysical Society)

受 賞 歴 7th Asian Biophysics Association (ABA) Symposium 2011 Travel Award
(平成 23 年 1 月)

競争的資金の
獲得状況

1. 文部科学省科学研究費補助金 (基盤 C 生理学一般) 課題番号 26460300
研究課題: パッチフルオロメトリー法を用いた機械刺激によるパネキシン 1
の活性化機構の解析 (研究代表者)
(平成 26 年 4 月～平成 29 年 3 月) (予定)
2. 公益財団法人山田科学振興財団長期間派遣援助
研究課題: 細菌機械受容チャネルのゲーティング機構の解明 (研究代表者)
(平成 22 年)

長 住 達 樹 NAGAZUMI Tatsuki 准教授

所 属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科

担 当 科 目 [リハビリテーション学部 理学療法学科]
骨関節障害系運動療法、骨・関節障害系理学療法Ⅰ、
理学療法ゼミナールⅠ・Ⅱ、
理学療法基礎演習、理学療法専門演習、卒業論文、臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

専 門 分 野 社会医学、健康科学（地域理学療法学／生活環境支援／介護予防）

最 終 学 歴 群馬大学大学院医学系研究科博士（前期課程）保健学専攻理学療法分野 修了

学 位 修士（保健学）
学士（社会福祉学）

職 歴 医療法人山部会 竜山内科リハビリテーション病院 （平成6年4月～）
医療法人信愛会 本多病院 （平成11年11月～）
前橋医療福祉専門学校 （平成12年7月～）
国際医療福祉大学 福岡リハビリテーション学部 助手 （平成17年4月～）
○西九州大学リハビリテーション学部 講師 （平成19年4月～）
「運動学」「臨床運動学」「理学療法評価学」「臨床実習」担当
○仙台青葉学院短期大学リハビリテーション学科 准教授
理学療法学専攻 副専攻長（平成26年4月～）
「理学療法評価学」「物理療法学」「臨床実習」担当
○九州栄養福祉大学リハビリテーション学部 理学療法学科 准教授
（平成28年4月～現在に至る）
「骨関節障害系理学療法」「理学療法ゼミナール」「臨床実習」担当

教育上の業績 【理学療法士教育専門担当科目】

「運動学」：西九州大学 講師 （平成20年4月～平成25年3月）
「運動学実習」：西九州大学 講師 （平成20年10月～平成24年3月）
「臨床運動学」：西九州大学 講師 （平成20年10月～平成24年3月）
「PT評価学」：西九州大学 講師 （平成20年10月～平成25年3月）
「PT評価学実習」：西九州大学 講師 （平成20年4月～平成25年3月）
「リハビリテーション論」：西九州大学 講師 （平成20年4月～平成25年5月）
「臨床実習」：西九州大学 講師 （平成20年2月～平成25年3月）
「介護予防論」：西九州大学短期大学部 講師 （平成20年10月～平成25年12月）
「地域PT学」：西九州大学 講師 （平成21年10月～平成24年3月）
「卒業研究」：西九州大学 講師 （平成21年4月～平成25年3月）
「物理療法学」：仙台青葉学院短期大学 准教授（平成26年4月～平成28年3月）
「PT評価学」：仙台青葉学院短期大学 准教授（平成26年4月～平成28年3月）

【学会等役職および実績】

- 群馬県理学療法士会 厚生局・事務局 理事 (平成13年4月～平成17年3月)
群馬県理学療法士会 新人症例検討会 セッション座長 (平成15年3月)
群馬県理学療法士会 新人教育プログラム 講師 (平成13年～平成16年)
佐賀県理学療法士会 新人教育プログラム 講師 (平成19年～平成23年)
佐賀県理学療法士会 学術大会 セッション 座長 (平成22年、平成25年)
第28回リハビリテーション教育研究・教員研修会 実施運営委員
(平成27年8月)
東北理学療法学会 小ホール総括責任者 (平成27年11月)

主な研究活動 【著書】

- 1) 「概説理学療法 第2版」(分担執筆) p149-p156 (文光堂(東京)2015.12)

【学術論文等】

- 1) 長住達樹, 矢倉千昭, 金子秀雄, 田原弘幸: 理学療法の基礎実習に対する感情反応と情動的共感性, 社会的スキルおよび向社会的行動との関連
(国際医療福祉大学リハビリテーション学部紀要(2):1-5,2006)
- 2) 矢倉千昭, 高村昇, 長住達樹, 森下志子, 青柳潔: Evaluation of cardiovascular risk factors and related clinical markers in healthy young Japanese adults.
(日本人若年齢層における心血管リスク因子と臨床マーカー評価との関連について) (Clin Chem Lab Med. 45(2):220-5,2007)
- 3) 長住達樹, 小松洋平, 堀江淳: IT機器(ライフコーダー)を活用した介護予防教室の試み(西九州リハビリテーション研究1(1):47-50,2008)
- 4) 小松洋平, 長住達樹, 上城憲司: 介護予防事業に参加した高齢者の日常的活動量ー認知機能低下群と健常群と比較ー
(柳川リハビリテーション学院・福岡国際医療福祉学院紀要(4):55-62,2009)
- 5) 中山 朗, 長住達樹, 井福裕俊: 足関節背屈可動域の改善が片脚スクワット時の knee-in 量の及ぼす影響
(熊本県体育協会スポーツ医科学常任委員会・専門委員会紀要(25):39-44,2010)
- 6) 中山 朗, 長住達樹: 成長期児童の下肢柔軟性と体格との関係
(理学療法科学 26(1):19-22,2011)
- 7) 藤原和彦, 村田伸, 上城憲司, 小松洋平, 長住達樹, 堀江淳, 久保温子, 青山宏: 介護予防に参加している高齢者の身体機能の年齢差と性差
(西九州リハビリテーション研究 5(1):33-36, 2012)

- 8) 宮原洋八, 長住達樹, 小松洋平, 藤原和彦, 田中真一, 大田尾浩, 田平隆行, 上城憲司: 介護予防教室参加者の運動機能、生活機能に及ぼす運動介入の影響 (体育の科学 65(1):73-77,2015)

【学会発表、翻訳その他の業績】

- 1) 長住達樹, 矢倉千昭, 甲斐悟, 森下志子, 田原弘幸, 高橋精一郎: 臨床場面における対人関係が困難な学生の心理的傾向 (第41回日本理学療法学術大会 (群馬), 2006)
- 2) 曾田武史, 矢倉千昭, 中川浩, 大石賢, 村上武士, 長住達樹, 田原弘幸: 小型チップによる足底への刺激がヒラメ筋 H 反射に及ぼす影響 (第41回日本理学療法学術大会 (群馬), 2006)
- 3) 甲斐悟, 中原雅美, 渡利一生, 吉本隆司, 村上茂雄, 長住達樹, 森下志子, 矢倉千昭, 高橋精一郎, 田原弘幸: 健常男性における最大下跳躍時の膝関節角度と跳躍距離の関係 (第41回日本理学療法学術大会 (群馬), 2006)
- 4) 甲斐悟, 渡利一生, 吉本隆司, 小川優美, 長谷真由, 金海武志, 岩崎宏, 長住達樹, 森下志子, 矢倉千昭, 高橋精一郎, 田原弘幸, 高嶋幸男: 脳梗塞後の神経再生: Nestin と PGP9.5 の発現 (第41回日本理学療法学術大会 (群馬), 2006)
- 5) 長住達樹, 堀江淳, 小松洋平: 運動の習慣化を目的とした介護予防教室の取り組み (第43回日本理学療法学術大会 (福岡), 2008)
- 6) 長住達樹, 中山朗: 年齢要因からみた介護予防教室実施期間の妥当性について (第64回日本体力医学会 (新潟), 2010)
- 7) 中山朗, 長住達樹: 小学生の下肢柔軟性について (第64回日本体力医学会 (新潟), 2010)
- 8) 長住達樹, 中山朗: 4方向リーチテストの臨床的特性について (第45回日本理学療法学術大会 (岐阜), 2011)
- 9) 中山朗, 長住達樹: 弛緩時と収縮時の筋硬度の変化と筋力の関連について (第45回日本理学療法学術大会 (岐阜), 2011)

- 主な社会活動
- ・大川市産官学連携プロジェクト「福祉家具デザイン企画」 (平成18年)
 - ・佐賀県吉野ヶ里町 特定高齢者介護予防教室指導 (平成19年7月～平成25年3月)
 - ・独立行政法人国立病院機構 肥前精神医療センター研修会 講師 (平成19年8月)

- ・佐賀県社会福祉協議会「運動器の機能向上」講師 (平成 19 年～平成 22 年)
- ・みやき町地域虚弱高齢者健康教室「転倒予防教室」講師
(平成 21 年～平成 23 年)
- ・社会福祉法人めぐみ厚生センター「介護技術について」講師 (平成 24 年 11 月)
- ・岩沼市デイサービスたんぼぼ主催「歩行について」講師
(平成 26 年 5 月～11 月)

所 属 学 会 日本理学療法士協会 (1994 年～現在に至る)
福岡県理学療法士会 (2005年～2006年、2016年～現在に至る)
日本体力医学会 (2008 年～現在に至る)
実践的グラウンデッドセオリーアプローチ (M-GTA) 研究会

中 藤 佳 絵 NAKATOU Kae 講師

所 属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科

担 当 科 目 [リハビリテーション学部 理学療法学科]
理学療法ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、中枢神経障害系理学療法Ⅰ、
日常生活活動分析、日常生活活動支援、水治・温熱・光線系物理療法、
理学療法基礎演習、理学療法専門演習、卒業論文、地域ケア方法、
臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
[東筑紫短期大学 美容ファッションビジネス学科 ファッション・ビジネスコース]
人体の形態と機能

専 門 分 野 日常生活活動

最 終 学 歴 九州リハビリテーション大学校 (平成 5 年度卒業)
放送大学 教養学部 生活と福祉専攻 (平成 22 年度卒業)

学 位 学士

職 歴 宗像水光会総合病院 リハビリテーション部 (平成 6 年 4 月～平成 10 年 4 月)
独立行政法人国立病院機構 東佐賀病院リハビリテーション科
(平成 11 年 6 月～平成 15 年 3 月)
独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター附属リハビリテーション学院理
学療法学科 (平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月)
専門学校 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科
(平成 18 年 4 月～平成 23 年 3 月)
九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 講師
(平成 23 年 4 月～現在に至る)

教育上の業績 ・1 学年担任

- 講義に使用する教科書の執筆
「理学療法学テキストⅤ日常生活活動 (ADL) 第 2 版」(神稜文庫)
「理学療法学テキストⅥ義肢装具学第 2 版」(神稜文庫)

主な研究活動 ○問題解決型学習終了後に OSCE を用いた臨床実習開始前の学生評価について
○女性高齢者尿失禁予防教室への理学療法士としての取り組み
○北九州市における尿失禁予防教室<第 1 報>～教室開催の背景とその概要
○北九州市における尿失禁予防教室<第 2 報>～骨盤底筋体操と生活指導を中心に
○北九州市における尿失禁予防教室<第 3 報>～教室の効果と今後の課題
○蓄尿障害が生活の質に与える影響について～ICIQ-SF を用いて～
○女性尿失禁患者に対する理学療法士らによる下部尿路リハビリテーションの介
入効果～QOL 評価～

主な社会活動 ・北九州市立年長者研修大学校講義 (体力測定)
・北九州市による女性尿失禁予防事業
・尿失禁予防体験会

・北九州市による女性高齢者尿失禁予防事業 平成 19・20・25 年度実務者講習

所 属 学 会 日本理学療法士協会
老年泌尿器科学科
日本女性骨盤底医学会

吉田遊子 YOSHIDA Yuko 講師

所属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科

担当科目 [リハビリテーション学部 理学療法学科]

理学療法ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、系統別理学療法評価、

理学療法評価学基礎技術演習Ⅰ・Ⅱ、理学療法基礎演習、理学療法専門演習、

卒業論文、地域ケア方法、臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

[東筑紫短期大学 美容ファッションビジネス学科 ファッション・ビジネスコース]

人体の形態と機能

専門分野 理学療法評価学

最終学歴 佛教大学 社会学部 社会福祉学科

学位 学士

職歴 医療法人社団宗像水光会総合病院リハビリテーション部 理学療法士

(平成7年4月～平成17年3月)

専門学校 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科 助手

(平成17年4月～平成23年3月)

同科 講師

(平成23年4月～平成24年3月)

九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 講師

(平成24年4月～現在に至る)

教育上の業績 【作成した教材】

○理学療法学科臨床実習前における客観的臨床能力試験 (OSCE) の開発

【執筆】(いずれも分担執筆)

『生活環境論』(第1版) (平成18年4月,神陵文庫)

『理学療法学事典』(第1版) (平成18年4月,医学書院)

『日常生活活動 (ADL)』(第2版) (平成19年4月,神陵文庫)

『義肢装具学』(第1版) (平成20年4月,神陵文庫) 第2版 (平成27年3月)

『標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学』(第3版)

(平成21年2月,医学書院)

『実践 MOOK・理学療法プラクティス 関節可動域制限』(第1版)

(平成21年10月,文光堂)

主な研究活動 【研究論文】

1) 中藤佳絵、吉田遊子、神崎良子、橋元 隆：「北九州市における尿失禁予防教室 第1報 -教室開催の背景とその概要-」

(九州栄養福祉大学研究紀要 第8号,平成23年12月22日)

2) 神崎良子、吉田遊子、中藤佳絵：「北九州市における尿失禁予防教室 第2報 -教室開催の背景とその概要-」

(九州栄養福祉大学研究紀要 第8号,平成23年12月22日)

- 3) 吉田遊子、中藤佳絵、神崎良子、橋元 隆：「骨盤底筋の筋機能評価の試行」
(九州栄養福祉大学研究紀要 第 10 号, 平成 25 年 12 月 22 日)
- 4) 堤文生、石橋敏郎、神崎良子、中藤佳絵、吉田遊子、坂本親宣、大峯三郎、橋元隆、大島弘三：「臨床実習評価項目と実習成績との関連」
(九州栄養福祉大学研究紀要 第 10 号, 平成 25 年 12 月 22 日)
- 5) 吉田遊子、千代丸信一、石橋敏郎、廣滋恵一、中藤佳絵、神崎良子、井元 淳：「本学理学療法学科における客観的臨床能力試験 (OSCE) の試行」
(九州栄養福祉大学研究紀要 第 11 号, 平成 26 年 12 月)
- 6) 中藤佳絵、吉田遊子、神崎良子、橋元隆：「蓄尿障害が生活の質に与える影響について」
(九州栄養福祉大学研究紀要 第 11 号, 平成 26 年 12 月)

【学会発表】

- 1) 吉田遊子、神崎良子、中藤佳絵、橋元 隆、久保かおり、佐野志郎、西井久枝、松本哲朗：北九州市における高齢者尿失禁予防事業への関わり～理学療法士の立場から～, 第 28 回 日本老年泌尿器科学会, 平成 27 年 5 月, 学会長賞受賞
- 2) 神崎良子、吉田遊子、中藤佳絵、橋元 隆、久保かおり、佐野志郎、西井久枝、松本哲朗：北九州市における「女性のための尿失禁予防教室」参加者の高齢者実態調査について, 第 28 回 日本老年泌尿器科学会, 平成 27 年 5 月

(その他)

- ・「女性尿失禁患者に対する理学療法の介入効果～骨盤底筋と体幹筋の筋力が尿失禁症状に及ぼす影響～」 (平成 27 年 8 月～)

主な社会活動	高齢者体力測定	(平成 17 年～現在に至る)
	北九州市による女性のための尿失禁予防事業	(平成 19 年～現在に至る)
	尿もれ予防講座講師 (北九州市委託事業)	(平成 24 年～現在に至る)
	尿もれ予防体験会講師 (北九州市委託事業)	(平成 27 年～現在に至る)

所属学会 日本理学療法学会会員、日本老年泌尿器科学会会員、
NPO 法人排泄ケアを考える会 幹事

受賞歴 第 28 回日本老年泌尿器科学会学会長賞受賞 (平成 27 年 5 月)

神崎良子 KANZAKI Ryoko 講師

所属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担当科目 [リハビリテーション学部 理学療法学科]
理学療法ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、
疾患別理学療法評価学演習、理学療法基礎演習、理学療法専門演習、
卒業論文、地域ケア方法
専門分野 循環器疾患の理学療法
最終学歴 平成9年3月労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科卒業
学位 専門士
職歴 社会保険小倉記念病院入職、理学療法士免許取得（第26542号）（平成9年4月）
社会保険小倉記念病院退職（平成19年3月）
専門学校 九州リハビリテーション大学校（平成19年4月～平成25年3月）
九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 講師
（平成25年4月～現在に至る）

教育上の業績 ○北九州リハビリテーション学院 非常勤講師（平成17年～18年）
○九州リハビリテーション大学校にて「PTゼミナールⅠ～Ⅲ」、
「疾患別理学療法学Ⅲ」（内部障害系理学療法学）、
「理学療法評価学Ⅲ」（心肺運動負荷試験）を担当（平成19年～25年）
○福岡県看護協会 訪問看護研修ステップ2「リハビリテーション看護」講師
（平成22年11月）
○日本理学療法士協会 循環器卒前教育を考える Part3
「教育ガイドラインはどのようにできたか、基本的考え方と作成プロセス」講師
（平成23年1月）
○福岡県理学療法士会 北九州支部研修会「循環器疾患への対応について」講師
（平成23年9月）
○介護サービス従事者向け高齢者排泄ケア講習会
「下部尿路障害とその対処法」講師（平成26年11月）

主な研究活動 【論文】

- 「当院における心臓手術後の心臓リハビリテーションの問題点」
（心臓リハビリテーション第8巻第1号）
- 「待機的冠動脈ステント留置直後における運動療法の安全性に関する検討」
（心臓リハビリテーション第9巻第1号）
- 「冠動脈形成術後の心臓リハビリテーション」（ハートナーシング第17巻第8号）
- 「再入院を繰り返す慢性心不全患者の実態調査と疾病管理」
（心臓リハビリテーション第12巻第1号）
- 「北九州市における尿失禁予防教室 第2報—教室の効果と今後の課題—」
（九州栄養福祉大学研究紀要第8号 平成23年12月）

- 「北九州市介護予防十二式太極拳（ひまわりタイチー）における運動負荷の検証
（九州栄養福祉大学研究紀要第10号 平成25年12月）

【発表】

- 「急性期の包括的心臓リハビリテーションが慢性期の心イベント抑制につながるか？」
（第13回日本心臓リハビリテーション学会）
- 『北九州市における「女性のための尿失禁予防教室」参加者の高齢者実態調査について』
（第28回日本老年泌尿器科学会）

- 主な社会活動
- ・北九州市女性のための尿失禁予防教室（北九州市委託事業）
（平成19年4月～現在に至る）
 - ・北九州市介護認定審査会審査委員
（平成22年2月～現在に至る）
 - ・第15回日本心臓リハビリテーション学会座長（ポスター発表／身体活動・ADL）
（平成21年）
 - ・第16回日本心臓リハビリテーション学会座長（ポスター発表／身体活動・ADL）
（平成22年）
 - ・メディックスクラブ（維持期心臓リハビリテーション）小倉支部運営委員
（平成23年～現在に至る）
 - ・尿もれ予防講座（北九州市委託事業）
（平成24年～現在に至る）
 - ・排泄ケアを考える会会員
（平成26年～現在に至る）

- 所属学会
- 日本理学療法士協会
（平成9年～現在に至る）
 - 日本心臓リハビリテーション学会
（平成13年～現在に至る）
 - 日本心血管カテーテル学会
（平成13年～現在に至る）
（平成21年より日本心血管インターベンション学会に名称変更）
 - 日本呼吸療法医学会
（平成16年～現在に至る）
 - NPO法人 ジャパンハートクラブ活動会員
（平成17年～現在に至る）
 - NPO法人 日本コンチネンス協会会員
（平成25年～現在に至る）
-

吉田大輔 YOSHIDA Daisuke 講師

所属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科

担当科目 [リハビリテーション学部 理学療法学科]

情報処理演習Ⅰ・Ⅱ、臨床統計、障害者スポーツ、障害スポーツ、福祉住環境、
理学療法ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、理学療法基礎演習、理学療法専門演習、
卒業論文、臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

[リハビリテーション学部 作業療法学科]

障害者スポーツ

[東筑紫短期大学 専攻科 (介護福祉専攻)]

福祉住環境論

専門分野 老年医学

最終学歴 鹿屋体育大学大学院 体育学研究科 体育学専攻

学位 博士 (体育学)

職歴 医療法人尚整会 菅整形外科病院リハビリテーション科 (平成15年～平成21年)
国立研究開発法人 長寿医療研究センター 研究員 (平成22年～平成26年)
長寿科学振興財団 リサーチ・レジデント (平成23年～平成26年)
医療法人和光会 介護老人保健施設 恵仁荘 (平成26年～平成27年)
九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 講師 (平成27年～現在に至る)

教育上の業績 ○理学療法士養成校の臨床実習生の教育指導 (平成16年～平成21年)
○国立大学法人 長崎大学 (非常勤講師) (平成21年～平成22年)
○長崎市医師会看護専門学校 (非常勤講師) (平成22年)

主な研究活動 【著書】

- 牧迫飛雄馬, 吉田大輔, 土井剛彦, 阿南祐也, 堤本広大, 上村一貴.
「認知症予防マニュアル 記憶力の向上を目指したプログラム」第3章, 第9章.
鈴木隆雄監修, 島田裕之編集, (東海共同印刷, 2012.)
- 島田裕之, 吉田大輔. Q.8 サルコペニアの診断基準はありますか.
「サルコペニア 24 のポイント～高齢者への適切なアプローチをめざして～」
関根里恵, 小川純人編集, (フジメディカル出版, 2013.)
- 吉田大輔. サルコペニアの評価指標 筋量測定.
「サルコペニアと運動 エビデンスと実践」
島田裕之編集 (医歯薬出版, 2014.)
- 吉田大輔. MCI の認知機能の特徴 言語機能.
「基礎からわかる軽度認知障害 (MCI) -効果的な認知症予防を目指して-」
鈴木隆雄監修, 島田裕之編集, (医学書院, 2015.)

- 吉田大輔. フレイルの有症率と危険因子.
「フレイルの予防とリハビリテーション」 島田裕之編集 (医歯薬出版, 2015.)
【学術論文】
- Yoshida D, Nakagaichi M, Saito K, Wakui S, Yoshitake Y. The relationship between physical fitness and ambulatory activity in very elderly women with normal functioning and functional limitations.
(J Physiol Anthropol, 29(6): 211-218, 2010.)
- Yoshida D, Shimada H, Harada A, Matsui Y, Sakai Y, Suzuki T. Estimation of appendicular muscle mass and fat mass by near infrared spectroscopy in older persons. (Geriatr Gerontol Int, 12(4): 652-658, 2012.)
- Yoshida D, Shimada H, Makizako H, Doi T, Ito K, Kato T, Shimokata H, Washimi Y, Endo H, Suzuki T. The relationship between atrophy of the medial temporal area and daily activities in older adults with mild cognitive impairment. (Aging Clin Exp Res, 24(5): 423-429, 2012.)
- Yoshida D, Shimada H, Park H, Anan Y, Ito T, Harada A, Suzuki T. Development of an equation for estimating appendicular skeletal muscle mass in Japanese older adults using bioelectrical impedance analysis. (Geriatr Gerontol Int, 14: 851-857, 2014.)
- Yoshida D, Suzuki T, Shimada H, Park H, Makizako H, Doi T, Anan Y, Tsutsumimoto K, Uemura K, Ito T, Lee S. Using two different algorithms to determine the prevalence of sarcopenia. (Geriatr Gerontol Int, 14(suppl. 1): 46-51, 2014.)
- 【学会発表】
- Yoshida D, Shimada H, Makizako H, Doi T, Ito K, Kato T, Shimokata H, Washimi Y, Endo H, Suzuki T. The relationship between atrophy of the medial temporal area and daily activities in community-dwelling older adults. (Alzheimer's Association International Conference on Alzheimer's Disease, July 19, 2011, Paris, France.)
- 吉田大輔, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 伊藤健吾, 加藤隆司, 下方浩史, 鷺見幸彦, 遠藤英俊, 鈴木隆雄.
「地域高齢者における内側側頭葉の脳萎縮と日常生活活動との関係」
(第46回日本理学療法学会学術大会, 2011.5.27-29, 宮崎.)

- 吉田大輔, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 鈴木隆雄.
「近赤外線分光法 (NIRS) を用いた高齢者の四肢筋量ならびに脂肪量の推定」
(第 1 回日本基礎理学療法学会学術集会, 2011.5.26, 宮崎.)
- 吉田大輔, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 伊藤健吾, 下方浩史, 鷺見幸彦,
遠藤英俊, 鈴木隆雄.
「認知障害と関連する日常生活活動の検討」
(第 53 回日本老年医学会学術集会, 2011.6.15-17, 東京.)
- 吉田大輔, 島田裕之, 阿南祐也, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 堤本広大, 上村一貴,
鈴木隆雄. 「肥満を伴ったサルコペニアは歩行機能と強く関連するか」
(第 47 回日本理学療法学会学術大会, 2012.5.25-27, 兵庫.)
- 吉田大輔, 阿南祐也, 伊藤忠, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 朴眩泰, 李相侖,
土井剛彦, 堤本広大, 上村一貴, 鈴木隆雄.
「生体インピーダンス値によって高齢者の四肢筋量を推定する回帰式の作成」
(第 48 回日本理学療法学会学術大会, 2013.5.24-26, 愛知.)
- 吉田大輔, 島田裕之, 朴眩泰, 阿南祐也, 伊藤忠, 鈴木隆雄.
「地域高齢者における血清 IGF-I と全身筋量との関連」
(第 49 回日本理学療法学会学術大会, 2014.5.30-6.1, 横浜.)
- 吉田大輔, 島田裕之, 林悠太, 鈴木隆雄.
「歩行アシストを用いた運動介入が要支援・要介護認定者の歩行機能と ADL にお
よぼす影響」
(第 70 回日本体力医学会大会, 2015.9.18-20, 和歌山.)
- 【総説】**
- 島田裕之, 吉田大輔. 「虚弱とサルコペニア (概念の相違)」
(Geriatr Med, 49(3): 291-295, 2011.)
- 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 吉田大輔, 土井剛彦, 堤本広大, 阿南祐也.
「介護予防の新たな方向性: 認知機能低下予防の効果」
(地域リハ, 6(12): 928-932, 2011.)
- 島田裕之, 吉田大輔. 「日本における認知症の現在と今後の動向」
(訪問リハビリテーション, 1(5): 309-313, 2011.)
- 島田裕之, 吉田大輔. 「サルコペニア診断のための筋量, 筋力の評価法」
(Bone Joint Nerve, 3(1): 61-66, 2013.)

主な社会活動

- ・第 47 回日本理学療法学会大会 査読 (平成 23 年)
- ・第 50 回日本理学療法学会大会 査読 (平成 26 年)
- ・第 26 回長崎県理学療法学会大会 座長・査読 (平成 27 年)
- ・第 70 回日本体力医学会大会 座長 (平成 27 年)
- ・九州理学療法士・作業療法士合同学会 2015 座長・査読 (平成 27 年)
- ・第 51 回日本理学療法学会大会 査読 (平成 27 年)
- ・福岡県理学療法士会 助成研究審査会委員 (平成 27 年～現在に至る)

所属学会

日本理学療法士協会	会員	(平成 15 年～現在に至る)
日本体力医学会	会員	(平成 21 年～現在に至る)
日本疫学会	会員	(平成 22 年～現在に至る)
日本老年医学会	会員	(平成 22 年～現在に至る)

井 元 淳 INOMOTO Atsushi 助教

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	[リハビリテーション学部 理学療法学科] 内部障害系理学療法Ⅰ、内部障害系運動療法、疾患別理学療法評価学演習、 理学療法研究法演習、理学療法ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、地域ケア方法、 理学療法基礎演習、理学療法専門演習、卒業論文、臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
専 門 分 野	内部障害系理学療法学、産業衛生学 3学会合同呼吸療法認定士、専門理学療法士（内部障害理学療法）、 呼吸ケア指導士
最 終 学 歴	広島大学医学部 保健学科 理学療法学専攻 （平成12年4月～平成16年3月） （保健学学士） 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科保健学専攻（平成22年4月～平成24年3月） （理学療法学修士）
学 位	修士（理学療法学） 学士（保健学）
職 歴	・医療法人財団池友会 福岡和白病院リハビリテーション科 （平成16年4月～平成22年4月） ・学校法人福岡保健学院 福岡和白リハビリテーション学院 専任教員 （平成22年5月～平成25年3月） ○「義肢装具学Ⅰ」、「義肢装具学Ⅱ」、「医学英語」、「運動学Ⅱ」、 「理学療法技術演習」 担当 ・社会医療法人財団池友会福岡和白病院リハビリテーション科非常勤 （平成23年1月～平成23年5月） ・独立行政法人労働者健康福祉機構 九州労災病院勤労者予防医療センター （平成25年4月～平成26年3月） ・学校法人東筑紫学園 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 助教 （平成26年4月～現在に至る） ○「基礎内部障害系理学療法」、「内部障害系運動療法」、 「内部障害系理学療法Ⅰ」、「水治・温熱・光線系物理療法」、 「地域ケア方法演習」、「理学療法基礎演習」、「理学療法専門演習」、 「理学療法研究法演習」、「卒業論文」担当
教育上の業績	○理学療法士養成校の学生に対する臨床実習指導 （平成19年～平成22年） ○福岡和白リハビリテーション学院における非常勤講師 （平成21年） ○福岡和白リハビリテーション学院における専任教員 （平成22年～平成25年）

主な研究活動 【学術論文】

- 1) Kanji Matsukawa, Tomoko Nakamoto, Atsushi Inomoto: Gadolinium does not blunt the cardiovascular responses at the onset of voluntary static exercise in cats: a predominant role of central command.
(Am J Physiol Heart Circ Physiol 292: 121-129, 2007)
- 2) 井元淳, 井ノ口尚美, 山口優実, 川端悠士: 「肺炎患者の入院期間に影響を与える要因の検討」
(理学療法福岡 22: 82-85, 2009)
- 3) 井元淳, 高宮尚美, 中野吉英, 川端悠士: 「肺炎患者の自宅復帰に影響を与える要因の検討」
(総合リハビリテーション 38(11): 1071-1075, 2010)
- 4) 井元淳, 甲斐尚仁, 真名子さおり, 片山亜有, 新貝和也, 千住秀明: 「誤嚥性肺炎患者と非誤嚥性肺炎患者の唾液分泌量と日内リズムの相違—唾液湿潤度での検討—」(日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 22(3): 385-390, 2012)
- 5) 井元淳, 豊永敏宏, 出口純子, 福田里香, 廣滋恵一: 「勤労者の上腕—足首脈波伝播速度に影響を与える要因の検討」
(日本職業・災害医学会会誌 62(2): 104-110, 2014)
- 6) 井元淳, 豊永敏宏, 出口純子, 福田里香: 「男性勤労者の内臓脂肪面積に関連する要因の検討—内臓脂肪測定装置 DUALSCAN での検討—」
(日本職業・災害医学会会誌 62(3): 197-201, 2014)
- 7) 井元淳, 福田里香, 出口純子, 豊永敏宏: 「勤労者の身体活動・食行動の変化と内臓脂肪面積との関係」 (日本職業・災害医学会会誌 62(4): 197-201, 2014)
- 8) 福田里香, 早瀬仁美, 出口純子, 井元淳, 廣滋恵一, 豊永敏宏: 「勤労男性における上腕—足首脈波伝播速度と食習慣との関連性」
(日本職業・災害医学会会誌 62(5): 336-342, 2014)
- 9) 井元淳, 豊永敏宏, 出口純子, 福田里香: 「男性勤労者におけるサルコペニア予備群と身体特性, ライフスタイルとの関係」
(日本職業・災害医学会会誌 62(6): 376-381, 2014)
- 10) 吉田遊子, 千代丸信一, 石橋敏郎, 廣滋恵一, 中藤佳絵, 神崎良子, 井元淳: 「本学理学療法学科における客観的臨床能力試験 (OSCE) の試行」
(九州栄養福祉大学研究紀要 11: 93-108, 2014)

- 11) 井元淳, 神崎良子, 松田隆治, 深町晃次, 薦田尚子, 室井廣大, 大丸幸:
「リハビリテーション学部学生における防犯意識と危険ドラッグに対する意識」
(九州栄養福祉大学研究紀要 12: 27-38, 2015)
- 12) 井元淳, 石橋敏郎, 中藤佳絵, 高橋精一郎, 橋元隆:
「理学療法士国家試験の点数に影響を及ぼす要因」
(九州栄養福祉大学研究紀要 12: 39-44, 2015)
- 13) 中村浩一, 兒玉隆之, 平野幸伸, 鈴木重行, 井元淳, 梅野和也, 岡本伸弘:
「腓腹筋に対するセルフストレッチング効果の超音波学的解析」
(理学療法科学 31(2):261-264, 2016)

【学会発表】

- 1) 松川寛二, 井元淳, 中本智子, 村田潤:「静的運動時に見られる心循環調節応答に及ぼすガドリニウムの効果」
(Jpn J Physiol 55 Suppl: 92, 2005)
- 2) 井元淳:「右肺癌術後に無気肺を合併し、術直後の呼吸理学療法が有用であった1症例」
(理学療法福岡 21 Suppl: 10, 2008)
- 3) 高宮尚美, 井元淳, 沖田一彦:「自己意識性の視点からみた半側空間無視の病態解釈の試み—1症例の観察およびインタビュー内容の分析に基づいて—」
(理学療法学 37 Suppl: 1379, 2010)
- 4) 高宮尚美, 井元淳, 門脇敬, 沖田一彦:「半側空間無視に対する新しい病態解釈の試み」
(日本認知神経リハビリテーション学会学術集会抄録集 11回: 84, 2010)
- 5) 中野吉英, 井元淳, 高宮尚美, 甲斐尚仁:「腰部脊柱管狭窄症に対し腰椎後方椎体間固定術施行後、股関節痛が出現した症例の検討」
(第32回九州理学療法士・作業療法士合同学会 2010: 102, 2010)
- 6) 井元淳, 高宮尚美, 中野吉英, 甲斐尚仁, 仲村匡平, 野方拓:「肺炎患者が在宅復帰するために」
(第32回九州理学療法士・作業療法士合同学会 2010. 158, 2010)
- 7) 甲斐尚仁, 井元淳, 中野吉英, 高宮尚美:「後方進入による人工股関節置換術(THA)後に前方脱臼した症例に対するADL指導姿勢と動作に着目して」
(第32回九州理学療法士・作業療法士合同学会 2010: 207, 2010)
- 8) 高宮尚美, 井元淳, 中野吉英, 甲斐尚仁, 沖田一彦:「半側空間無視患者の障害に対する自己意識性ADLの自己評価による検討」
(第32回九州理学療法士・作業療法士合同学会 2010. 227, 2010)

- 9) 春口幸太郎, 高宮尚美, 井元淳 :
「変形性股関節症に対するホームエクササイズの効果」
(理学療法福岡 24 suppl:19, 2011)
- 10) 日下部修, 野方拓, 仲村匡平, 井元淳 :『本学年 1 年生の「学習」に関する意識調査~本学独自のアンケートを通して~』
(第 33 回九州理学療法士・作業療法士合同学会 2011:25, 2011)
- 11) 岩本悠子, 中野俊哉, 兒玉隆之, 中村匡平, 井元淳 :
「砂地歩行における体幹および下肢の動きの特徴」
(日本人間工学会大会講演集 48:484-485, 2012)
- 12) 福田里香, 早瀬仁美, 出口純子, 井元淳, 廣滋恵一, 豊永敏宏 :「勤労男性における上腕一足首脈波伝播速度と食品群および栄養素摂取量との関連性」
(第 61 回日本職業・災害医学会:98, 2013)
- 13) 春口幸太郎, 井元淳, 中村浩一, 甲斐尚仁, 林和生, 大谷内輝夫 :
「変形性股関節症に対するホームエクササイズの短期効果」
(第 49 回日本理学療法学会学術大会:375, 2014)
- 14) 谷岡亮平, 穴井翼, 藤本卓, 広渡静夫, 井元淳 :「当院の気管支喘息・COPD 有病者の現状 ~家庭用ネブライザー・服薬管理を行った一例~」
(第 6 回日本訪問リハビリテーション協会学術大会:158, 2015)
- 15) 福島広, 井元淳, 河手武 :「動作指導により呼吸苦改善し自宅退院した呼吸不全患者への作業療法」
(第 25 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会:169s, 2015)
- 16) 中野圭介, 井元淳, 小山卓 :
「深部静脈血栓症により歩行時痛を呈した一症例」
(第 37 回九州理学療法士・作業療法士合同学会 2015:230, 2015)
- 17) 福田里香, 出口純子, 加藤剛平, 井元淳, 豊永敏宏 :
「勤労男性における内臓脂肪肥満群の生活習慣の特徴」
(第 63 回日本職業・災害医学会学術大会:142, 2015)
- (調査・研究報告書)
- 1) 井元淳, 豊永敏宏, 出口純子, 福田里香, 廣滋恵一 :
「個別指導に有効な勤労者健康度データベースの構築」 (2014.)

主な社会活動

- ・福岡県理学療法士会福岡1地区運営委員 (平成20年4月～平成23年3月)
- ・日本理学療法学会大会査読者 (平成24年5月～現在に至る)
- ・福岡県理学療法士会福岡1地区研修会講師 (平成25年10月)
- ・九州理学療法士・作業療法士合同学会査読者 (平成26年11月～現在に至る)
- ・福岡県理学療法士会北九州支部研修会講師 (平成27年2月)
- ・福岡県理学療法士学会ポスター発表座長 (平成27年2月)
- ・「理学療法福岡」査読委員 (平成27年6月～現在に至る)
- ・九州栄養福祉大学市民公開講座講師 (平成27年11月)
- ・九州理学療法士・作業療法士合同学会ポスター発表座長 (平成27年11月)

所属学会

- 日本理学療法士協会協会員 (平成16年～現在に至る)
- 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 (平成22年～現在に至る)
- 日本リハビリテーション栄養研究会 (平成24年～現在に至る)
- 日本職業・災害医学会 (平成25年～現在に至る)
- 産業理学療法研究会 (平成25年～現在に至る)

受賞歴 第1回日本職業・災害医学会 奨励賞 (平成27年11月)

梅野和也 UMENO Kazuya 助教

所属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担当科目 [リハビリテーション学部 理学療法学科]
神経・筋障害系理学療法Ⅰ、理学療法ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ、
理学療法基礎演習、理学療法専門演習、卒業論文、臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
専門分野 中枢神経障害系理学療法、神経・筋障害系理学療法
最終学歴 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科心身健康科学専攻博士前期課程修了
学位 修士（心身健康科学）
職歴 医療法人誠和会牟田病院 リハビリテーション科 理学療法士
(平成17年4月～平成23年4月)
学校法人福岡保健学院 福岡和白リハビリテーション学院
理学療法学科 専任教員 (平成23年5月～平成28年3月)

九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 助教
(平成28年4月～現在に至る)

教育上の業績 理学療法士養成校の学生に対する臨床実習指導 (平成20年～平成23年)
福岡和白リハビリテーション学院 専任教員 (平成23年～平成28年)
福岡看護専門学校 非常勤講師 (平成26年～平成28年)

主な研究活動 【学会発表】

- 1) 丸田淳司, 梅野和也, 光崎和久, 牟田和男:「片麻痺に対するアプローチ～認知過程の活性に着目して～」 (第49回全日本病院学会秋田大会:9, 2007.)
- 2) 梅野和也, 河野慶三:「運動イメージ能力と運動学習効果との関係の検討」
(日本心身健康科学学会:2,2015.)

(研究論文)
1) 梅野和也, 河野慶三:「専門学校生の運動イメージ能力と運動学習効果との関係の検討—JMIQ-R とダーツ課題を用いた検討—」
(心身健康科学 11(2): 43-50, 2015.)
2) 梅野和也, 中村浩一:「運動イメージ想起能力とパフォーマンスの変化との関係—JMIQ-R を用いて—」
(理学療法科学 31(2): 221-225,2016.)
3) 中村浩一, 兒玉隆之, 平野幸伸, 鈴木重行, 井元淳, 梅野和也, 岡本伸弘:
「腓腹筋に対するセルフストレッチング効果の超音波学的解析」
(理学療法科学 31(2): 261-264,2016.)

- 4) 梅野和也, 中村浩一:「運動スキルの違いが運動イメージ鮮明度に及ぼす影響—JMIQ-R を用いて—」. (理学療法科学 31(3) : 2016.)

- 主な社会活動
- ・福岡認知神経リハビリテーション研究会 講師
(平成 18 年 5 月, 平成 24 年 6 月, 平成 27 年 9 月)
 - ・福岡県認知神経リハビリテーション研究会 運営委員 (平成 25 年 4 月～)
 - ・福岡県理学療法士会福岡 1 地区運営委員長 (平成 26 年～平成 28 年)
 - ・福岡県理学療法士会主催 福岡 1 地区研修会 座長 (平成 26 年 5 月)
 - ・転倒予防教室を実施 (福岡県士会福岡 I 地区) (平成 26 年 8 月, 9 月)
 - ・福岡県理学療法士会主催 福岡 1 地区研修会 講師 (平成 27 年 9 月)
 - ・福岡県理学療法士会主催 福岡 1 地区研修会 症例発表 座長 (平成 28 年 2 月)
 - ・第 22 回 Resta 研修会 講師 (平成 28 年 3 月)

所 属 学 会 日本理学療法士協会
日本認知神経リハビリテーション学会
日本ニューロリハビリテーション学会
日本心身健康科学学会
理学療法科学学会

國 吉 光 KUNIYOSHI Hikaru 助手

所 属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目 講義補助：解剖学、解剖学総合実習、内科学、一般臨床医学、
整形外科学、小児科学
リハビリテーション医学
専 門 分 野 地域理学療法、ヘルスプロモーション
最 終 学 歴 平成 27 年 3 月 筑波大学大学院人間総合科学研究科
スポーツ健康システム・マネジメント専攻 修了
平成 28 年 4 月 筑波大学大学院人間総合科学研究科 スポーツ医学専攻 在学中
学 位 平成 27 年 3 月 修士 (体育学) 筑波大学
職 歴 東京保健生協組合 東京健生病院リハビリテーション科 (平成 20 年～平成 22 年)
(株)ポラリス (平成 24 年～平成 27 年)
九州栄養福祉大学リハビリテーション学部 理学療法学科 助手
(平成 27 年 4 月～現在に至る)

主な研究活動 【学会発表】

- 1) 國吉光, 谷垣祐樹, 小野くみ子: 「異なる環境下における座位ハンドエルゴメータ運動が生体に与える影響」 (日本理学療法学会. 2012.)
- 2) 小野くみ子, 谷垣祐樹, 橋爪真彦, 國吉光, 廣田勇士, 坂田一彦: 「水中座位ハンドエルゴメータ運動が 2 型糖尿病患者のダブルプロダクトおよび尿中アルブミン排泄量に及ぼす影響」 (日本糖尿病学会. 2013.)
- 3) 小野くみ子, 谷垣祐樹, 橋爪真彦, 國吉光, 橋本尚子, 廣田勇士, 坂田一彦: 「水中座位ハンドエルゴメータ運動継続が高度肥満を伴う 2 型糖尿病患者の心臓副交感神経系活動および尿中アルブミン排泄量に及ぼす影響」 (日本理学療法学会. 2013.)
- 4) 後藤千代美, 小谷尚美, 國吉光, 齋藤清昭, 森剛士.
「在宅サービスでの胃瘻への取り組み」 (日本自立支援介護学会. 2013.)
- 5) 小谷尚美, 國吉光, 齋藤清昭, 森剛士.
「介護職員のやりがい・達成感に関する実態調査」 (日本自立支援介護学会. 2013.)
- 6) Kuniyoshi H., Kotani N, Saitou K, Mori T. The effects of PR program for physical performance on short-time day service. 6th Asia western pacific region of the world confederation for physical therapy (WCPT-AWP)&12th Asian confederation for physical therapy (ACPT) congress 2013. Taichung, Taiwan.

- 7) 齋藤清昭, 國吉光, 森剛士.
「パワーリハにおける転倒事故の検証と再発予防策の紹介」
(パワーリハビリテーション学術大会. 2013.)
- 8) 國吉光, 齋藤清昭, 森剛士.
「リハ特化型短時間デイサービスにおけるパワーリハの効果」
(パワーリハビリテーション学術大会. 2013.)
- 9) 國吉光, 小久保礼子, 岩橋佳子, 周藤忠明, 日下博幸, 渡部厚一:
「屋外暑熱環境下における自由歩行が母子と高齢者の生体反応および行動に与える影響」
(日本地域理学療法学術大会. 2015.)
- 10) 國吉光, 小久保礼子, 岩橋佳子, 周藤忠明, 日下博幸, 渡部厚一:
「屋外暑熱環境下の自由歩行が高齢者の生体に与える影響~商業地・公園の差に着目して~」
(第 50 回日本理学療法学術大会.2015.)

【学術論文】

- 1) Kumiko Ono, Hikaru Kuniyoshi, Yuuki Tanigaki :Effect of underwater arm-cranking exercise on cardiac autonomic nervous activity. Gravitational and space research. Vol1, No1:47-50.2013.
- 2) 國吉光, 小谷尚美, 齋藤清昭, 森剛士.
「リハ特化型短時間デイサービスにおけるパワーリハの効果」
(パワーリハビリテーション No.12:47-48. 2013.)
- 3) 國吉光, 小久保礼子, 岩橋佳子, 周藤忠明, 日下博幸, 渡部厚一:
「屋外暑熱環境下の自由歩行が高齢者の生体に与える影響~商業地・公園の差に着目して~」
(九州栄養福祉大学研究紀要 12:45-56.2015.)

平成 28 年度 九州栄養福祉大学・大学院 教員情報

【リハビリテーション学部 作業療法学科】・【健康科学研究科 健康栄養学専攻】

大 丸 幸 OHMARU Miyuki 教授

所 属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科

担 当 科 目 [リハビリテーション学部 作業療法学科]

北九州市のノーマライゼーション (ESD)、臨床心理学、地域保健学、
作業療法学概論、急性期精神障害作業療法学、作業療法ゼミナールⅠ・Ⅱ、
作業療法研究法Ⅲ、作業療法基礎演習、作業療法専門演習、地域作業療法学、
地域作業療法、作業療法Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

[リハビリテーション学部 理学療法学科]

北九州市のノーマライゼーション (ESD)、臨床心理学、地域保健学

[大学院 健康科学研究科]

リハビリテーション学特論Ⅰ、地域活動支援特論Ⅰ、健康科学研究法特論演習

[食物栄養学部 食物栄養学科]

リハビリテーション概論

[東筑紫短期大学 専攻科 (介護福祉専攻)]

バリアフリー論

専 門 分 野 地域リハビリテーション (地域作業療法学: 精神・身体・知的/発達障害、高齢者)、
地域保健と障害福祉、行政学

最 終 学 歴 労働福祉事業団九州リハビリテーション大学校作業療法学科卒業 1969,
米国カンサス大学作業療法学科留学 1971,
北九州大学外国語学部米英学科Ⅱ部卒業 1979

学 位 英米学士

職 歴 医療法人恵愛会福岡病院 (作業療法部門開設) (昭和 44 年～昭和 46 年)
労働福祉事業団九州リハビリテーション大学校 (講師) (昭和 46 年～昭和 54 年)
(昭和 46 年～昭和 47 年 労働省奨学生 米国カンサス大学 特別学生留学)
医療法人幸仁会阪本病院 (作業センター長) (昭和 54 年～昭和 56 年)
北九州市 (保健福祉局) (昭和 56 年～平成 23 年)
北九州市保健福祉局デイケアセンター (主査) (昭和 56 年～平成 8 年)
北九州市小倉南区役所年長者相談コーナー (主査) (平成 8 年～平成 10 年)
北九州市保健福祉局テクノエイドセンター (係長) (平成 10 年～平成 12 年)
更生相談所地域リハビリテーション (係長) (平成 12 年～平成 13 年)
更生相談所障害福祉係・地域リハ係・障害認定係 (所長) (平成 13 年～平成 23 年)
九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 教授
(平成 23 年～現在に至る)
九州栄養福祉大学大学院 健康科学研究科 教授 (平成 24 年～現在に至る)

九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス 学生部長・教務部長

(平成24年～現在に至る)

【大学教員職歴】

名古屋大学非常勤講師 (精神科作業療法学) (平成54年～昭和56年)

長崎大学非常勤講師 (精神科作業療法学) (昭和56年～昭和57年)

熊本保健科学大学非常勤講師 (家族機能評価・支援学) (平成21年～平成23年)

九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療学科 教授／

九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科 教授 (平成23年～現在に至る)

教育上の業績 1) 教科担当科目

「精神科作業療法学」、「地域保健学」、「地域作業療法学」、「医療安全学」、「臨床心理学」、「急性期精神科作業療法学」、「リハビリテーション概論」、「リハビリテーション学特論」、「北九州市のノーマライゼーション」、「作業療法ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「作業療法研究法」、「作業療法卒業研究」、「作業療法基礎演習」、「作業療法専門演習」、「臨床実習Ⅲ」、「臨床実習Ⅳ」、「臨床実習Ⅴ」

2) 作成した教科書・教材

○「精神科臨床サービス」 (分担執筆) (星和書店 平成19年)

○「作業療法学全書 第5巻 作業治療学2 精神障害」 (分担執筆)
(協同医書出版 平成22年)

○「作業療法白書2010」 (分担執筆) (日本作業療法士協会 平成22年)

○「服部リハビリテーション技術全書 第3版」 (分担執筆)
(医学書院 平成26年)

○「精神機能作業療法学 (第2版)」 (分担執筆) (医学書院 平成26年)

○「地域包括ケアシステムにおけるPT・OTの役割」 (分担執筆)
(文光堂 平成28年)

○「日本公衆性衛生協会委託事業年度報告書：行政の理学療法士、作業療法士が
関与する効果的な事業展開に関する研究」 (分担執筆)
(日本理学療法士協会、日本作業療法士協会2006年～現在に至る)

3) 専攻分野、研究分野の学会等における発表実績

○「家族や生活環境を背景にした個人史や生き様に触れていく精神科作業療法」、
臨床精神科作業療法研究会主催 (研修会講師、発表事例のコメンター) ,2009

○「活動概念図を用いた市町村の理学療法士、作業療法士の役割遂行に関する聞き取り調査」第69回日本公衆衛生学会, (口述発表) ,2011

○「地域保健への作業療法士の関わり～医療と地域ケアの連携促進要素の検討」、
第47回日本作業療法学会, (口述発表) ,2013

- 「障害がある人と家族が共に生きる地域社会づくり～家族の力、作業の力、つながる力」第47回日本作業療法学会, (市民公開シンポジウム, コメント) ,2013,
- 「作業療法士・理学療法士が関与する地域包括ケアの仕組みづくり (Comprehensive Programs on Community Health Report in Japan :Role of Occupational And Physical Therapists For integrated Community Care System)」,第16回世界作業療法士連盟大会 (16th International Congress of the World Federation of Occupational therapists in Collaboration with the 48th Japanese Occupational Therapy Congress and Expo) 日本開催 (口述発表) ,2014
- 「高齢・障害者の福祉用具ニーズ把握と福祉用具流通の発展」日本技術士会・技術講演, (シンポジウム, シンポジスト) ,2014
- 「日本と世界の作業療法の動向」,福岡県作業療法協会主催 (現職者研修会講師) ,2010年～現在 (年2回開催)
- 「急性期精神科作業療法」,日本作業療法士協会主催 (専門認定作業療法士指定研修会講師) ,2012年～現在 (年2回開催)
- 「地域に求められるセラピスト」,四国医療専門学校主催 (卒業記念講演会講師) ,2016

主な研究活動 1) 地域リハビリテーション研究活動

- 「公的給付における福祉用具評価システムに関する調査研究」,厚生労働省委託研究事業 (福祉用具臨床的評価認証委員会委員) ,2004～2009
- 「精神障害者の退院促進および円滑な地域移行のための地域支援体制構築に向けた研究」,厚生労働省委託研究事業 (研究委員) ,2006～2008
- 「福岡県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会」,福岡県主催 (研究委員) ,2006～2010
- 「高齢者の持てる能力を引き出す地域包括支援のあり方研究」,老人保健健康増進等事業 (厚生労働省委託研究事業) ,2008～2009
- 「医療観察法における医療の質の向上に関する研究 (多職種チームによる医療の実際と効果に関する分担研究)」,厚生労働省科学研究 (研究委員) ,2010
- 「障害者福祉サービスに対する親の会メンバーの福祉ニーズに関する日韓比較北九州障害福祉研究センター「研究レポート No.4」」,2012
- 「行政の理学療法士、作業療法士が関与する効果的な事業展開に関する研究」,日本公衆性衛生協会委託事業 (日本理学療法士協会・日本作業療法士協会合同研究事業: 研究委員) (平成18年～現在)

2) 九州栄養福祉大学 研究紀要 投稿

- 「北九州市における地域リハビリテーションの歩み～九州リハビリテーション大学校が果たした歴史的役割」(九州栄養福祉大学研究紀要 8: 235-246,2011)
- 「作業療法・理学療法的視点から捉える「食べること」のリハビリテーション学的意味～地域で暮らす高齢・障害者の事例および食のための身体機能分析から」(九州栄養福祉大学研究紀要 9: 191-202,2012)
- 「リハビリテーションプロセスにおける家族心理教育～高次脳機能障害者の家族支援の意義」(九州栄養福祉大学研究紀要 10: 87-102,2013)
- 「司法精神科作業療法の卒前教育への取り組みと技術」,(九州栄養福祉大学研究紀要 11: 109-118,2014)
- 「司法精神科作業療法の卒前教育への取り組みと技術」(九州栄養福祉大学研究紀要 11: 109-118,2014)
- 「リハビリテーション学部オープンキャンパス参加者へのアンケート調査と入学志望向上への一考察(第一報)」(九州栄養福祉大学研究紀要 11: 63-80,2014)
- 「北九州市のノーマライゼーション～医療機関・自治体・住民との三位一体活動～」(九州栄養福祉大学研究紀要,57-64,2015)
- 「リハビリテーション学部学生における防犯意識と危険ドラッグに対する意識」(九州栄養福祉大学研究紀要,27-38,2015)
- 「作業療法教育に必要な指導観(第1報)ー専門学校と大学の比較ー」(九州栄養福祉大学研究紀要,105-114,2015)
- 「寮生活に対する寮生の満足度調査」(九州栄養福祉大学研究紀要,75-79,2015)

3) 学術書等

【執筆教科書】(再掲)

- 「精神科臨床サービス」(分担執筆) (星和書店 平成19年)
- 「作業療法学全書 第5巻 作業治療学2 精神障害」(分担執筆) (協同医書出版 平成22年)
- 「作業療法白書2010」(分担執筆) (日本作業療法士協会 平成22年)
- 「服部リハビリテーション技術全書 第3版」(分担執筆) (医学書院 平成26年)
- 「精神機能作業療法学(第2版)」(分担執筆) (医学書院 平成26年)
- 「地域包括ケアシステムにおけるPT・OTの役割」(分担執筆) (文光堂 平成28年)
- 「日本公衆性衛生協会委託事業年度報告書: 行政の理学療法士、作業療法士が関与する効果的な事業展開に関する研究」(分担執筆) (日本理学療法士協会・日本作業療法士協会合同研究事業 平成18年～現在)

【専門雑誌、研究報告書等】(執筆)

- 「作業療法の臨床技法をデイケアで生かすには,精神科臨床サービス 7」(星和書店,447-449,2007)

- 「精神障害者に対する住まうことへの支援」
(作業療法ジャーナル,619-623,2007)
- 「行動変容(私も変わった一治療者・援助者の立場から、日常性の中にこそ変化がある)」
(作業療法ジャーナル,2010)
- 「死と生にどう向き合うか～遺された家族、職場、支援者を支える取り組みや考え方について」
(作業療法ジャーナル,1516-1520,2012,)
- 「行政の理学療法士、作業療法士が関与する効果的な事業展開に関する研究(日本公衆衛生協会委託事業)」
日本理学療法士協会・日本作業療法士協会合同研究事業
(2006年～現在)(年度報告書:分担執筆)

- 主な社会活動
- ・厚生省理学療法士作業療法士国家試験委員(昭和54年～昭和64年)
 - ・福岡県作業療法協会副会長(昭和57年～平成8年)
 - ・日本デイケア学会理事(平成7年～平成21年)
 - ・日本作業療法士協会理事(平成7年～平成25年)
 - ・医療法人恵愛会福岡病院(平成7年～現在)
(九州リハビリテーション大学校精神科実習地第1号)
同門会会長・顧問
 - ・日本公衆衛生協会地域保健総合推進事業委員(平成8年～現在)
 - ・第37回日本作業療法学会学会長(平成15年)
 - ・財団法人テクノエイド協会評議員(平成18年～平成24年)
 - ・福岡県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会委員
(平成20年～平成23年)
 - ・北九州市発達障害児(者)支援体制整備検討委員会委員
(平成22年～平成23年)
 - ・社会福祉法人北九州市手をつなぐ育成会日韓協同研究アドバイザー
(平成23年～平成24年)
 - ・北九州市障害支援区分認定審査会委員(平成24年～現在)
 - ・北九州市地域包括支援センター委員会委員(平成25年～現在)
 - ・日本デイケア学会理事(平成26年～現在)

所属学会 日本作業療法士学会
日本公衆衛生学会
日本デイケア学会
日本認知症予防学会

資格・免許等 ・作業療法士免許証,昭和44年7月21日,
登録番号 第10043号(昭和54年8月10日戸籍の変更により書換)

- ・精神保健福祉士登録証,平成 11 年 5 月 26 日,登録番号 第 01061 号
- ・介護支援専門員,平成 11 年 5 月 26 日,登録番号 第 40981121 号
- ・福祉用具プランナー,平成 12 月 11 月 25 日,登録番号 第 12-1320 号
- ・認定作業療法士(認定番号 15)平成 16 年 4 月,認定番号 第 15 号

(平成 26 年更新)

受賞歴 日本作業療法士協会 協会表彰(平成 13 年 6 月)

奥村チカ子 OKUMURA Chikako 教授 (リハビリテーション学部 作業療法学科長)

所属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科

担当科目 [リハビリテーション学部 作業療法学科]

人間と環境、リハビリテーション概論、作業療法学概論、
基礎義肢装具学、臨床義肢装具演習、作業療法ゼミナールⅠ・Ⅱ、
作業療法研究法Ⅲ、作業療法基礎演習、作業療法専門演習、卒業論文、
日常生活活動支援、福祉住環境、臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

[リハビリテーション学部 理学療法学科]

人間と環境、リハビリテーション概論

[大学院 健康科学研究科]

健康科学研究法特論講義

[東筑紫短期大学 専攻科 (介護福祉専攻)]

バリアフリー論

専門分野 作業療法 (手の外科領域)

最終学歴 琉球大学法文学部人文学科卒業

学位 学士

職歴 千葉労災病院 (昭和48年～昭和50年)
熊本赤十字病院 (昭和50年～昭和56年)
熊本機能病院 (昭和56年～平成6年)
沖縄リハビリテーション福祉学院 (平成6年～平成18年)
熊本保健科学大学 (平成18年～平成27年)
九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科長・教授
九州栄養福祉大学大学院 健康科学研究科 教授 (平成27年4月～現在に至る)

教育上の業績 【作成した教材、教科書】

1. 「手の外傷と作業療法：作業療法マニュアル5 手の外科と作業療法」
日本作業療法士協会：pp49-69. (協同医書，1995.)
2. 「上肢と手の外傷：作業療法学全書第4巻 作業治療学Ⅰ，身体障害，」
日本作業療法士協会監修：pp145-146. (協同医書，2008.)
3. 「セラピストのための概説リハビリテーション」 (編集：文光堂，2009.)

主な研究活動 1. 上肢運動機能の定量的解析
2. スプリントの適応と効果

佐野 幹 剛 SANO Yoshitake 教授

所 属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科

担 当 科 目 [リハビリテーション学部 作業療法学科]

食と農園、人間発達学、作業療法学概論、活動解析演習、発達障害評価論演習、
発達障害治療学Ⅱ、神経発達学演習、発達心理学演習、発達障害作業療法学、
作業療法ゼミナールⅠ・Ⅱ、作業療法研究Ⅲ、作業療法基礎演習、
作業療法専門演習、卒業論文、臨床実習Ⅲ・Ⅳ

[リハビリテーション学部 理学療法学科]

食と農園

[食物栄養学部 食物栄養学科]

リハビリテーション概論

専 門 分 野 発達障害作業療法、特別支援教育、地域支援、家族支援

最 終 学 歴 福岡県立大学大学院人間社会学研究科

学 位 修士（生涯発達）

職 歴 社会福祉法人別府発達医療センター（旧別府整肢園）（昭和 62 年 4 月）

労働福祉事業団九州リハビリテーション大学校作業療法学科（平成 7 年 1 月）

専門学校九州リハビリテーション大学校作業療法学科 講師（平成 16 年 4 月）

専門学校九州リハビリテーション大学校作業療法学科 准教授

（平成 19 年 4 月～平成 27 年 3 月）

九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 准教授

（平成 24 年 4 月～平成 27 年 3 月）

九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 教授

（平成 27 年 4 月～現在に至る）

教育上の業績 ○別府発達医療センターにて作業療法実習生の指導（昭和 62 年～平成 6 年 12 月）

○日本作業療法士協会主催生涯教育講座 発達障害分野の講師（平成 16 年～）

主な研究活動 【著書】

○「機能的姿勢—運動スキルの発達」（共著）：協同医書出版社、1997.5

○「神経発達学的治療と感覚統合理論」（共著）：協同医書出版社、2001.6

○「福祉用具専門相談委員指定講習会テキスト」（共著）：

（財）総合健康推進財団、2004.8

○「セラピストのためのリハビリテーション医療」（共著）：永井書店、2005.12

○「服部リハビリテーション技術全書」（共著）：医学書院、2014.4

【学術論文】

○「遊びを支援するコンピュータ入力デバイスの開発」（共著）

：（労働福祉事業団平成 12 年度医学研究結果報告書第 11 号、2001.3）

- 「関係性を重視した子どもとその家族の発達支援に関する理論的背景とその実践 間主観性から見た関係性の理論」(単著)
: (福岡県作業療法ジャーナル 第4号、2004.5)
- 「知的障害を持つ児童の書字学習に対する発達心理学的支援 (単著)
: (臨床発達心理実践研究、第3巻、2008.7)
- 「環境・人・物との関係性の改善をめざして 福祉機器・用具は障害を持つ子どものために役に立っているか」(単著)
: (福祉介護機器 TECHNO プラス Vol.1, No.11、2008.11)
- 「療育支援センターに来談する学童児の社会性発達支援 (単著)
: (福岡県作業療法ジャーナル 第9号、2010.5)
- 「臨床実習における学生の行動および認知特性尺度の開発・ソーシャルスキル、ストレスコーピングとの関連性 -」: (九州栄養福祉大学研究紀要、第8巻、2011.12)
- 「手のラテラルリティに影響する要因の検討-箸・鉛筆の作業活動を用いた探索的研究-」: (九州栄養福祉大学研究紀要、第9巻、2012.12)
- 「長期臨床実習における学生の健康状態および実習態度に関する社会心理学的研究」: (九州栄養福祉大学研究紀要、第10巻、2013.12)
- 「臨床実習を終了した学生の内的発達に関する社会心理学的研究
: (九州栄養福祉大学研究紀要、第11巻、2014.12)
- 「学内実習農園の開設と行事・教科教育としての実践」
: (九州栄養福祉大学研究紀要、第12巻、2015.12)

【学会発表】

- 「精神運動発達遅滞児における遊びに必要なスキルの獲得過程とその意味について」(単著) : (第7回福岡県作業療法学会、2000.2)
- 「手を口に入れる子どもの対応を考える：14歳女兒との作用療法を経験して」(単著) : (第8回福岡県作業療法学会、2001.2)
- 「パソコンを利用した電子絵本の紹介とその実用性 (単著)
: (第35回日本作業療法学会、2001.6)

- 乳児発達支援における間主観的アプローチの試み（単著）
：（第 9 回福岡県作業療法学会、2002.2）
- 「動的バランス練習のためのバランスボード型コンピュータ入力デバイスの試作（単著）：（第 24 回九州理学療法士・作業療法士合同学会、2002.11）
- 「乳幼児を持つ母親の育児感情と養育態度に関する構造分析とその特徴」（単著）：（第 33 回全国リハビリテーション技師会全国研修会、2003.9）
- 「育児期母親が子どもの態度を負担と感じる要因の検討」（単著）
：（第 25 回九州理学療法士・作業療法士合同学会、2003.11）
- 「補講期間に行ったポートフォリオ的戦略学習法の可能性について」（共著）
：（第 39 回日本作業療法学会、2005.6）
- 「発達障がいを持つ子どもの地域支援と家族支援 教科学習の支援プログラムについて」（単著）：（第 11 回福岡県作業療法学会、2006.2）
- 「発達障害を持つ子どもの家族支援と地域支援の現状 療育支援施設での実践」（単著）：（第 40 回日本作業療法学会、2006.6）
- 「発達障害を持つ子どもの教育上の問題とその対応 引き算の思考分析と課題設定」（単著）：（第 12 回福岡県作業療法学会、2007.2）
- 「知的障害を持つ子どもの書字学習に対する発達心理学的支援」（再掲）（単著）
：（日本臨床発達心理士会 第 3 回全国大会、2007.7）
- 「集団適応の難しい児童の場面認知の特徴について SST を試みた事例報告」（単著）：（第 13 回福岡県作業療法学会、2008.2）
- 「乳幼児、学童児の学習及び行動の問題に対する発達心理学的支援（単著）
：（第 7 回東アジアヘルスプロモーション会議、2009.9）
- 「特別支援教育に関わる作業療法士の役割について」（単著）
：（第 31 回九州理学療法士・作業療法士合同学会、2009.11）
- 「長期臨床実習における学生の行動特性について」（共著）
：（第 32 回九州理学療法士・作業療法士合同学会、2010.11）

○「長期臨床実習における学生の行動特性の変化について」(共著)
：(第33回九州理学療法士・作業療法士合同学会、2011.11)

○「長期臨床実習における学生の健康状態及び実習態度と社会的スキルとの関連性」
：(第16回世界作業療法士連盟大会・第48回日本作業療法学会、2014.6)

主な社会活動 福岡県田川保健福祉事務所 発達相談員 (平成10年4月～)
田川市保健センター 発達相談員 (平成11年4月～)
北九州市介護認定審査会 審査委員 (平成11年4月～)

所属学会 日本作業療法士協会、
日本発達心理学会、
日本臨床発達心理士会

受賞歴 功労賞(北九州市)

溯 雅 子 FUCHI Masako 教授

所 属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科

担 当 科 目 [リハビリテーション学部 作業療法学科]
作業療法学概論、基礎作業、作業療法ゼミナールⅠ・Ⅱ、作業療法研究法Ⅲ、
高次脳機能障害治療、卒業研究、作業療法基礎演習、作業療法専門演習、
臨床実習Ⅲ・Ⅳ

専 門 分 野 身体障害領域における作業療法（脳血管障害）、日常生活活動、高次脳機能障害

最 終 学 歴 日本福祉大学 情報経営開発専攻博士後期課程単位取得退学

学 位 修士（人間環境情報）

職 歴 労働福祉事業団 九州労災病院就職（平成2年9月まで）（昭和56年4月）
誠愛リハビリテーション病院就職 作業療法課課長（平成2年10月）
誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部・研究部次長（平成6年10月）
誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部 副部長（平成13年4月）
誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部 部長（平成20年4月）
誠愛リハビリテーション病院 リハビリテーション部 副院長（平成24年5月）
九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 教授（平成28年4月）

教育上の業績 ○広島大学非常勤講師「高次脳機能障害」担当（平成16年～）
○高知リハビリテーション学院非常勤講師「高次脳機能障害」担当（平成7年～）
○西九州大学（佐賀県神埼市）非常勤講師「高次脳機能障害作業療法学」担当（平成20年～平成23年）
○国際医療福祉大学非常勤講師「神経心理学概論」担当（平成19年～平成21年）
○北九州リハビリテーション学院非常勤講師「高次脳機能障害」担当（平成14年～平成21年）
○国立療養所福岡東病院附属リハビリテーション学院非常勤講師「高次脳機能障害」担当（平成7年～平成17年）
○国立療養所呉病院附属リハビリテーション学院非常勤講師「ボバースアプローチ」担当（平成13年～平成18年）
○日本作業療法士協会 認定作業療法士取得講座講師（平成16年～）
○日本作業療法士協会 専門作業療法士（高次脳機能障害）取得講座講師（平成25年～）
○回復期リハビリテーション病棟協会 セラピストマネージャーコース講師

主な研究活動 【著書・論文】
○「片麻痺患者が非麻痺側から歩き始めた場合と、麻痺側から歩き始めた場合の動的バランスの違い～動的バランス指標 Xcom を用いた分析～」(共著)
(理学療法科学 30(1),41-45,2015)
○「健常高齢者の排泄後の殿部清拭動作の分析」(共著)
(理学療法学 42 (2) :98-104,2015)

- “The sit-to-walk motion of patients with stroke: Relationship between movement fluidity and physical ability”
「脳卒中患者が座位から歩きはじめ動作：動作の円滑性と身体能力の関係」
(共著) Journal of the Japanese Physical Therapy Association (JJPTA)
- 「効果的な介入のために ADL を客観的にとらえる～応用動作の分析」(共著)
(日本リハビリテーション医学会 57 (7):392-298,2015)
- 「右前頭頭頂葉損傷により空間認知の障害を呈した症例への評価と介入～身体図式と姿勢制御に着目して～」(共著)
(ボバースジャーナル:38 (1) :31-41, 2015)
- 「次世代を担う人材の育成 ～臨床における人材の育成と卒後教育のシステム～」(共著)(福岡・作業療法(13):16-24, 2015)
- 「当院における回復期脳卒中片麻痺患者の歩行自立判定指標の検討～どのレベルに達したら病棟内歩行フリーとするか～」(共著)
(Japanese Journal of Comprehensive Rehabilitation Science Vol6,2015)
- 「片麻痺(回復期から維持期):上肢を中心に」(共著)
(臨床実習フィールドガイド,石川朗、ほか(編),株式会社南江堂,東京,p58-69,2014)
- 「片麻痺患者が起立動作に失敗する運動学的・運動力学的特徴 ～動的バランス指標(Xcom)を用いた分析～」(共著)(理学療法学 41(7):399-406,2014)
- 「高次脳機能障害がある方への作業療法 ②プッシャー症候群」(単著)
(作業療法ジャーナル増刊号 VOL.48 NO.7 2014 三輪書店, pp659-664)
- 「脳卒中のリハビリテーションとチーム医療」(共著)
(脳卒中のリハビリテーションとチーム医療 井林雪郎編集
メディカルレビュー社 2013. 1 p85-122)
- 「脳卒中片麻痺患者の起立動作における運動学的・運動力学的評価指標」(共著)
(理学療法学 39(3):149-158,2012)
- 作業療法学全書作業治療学 5「高次脳機能障害」編集(協同医書出版)
- 「第1章高次脳機能障害と作業療法,第4章評価と介入の実践課程」(単著)
(作業療法学全書作業治療学 5 高次脳機能障害:p1-7,53-76,2011,協同医書出版)
- 「当院の回復期リハビリテーション病棟での取りくみ—ひとりひとりの明日のために—」(共著)(理学療法福岡 24:10-16,2011)
- 「自閉症スペクトラムの地域での支援」(共著)
(OT ジャーナル 44: 198-203, 2010)
- 「ボバース概念に基づく神経心理学的問題の評価と介入」(共著)
(脳卒中の治療・実践神経リハビリテーション,梶浦一郎、ほか
(編)市村出版,東京,p134-151,2010)

【学会発表】

- 「回復期リハ病棟入院中の脳卒中片麻痺患者における屋外歩行自立判定に関する因子分析」(共著)
(回復期リハビリテーション病棟協会 第27回 研究大会 in 沖縄, 2016, 2)

- 「回復期リハビリテーション病棟における脳卒中片麻痺患者の病棟トイレまでの歩行自立獲得までの日数を予測する回帰式の開発」(共著)
(回復期リハビリテーション病棟協会 第27回 研究大会 in 沖縄, 2016, 2)
- 「脳損傷後片麻痺患者の前遊脚期における股関節・足関節運動戦略の特徴」(共著)(第12回日本神経理学療法学会, 2015, 11)
- 「退院後に歩行能力が低下した脳卒中片麻痺患者1症例の歩行改善に対する一考察」(共著)(第5回日本ボバース学会研究大会, 2015, 8)
- 「Foix-Chavany-Marie 症候(両側前弁蓋部症候群)を呈した症例の摂食嚥下障害に対するアプローチ」(共著)(第16回日本言語聴覚学会, 2015, 6)
- 「動的バランス能力と認知機能の関連」(共著)
(第49回日本作業療法学会, 2015, 6)
- 「手指運動を用いたワーキングメモリ課題の施行過程における前頭葉活動変化運動学習について - 操作手の違いによる考察を加えて -」(共著)
(第49回日本作業療法学会, 2015, 6)
- 「発達に伴う小児歩行の運動力学的特徴(第2報)前額面における重心制御の発達に着目して」(共著)(第50回日本理学療法学会大会, 2015, 6)
- 「脳損傷後片麻痺患者の歩行時における力学的エネルギー変換効率と体幹運動の関係性」(共著)(第50回日本理学療法学会大会, 2015, 6)
- 「脳血管障害片麻痺患者における退院時移動レベルを予測する予測式の精度検証」(共著)(回復期リハビリテーション病棟協会 第25回 研究大会 in 愛媛, 2015, 2)
- 「フットケアに対する実態調査」(共著)
(回復期リハビリテーション病棟協会 第25回 研究大会 in 愛媛, 2015, 2)
- 「回復期リハ病棟から在宅へ継続して介入を行った一症例」(共著)
(回復期リハビリテーション病棟協会 第25回 研究大会 in 愛媛, 2015, 2)
- 「回復期リハビリテーション病棟における学童期の患者に対する復学支援について」(共著)
(回復期リハビリテーション病棟協会 第25回 研究大会 in 愛媛, 2015, 2)
- 「健常高齢者の排泄後の殿部清拭動作の分析～殿部清拭方法別の難易度を探る～」(共著)(第35回バイオメカニズム学会, 2014, 11)
- 「間接訓練により嚥下障害が改善した左上顎歯肉癌術後の1例」(共著)
(第4回日本言語聴覚士協会九州地区合同学会集大分大会, 2014, 10)
- 「家族が在宅生活を見通せるようになったことで、円滑に在宅復帰できた事例ー早期から家族と関わる重要性ー」(共著)
(第16回世界作業療法連盟大会・第48回日本作業療法学会, 2014, 06)
- 「片麻痺患者が起立動作に失敗する運動学的・運動力学的特徴～なぜ片麻痺患者は起立に失敗するのか～」(共著)
(第49回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2014, 05)

- 「脳損傷後片麻痺歩行における歩行周期別力学的エネルギー変換率と運動機能との関連性」(共著)(第49回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2014, 05)
- 「発達に伴う乳幼児歩行の運動学的特徴—推進機能に着目して—」(共著)(第49回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2014, 05)
- 「家族や病棟スタッフ間の連携により歩行が自立し、主婦として在宅復帰に至った一症例」(共著)(回復期リハビリテーション病棟協会第23回研究大会 in 名古屋)
- 「回復期退院後の在宅生活を見据えた指導後の追跡調査」(共著)(回復期リハビリテーション病棟協会第23回研究大会 in 名古屋)
- 「脳損傷後片麻痺患者の退院時実用移動レベルを予測可能な因子の検討と予測式の開発～初回担当時に得られる情報、評価項目を独立変数として用いて～」(共著)(回復期リハビリテーション病棟協会第23回研究大会 in 名古屋)
- 「当院における回復期脳卒中片麻痺患者の歩行自立判定因子の分析(第3報)～どのレベルに達したら病棟内歩行フリーとするか～」(共著)(回復期リハビリテーション病棟協会第23回研究大会 in 名古屋)
- 「操作手の違いによるワーキングメモリ課題時の前頭葉活動の検討 – f NIRS を用いた研究 –」(共著)(第37回日本高次脳機能障害学会学術総会, 島根, 2013, 11)
- 「自発的なADL遂行が困難となった症例との関わりを通して」(共著)(第35回PTOT合同学会, 熊本, 2013, 11)
- 「高さ条件が異なる到達把持運動の分析 – 体幹・上肢の運動学的特徴に着目して—」(共著)(第35回PTOT合同学会, 熊本, 2013, 11)
- 「排泄動作における後方からの後始末動作の分析」(共著)(第35回臨床歩行分析研究会定例会, 青森, 2013, 11)
- 「なぜ、片麻痺患者は起立動作で失敗するのか ～動的バランス指標 (Xcom) を用い離殿の難しさ探る～」(共著)(第35回臨床歩行分析研究会定例会, 青森, 2013, 11)
- 「頭蓋底髄膜腫術後嚥下障害をきたし、喉頭形成術を伴う嚥下リハビリテーションにより良好な転帰をたどった一例」(共著)(第19回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会, 岡山, 2013, 9)
- 「脳卒中片麻痺患者の立ち上がり動作の評価と介入—三次元動作解析装置を用いた評価・分析と効果検証—」(共著)(第3回ボバース学会, 東京, 2013, 7)
- 「脳卒中片麻痺歩行の力学的エネルギー交換率からみた分析—実用的移動自立度・立脚期での異常分類からみた検証—」(共著)(第3回ボバース学会, 東京, 2013, 7)
- “Does the Vitamin D multi-nutrient supplementation increase the fluidity of sit-to-walk motion in chronic stroke patients?”(共著)(2nd Joint World Congress of ISPGR and Gait & Mental Function, Akita, 2013,6)

- 「脳卒中片麻痺患者の片手による下衣操作の自立要素の検討 第2報—経時的変化を通して—」(共著)(第47回日本作業療法学術大会, 大阪, 2013, 6)
- 「両側視床・後頭葉内側の損傷により記憶障害を主とした高次脳機能障害を呈した症例に対する作業療法介入」(共著)(第47回日本作業療法学術大会, 大阪, 2013, 6)
- 「脳卒中片麻痺患者の歩行運動における力学的エネルギー変換率を低下させる要因」(共著)(第48回日本理学療法学術大会, 名古屋, 2013, 05)
- 「片麻痺患者はどちらの足から歩き始めるほうが安全で効率的か～動的バランス指標 Xcom を用いた分析～」(共著)
(第48回日本理学療法学術大会, 名古屋, 2013, 05)
- 「脳血管障害片麻痺患者の歩行における体幹の角度変化量と歩行自立度及び下肢との関係」(共著)(第48回日本理学療法学術大会, 名古屋, 2013, 05)
- 「片麻痺患者における起立動作時の上下肢連合反応が歩き始め動作に及ぼす影響」(共著)(第38回日本脳卒中学会総会, 東京, 2013, 03)
- 「片麻痺歩行における遊脚相の運動方略の違いが初期接地に及ぼす影響」(共著) 第38回日本脳卒中学会総会, 東京, 2013, 03
- 「脳損傷患者のADLと前頭葉機能との関連」(共著)
(第36回日本高次脳機能障害学会学術総会, 栃木, 2012, 12)
- 「片麻痺患者はどちらの足から歩き始める方が良いのか～動的バランス指標(Xcom)を用いた分析～」(共著)
(第34回臨床歩行分析研究会定例会, 大阪, 2012, 11)
- 「高機能広汎性発達障害児の協調運動障害について～縄跳びに着目して～」(共著)(第33回九州理学療法士、作業療法士合同学会, 長崎, 2012, 11)
- 「排泄後の後始末動作の分析」(共著)
(第33回九州理学療法士、作業療法士合同学会, 長崎, 2012, 11)
- “Inefficiency of Choosing the Non-affected Leg as the First Swing Leg in the Sit-to-Walk Motion after Stroke”(共著)
(1st Joint World Congress of ISPGR and Gait & Mental Function, Norway, 2012,6)
- 「視覚に基づく運動と記憶に基づく運動における前頭葉活動の検討—fNIRSによる研究—」(共著)(第46回日本作業療法学術大会, 鹿児島, 2012, 6)
- 「脳卒中片麻痺患者の片手による下衣操作の自立要素の検討」(共著)
(第46回日本作業療法学術大会, 鹿児島, 2012, 6)
- 「脳血管障害片麻痺患者の到達把持運動に着目した麻痺側上肢の評価の有用性」(共著)(第46回日本作業療法学術大会, 鹿児島, 2012, 6)
- 「条件の違いによるワーキングメモリ課題の前頭葉活動の検討 - fNIRSを用いた研究 - 」(共著)(第46回日本作業療法学術大会, 鹿児島, 2012, 6)

- 「脳血管障害片麻痺患者の到達運動の分析」(共著)
(第 46 回日本作業療法学術大会, 鹿児島, 2012, 6)
- 「座位リーチ動作の力学的特性と上衣更衣動作の自立度との関連性」(共著)
(第 46 回日本作業療法学術大会, 鹿児島, 2012, 6)
- 「脳血管障害片麻痺患者の動的バランス能力に関連する円滑さの分析～下肢関節トルク変化の円滑さが身体重心制御に与える影響～」(共著)
(第 47 回日本理学療法学術大会, 兵庫, 2012, 5)
- 「徒手的誘導前後におけるパフォーマンスの変化と大脳皮質活動の検討
— f NIRS を用いて—」(共著)
(第 47 回日本理学療法学術大会, 兵庫, 2012, 5)
- 「地域高齢者における運動が認知機能に及ぼす影響について」(共著)
(第 47 回日本理学療法学術大会, 兵庫, 2012, 5)
- 「脳血管障害片麻痺患者における歩行時の杖使用有無が与える影響
～対称性に着目した分析～」(共著)
(第 37 回日本脳卒中学会総会, 福岡, 2012, 05)
- 「片麻痺患者が座位から歩き始める動作の分析～初期接地戦略と動作の円滑性の
関係～」(共著) (第 37 回日本脳卒中学会総会, 福岡, 2012, 05)
- 「f NIRS による前頭葉課題施行中の脳活動の測定についての検討
～脳卒中患者の特徴～」(共著)
(第 37 回日本脳卒中学会総会, 福岡, 2012, 05)
- 「当院回復期リハ病棟における早遅リハの現状と課題」(共著)
(全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会第 19 回研究大会, 京都, 2012, 2)
- 「回復期リハ病棟から訪問リハへの継続的リハビリテーションを経験して—自宅
退院後の移動に着目して—」(共著)
(全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会第 19 回研究大会, 京都, 2012, 2)
- 「回復期リハビリテーション病棟退院後の追跡調査～退院時から 6 ヶ月間の FIM
変化～」(共著)
(全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会第 19 回研究大会, 京都, 2012, 2)
- 「当院回復期リハビリテーション病棟における退院前訪問指導の現状と課題」
(共著) (全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会第 19 回研究大会, 京都,
2012, 2)
- 「回復期退院後の自宅生活における FIM の変化傾向について」(共著)
(全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会第 19 回研究大会, 京都, 2012, 2)
- 「片麻痺患者が座位から歩き始める際の第一歩目の初期接地戦略と動作の円滑性
の関係」(共著) (第 33 回臨床歩行分析研究会定例会, 福岡, 2011, 12)
- 「座位リーチ動作の力学的特性と上位更衣動作との関連性」(共著)
(第 33 回臨床歩行分析研究会定例会, 福岡, 2011, 12)

- 「重度側弯症者の歩行時右側下肢疲労感に対する力学的考察—青年期脳性まひ者における体幹装具装着前後での比較—」（共著）
（第 33 回臨床歩行分析研究会定例会，福岡，2011，12）
- 「脳血管障害片麻痺患者の歩行時における杖使用有無が与える影響—麻痺側・非麻痺側の対称性に着目した分析—」（共著）
（第 33 回臨床歩行分析研究会定例会，福岡，2011，12）
- 「脳血管患者の到達把持運動に着目した麻痺側上肢機能の評価と有用性」（共著）（第 33 回臨床歩行分析研究会定例会，福岡，2011，12）
- 「脳卒中片麻痺患者の下衣操作自立度判定の指標の検討—下衣操作の自立度と足上げ動作との関連性—」（共著）
（第 33 回臨床歩行分析研究会定例会，福岡，2011，12）
- 「f NIRS によるワーキングメモリ課題時の前頭葉活動の検討」（共著）
（第 35 回日本高次脳機能障害学会，鹿児島，2011，11）
- 「f NIRS による視覚に基づく運動と記憶に基づく運動における前頭葉活動の検討」（共著）（第 35 回日本高次脳機能障害学会，鹿児島，2011，11）
- 「多彩な前頭葉症状により食事が困難であった症例の介入経過」（共著）
（第 35 回日本高次脳機能障害学会，鹿児島，2011，11）
- 「低酸素脳症により全般的認知障害を呈し ADL 介助が困難であった症例への作業療法介入」（共著）（第 35 回日本高次脳機能障害学会，鹿児島，2011，11）
- 「視覚情報処理の問題により食事に多介助を要した事例への取り組み」（共著）
（第 35 回日本高次脳機能障害学会，鹿児島，2011，11）
- 「三次元動作解析装置による排泄後の後始末動作の分析」（共著）
（第 33 回九州理学療法士、作業療法士合同学会，福岡，2011，11）
- 「重量が異なる対象物への到達把持運動の動作解析 第 2 報～把持運動における手関節制御に着目した分析～」（共著）
（第 33 回九州理学療法士、作業療法士合同学会，福岡，2011，11）
- “Difference of the motor strategy between sit-to-walk and gait-initiation of patients after stroke.”（共著）
（20th ESMAC Congress、Vienna，2011，9）
- 「起立動作に対する治療の客観的効果判定方法の一例—三次元動作解析装置を用いてパフォーマンスの質的变化を探る—」（共著）
（第 1 回日本ボバース研究会学術大会，東京，2011，7）
- 「当院における Dynamic Spinal Brace の試み—1 症例を通して—」（共著）
（第 1 回日本ボバース研究会学術大会，東京，2011，7）
- 「片麻痺患者一症例における重心動揺検査を用いた治療結果の検証 —歩行自立度の経過と足圧中心動揺パラメーターの変化—」（共著）
（第 1 回日本ボバース研究会学術大会，東京，2011，7）

- 「脳血管障害片麻痺者の歩行動作に対する運動力学的解釈の一例
三次元動作解析装置を用いた定量的運動学的評価の検討」(共著)
(第1回日本ポバース研究会学術大会, 東京, 2011, 7)
- 「脳卒中片麻痺患者の麻痺側手の管理 —長期経過者の現状—」(共著)
(第45回日本作業療法学術大会, さいたま, 2011, 6)
- 「脳血管障害片麻痺者の麻痺側下肢最大荷重課題と歩行との関係—荷重姿勢の
質的評価として—」(共著)(第46回日本理学療法学術大会, 宮崎, 2011, 5)
- 「脳血管障害片麻痺者における坐位バランスと歩行能力との関係(第2報)～
坐位側方移動時の骨盤・上部体幹・頭部に着目して～」(共著)
(第46回日本理学療法学術大会, 宮崎, 2011, 5)

- 主な社会活動
- ・日本作業療法士協会 認定作業療法士、専任作業療法士取得講座講師
 - ・回復期リハビリテーション病棟協会 理事、同協会 PTOTST 委員会委員
 - ・日本高次脳機能障害学会夏季教育講座講師
 - ・IBITA 認定ポバースアプローチ基礎講習会インストラクター (平成12年～)
 - ・IBITA 認定ポバースアプローチ上級講習会インストラクター (平成22年～)
 - ・第33回臨床歩行分析研究会定例会会長 (福岡, 平成23年12月)
 - ・第49回日本作業療法学会 シンポジスト (平成27年6月19日)
 - ・日本リハビリテーション医学会主催第51回学術集会
パネルディスカッションパネラー (平成26年6月6日)
 - ・第47回日本作業療法学会 ナイトセミナー助言者 (平成25年6月29日)
 - ・第46回日本作業療法学術大会ナイトセミナー講師 (平成24年6月10日)
 - ・第35回日本高次脳機能障害学会学術総会シンポジウムシンポジスト
(平成23年11月12日)

所属学会 日本作業療法士協会
日本高次脳機能障害学会
日本神経心理学会
日本摂食嚥下リハビリテーション学会
臨床歩行分析研究会
回復期リハビリテーション病棟協会

岩 田 一 男 IWATA Kazuo 教授

所 属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科

担 当 科 目 [リハビリテーション学部 作業療法学科]

情報処理演習Ⅰ・Ⅱ、臨床統計、医療人のための科学論、
フィールド・スタディ、
医療人のための経営管理、医療人のための数値解析、
作業療法ゼミナールⅠ・Ⅱ、作業療法研究法Ⅲ、卒業論文

[リハビリテーション学部 理学療法学科]

医療人のための科学論、医療人のための経営管理、フィールド・スタディ、
医療人のための数値解析

専 門 分 野 プロジェクトマネジメント、情報教育、ICT 利活用

最 終 学 歴 大阪市立大学大学院創造都市研究科システムソリューション研究分野修了

学 位 修士（都市ビジネス）

職 歴 株式会社日本総合研究所 (昭和 58 年)

新潟経営大学経営情報学部 (平成 20 年)

北九州市立大学情報総合センター (平成 24 年)

九州栄養福祉大学リハビリテーション学部 作業療法学科 教授

(平成 28 年 4 月～現在に至る)

教育上の業績 大学教育に従事（9年間）

主な研究活動 【著書】

1. 『ビジネス情報の基礎』（単著） (平成 20 年 3 月)
2. 『ビジネス情報の応用～プロジェクト管理編～』（単著） (平成 20 年 3 月)
3. 『ビジネス情報の応用～法制度編～』（単著） (平成 21 年 9 月)
4. 『ビジネスにおける ICT 活用の基礎』（単著） (平成 23 年 4 月)
5. 『情報ネットワークのビジネス活用』（単著） (平成 23 年 4 月)
6. 『経営学新講義』（共著） (平成 23 年 3 月)

【研究論文】

1. 「リニューアルされた情報処理室、及び学生の情報リテラシー教育に関する現状と改善提案」（単著） (平成 22 年 3 月)
2. 「ICT を活用した融資業務の可能性」（単著） (平成 23 年 3 月)
3. 「ICT の利活用および意識は高校の学科によりどのように異なるのか？」（単著） (平成 23 年 12 月)
4. 「高校の学科による ICT の利活用および意識の違い」（単著） (平成 24 年 3 月)
5. 「超上流工程から Win-Win の関係を目指す調達マネジメント」（単著） (平成 25 年 12 月)
6. 「上流工程において成功に近づける調達マネジメントの工夫」（単著） (平成 25 年 12 月)

7. 「PBL (Project Based Learning) を実践しての気づき」(単著)
(平成 26 年 4 月)
8. 「中小企業を対象とした ICT 利活用の実態調査」(単著) (平成 26 年 7 月)
9. 「中小企業の ICT 利活用～一昔前からの変貌～」(単著) (平成 26 年 12 月)
10. 「e ラーニングを利用したプロジェクトマネジメント教育を考える」(単著)
(平成 27 年 4 月)
11. 「初年次教育におけるタイピング練習とその関連性についての調査研究」(単著)
(平成 27 年 12 月)
12. 「消費者の科学的リテラシー向上を利用した経営戦略に関する研究」(共著)
(平成 22 年 3 月)
13. 「中小企業クラスター地域の経営戦略調査研究」(共著) (平成 26 年 3 月)
14. 「わが国の中小企業クラスター地域における経営戦略－競争優位にたつことができるコアコンピタンスについての一考察－」(共著) (平成 27 年 3 月)
15. 「日本の中小企業経営戦略調査 - イノベーション、ビジョン、ミッションの一考察 - 」(共著) (平成 28 年 3 月)

【研究発表】

1. 「システム開発における調達マネジメントのあり方」(単著) (平成 19 年 3 月)
2. 「途上与信管理における IT 活用の考え方」(単著) (平成 19 年 6 月)
3. 「高校生を対象とした ICT に関する意識調査」(単著) (平成 23 年 7 月)
4. 「中小企業 (新潟県) を対象とした ICT 利用調査報告」(単著) (平成 25 年 2 月)
5. 「ICT 利活用の実態調査 ～新潟県の中小企業から～」(単著) (平成 26 年 2 月)
6. 「Win-Win の関係を目指す外部委託における提案」(単著) (平成 26 年 3 月)
7. 「コンピューターリテラシー授業のタイピング調査」(単著) (平成 26 年 3 月)
8. 「中小企業 (新潟県) を対象とした ICT 利活用の実態と提案」(単著)
(平成 26 年 5 月)
9. 「新入生のタイピング能力は何と影響するのか?」(単著) (平成 26 年 7 月)
10. 「PBL を試行しての課題」(単著) (平成 26 年 8 月)
11. 「Moodle を活用したタイピング練習とその影響に関する調査研究」(単著)
(平成 26 年 9 月)
12. 「データ入力から捉えたコンピューターリテラシー教育」(単著)
(平成 26 年 11 月)
13. 「文系学生のネット依存状況調査」(単著) (平成 27 年 8 月)
14. 「新入生を対象としたネット依存の調査研究」(単著) (平成 27 年 11 月)
15. 「文系新入生の情報機器活用能力についての調査研究」(単著)
(平成 27 年 11 月)
16. 「経営学を学ぶ中部地方の大学生を対象としたネット依存調査」(単著)
(平成 28 年 2 月)
17. 「文系学生に対するタイピング指導を通じた教育効果の分析」(共著)
(平成 26 年 6 月)

【特許】（特許査定・特許権設定登録済）

1. 特許 4475999 号

「住宅ローン審査システム、住宅ローン審査用プログラムおよび住宅ローン判定支援用プログラム」
(平成 22 年 3 月)

2. 特許 4601028 号

「印刷出力装置、印刷出力システム、印刷出力方法および記録媒体」
(平成 22 年 10 月)

3. 特許 4783594 号

「途上与信管理システム、途上与信管理システム用プログラムおよび途上与信管理方法」
(平成 23 年 7 月)

4. 特許 5020523 号

「将来残高情報生成方法、及び将来残高情報生成システム」
(平成 24 年 6 月)

主な社会活動 市民講座講師、企業家育成事業、新聞社や広報誌等への取材協力

所属学会 米国 PMI (Project Management Institute, Inc.)

プロジェクトマネジメント学会

経営情報学会

日本情報経営学会

日本情報科教育学会

コンピュータ利用教育学会

深 町 晃 次 FUKAMACHI Koji 准教授

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
担 当 科 目	〔リハビリテーション学部 作業療法学科〕 北九州市のノーマライゼーション (ESD)、基礎作業実習 I・II、 精神科障害治療学 II、精神障害評価論演習、レクリエーション、 認知障害治療学演習、作業療法ゼミナール I・II、作業療法研究法 III、 卒業研究、作業療法基礎演習、作業療法専門演習、臨床実習 I・II・III・IV 〔リハビリテーション学部 理学療法学科〕 北九州市のノーマライゼーション (ESD)、レクリエーション
専 門 分 野	精神障害系作業療法
最 終 学 歴	労働福祉事業団九州リハビリテーション大学校
学 位	専門士
職 歴	福岡県精神保健センター (平成 3 年 6 月～平成 9 年 3 月) 福岡県立遠賀病院 (平成 9 年 4 月～平成 15 年 3 月) 福岡県立精神医療センター太宰府病院 (平成 15 年 4 月～平成 17 年 3 月) 専門学校 九州リハビリテーション大学校 作業療法学科 助手 (平成 17 年 4 月～平成 19 年 3 月) 専門学校 九州リハビリテーション大学校 作業療法学科 助教 (平成 19 年 4 月～平成 23 年 3 月) 専門学校 九州リハビリテーション大学校 作業療法学科 講師 (平成 23 年 4 月～平成 27 年 3 月) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 講師 (平成 25 年 4 月～平成 28 年 3 月) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 准教授 (平成 28 年 4 月～現在に至る)

教育上の業績 【作成した教科書・教材】

○「服部リハビリテーション技術全書第 3 版」第 8 章 レクリエーション その他

- 主な研究活動
- 1) 「痴呆アセスメントマニュアル」(共著)
 - 2) 「北九州医療刑務所での作業療法」(単著)
 - 3) 「精神科作業療法士の興味苦悩－福岡・佐賀精神科 OT 懇話会会員実態調査より－」(共著)
 - 4) 「精神科作業療法士の現状－福岡・佐賀精神科 OT 懇話会会員実態調査より－」(共著)
 - 5) 「デイ・ケア利用者のフォローアップ調査」(共著)
 - 6) 「デイ・ケアプログラムの固定化に伴うメンバーの変化」(共著)
 - 7) 「在宅痴呆性高齢者の類型化 (2) －類型化された各タイプの特徴－」(共著)
 - 8) 「在宅痴呆性高齢者の類型化 (3) －類型判別用紙の作成について－」(共著)

- 主な社会活動
- 1)第 32 回 九州理学療法士・作業療法士合同学会 座長 (平成 22 年 5 月)
 - 2)福岡県作業療法協会 小倉南・京築エリア研修会 講師 (平成 23 年 8 月)
 - 3)日本作業療法協会専門作業療法士取得研修 認知症基礎V 講師
(平成 24 年 1 月)
 - 4)福岡県作業療法協会 八幡西・遠賀・中間エリア研修会 講師
(平成 24 年 10 月)
 - 5)第 17 回 福岡県作業療法学会 座長 (平成 25 年 3 月)
 - 6)若松区医療・介護従事者研修会 講師 (平成 25 年 8 月)
 - 7)第 18 回 福岡県作業療法学会 座長 (平成 26 年 2 月)
 - 8)日本作業療法協会 精神科分野研修会 テーマ I 講師 (平成 27 年 9 月)
 - 9)福岡県立戸畑高等技術専門校 介護サービス科実務者研修 講師
(平成 21 年 6 月～現在に至る)
 - 10)周望学舎シニアカレッジ (平成 18 年 10 月～現在に至る)
 - 11)まなびと ESD 講座 (平成 26 年 6 月～現在に至る)

所 属 学 会 日本作業療法学会、九州理学療法士・作業療法士合同学会、福岡県デイ・ケア研究協議会、九州集団療法研究会

四 元 孝 道 YOTSUMOTO Takamichi 講師

所 属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科

担 当 科 目 [リハビリテーション学部 作業療法学科]
高次脳機能障害治療、身体障害治療学演習、身体障害評価論演習Ⅰ・Ⅱ、
作業療法ゼミナールⅠ・Ⅱ、作業療法研究法Ⅲ、作業療法基礎演習、
作業療法専門演習、卒業論文、臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

専 門 分 野 身体障害作業療法、高次脳機能障害

最 終 学 歴 鹿児島大学大学院保健学研究科博士後期課程単位取得後退学

学 位 修士（保健学）

職 歴 玉昌会 加治木温泉病院 (平成 11 年 4 月)
玉昌会 高田病院 (平成 23 年 4 月)
神村学園専修学校 作業療法学科 教員 (平成 23 年 9 月)
九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 (平成 26 年 4 月～現在に至る)

教育上の業績 神村学園医療福祉専門学校作業療法学科 非常勤講師 (平成 14 年 4 月)

主な研究活動 【学術論文】

- 1) 江藤千穂、山下正策、日吉俊紀、梅本昭英、四元孝道、浜田博文、窪田正大：
「健常人において速聴トレーニングが注意機能に及ぼす影響」
(鹿児島リハビリテーション医学研究会会誌 18(1):27-31, 2007)
- 2) 鮫島亮子、四元孝道、梅本昭英、山下正策、浜田博文、窪田正大：「脳血管障
害患者における意欲と注意機能の関連性－標準注意検査法（日本高次脳機能障
害学会編）を用いて－」
(鹿児島高次脳機能研究会会誌 18(1):13-17, 2007)
- 3) 秋武祐子、山下正策、日吉俊紀、梅本昭英、四元孝道、窪田正大、浜田博文：
「注意訓練が注意以外の認知機能に及ぼす影響。」
(鹿児島リハビリテーション研究会会誌第 19(1):9-14, 2008)
- 4) 山内愛、四元孝道、日吉俊紀、梅本昭英、浜田博文、窪田正大：
「半側視空間無視における注意障害と pacing 障害の関連性の研究。」
(作業療法ジャーナル 43(2):188-192, 2009)
- 5) 窪田正大、四元孝道、浜田博文：「脳血管障害患者における注意障害とペーシ
ング障害の時間評価に関する研究」
(鹿児島大学医学部保健学科紀要第 20:31-36, 2010)

- 6) 四元孝道、窪田正大、浜田博文:「脳血管障害患者における注意障害とペーシング障害の関連性に関する研究」
(鹿児島大学医学部保健学科紀要 20: 37-43,2010.)
- 7) 四元孝道、窪田正大、山内愛、日吉俊紀、浜田博文:「脳血管障害患者の意欲障害と ADL 自立度の関係および損傷部位に関する研究」
(作業療法ジャーナル 44(5): 411-414,2010.)
- 8) 四元孝道:「注意障害を伴う脳血管障害患者に対する dual task 訓練の効果に関する研究」(作業療法 30(4): 466-475,2011.)
- 9) 廣滋恵一、四元孝道、室井由紀子:「表面筋電図を用いた咀嚼筋活動量評価と記憶力の関連性について」(九州栄養福祉大学紀要 12:11-18, 2015)
- 10) 四元孝道、高橋精一郎、廣滋恵一、長尾哲男、奥村克博、渡邊恭弘、萩原隆二:「座位バランス訓練装置の開発 (第 2 報) ー片麻痺患者のバランス反応ー」
(九州栄養福祉大学紀要 12 : 87-94, 2015)
- 11) 四元孝道、佐野幹剛、松田隆治:「臨床実習における大学へのフィードバックと行動認知特性尺度の報告」(九州栄養福祉大学紀要 12 : 95-103, 2015)

【学会発表】

- 1) 四元孝道、立山栄香、増山泰英、菊池由加、梅本昭英、日吉俊紀、山下正策、高田昌実:「**spacing** 障害におけるパワーリハビリテーションの効果」
(第 6 回 パワーリハビリテーション学術大会(2007.7))
- 2) 鮫島亮子、浜田博文、窪田正大、四元孝道:
「脳血管障害患者における意欲と注意機能ー標準意欲評価法と標準注意検査法 (日本高次脳機能障害学会編) ー」
(第 31 回 日本高次脳機能障害学会(2007.11))
- 3) 秋武祐子、山下正策、日吉俊紀、梅本昭英、四元孝道、窪田正大、浜田博文:
「注意訓練が注意以外の認知機能に及ぼす影響」
(第 22 回 鹿児島リハビリテーション医学研究会(2008.3))
- 4) 四元孝道、窪田正大、浜田博文:「注意障害を伴う脳血管障害患者に対する dual task 訓練の影響」(第 32 回 日本高次脳機能障害学会(2007.11))

- 5) 四元孝道、山内愛、小川千穂、金田明子、増永美奈、立山栄香、城ノ下唯子、溜いずみ、山下智子四元孝道,他:「特定高齢者に対する認知症予防教室ー県士会の活動としてー」(第32回 九州 PTOT 合同学会 (2010.11))

- 主な社会活動
- ・鹿児島高次脳機能障害者支援推進委員 (平成17年～平成23年)
 - ・一般社団法人鹿児島県作業療法士会理事 (平成19年～平成23年)
 - ・始良市・霧島市認知症予防教室講師 (平成19年～)
 - ・認知症キャラバンメイト (平成20年～)
 - ・国立・県立鹿児島障害者職業能力開発校 障害者委託訓練講座講師 (平成21年～平成23年)

 - ・認知症予防ファシリテーター2級 (平成23年～)
 - ・北九州リハビリテーション医会 講師 (平成26年10月)
 - ・福岡県作業療法士会研修会 講師 (平成27年2月)
 - ・九州栄養福祉大学市民公開講座 講師 (平成26年11月・平成27年11月)

所属学会 一般社団法人日本作業療法士協会
(認定作業療法士・高次脳機能障害専門作業療法士)
日本高次脳機能障害学会、日本神経心理学会

村田奈保子 MURATA Nahoko 講師

- 所属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
- 担当科目 [リハビリテーション学部 作業療法学科]
身体障害作業療法学Ⅰ、高齢期障害治療、認知障害治療学演習、
高齢者生活環境、作業療法ゼミナールⅠ・Ⅱ、作業療法研究Ⅲ、
作業療法基礎演習、作業療法専門演習、卒業論文、臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
〔東筑紫短期大学 専攻科（介護福祉専攻）〕
バリアフリー論
- 専門分野 身体障害作業療法、高齢期障害作業療法、高次脳機能障害
- 最終学歴 鳥取大学大学院 医学系研究科機能再生医科学専攻博士後期課程在学中
- 学位 修士（再生医科学）
- 職歴 高邦会 高木病院作業療法室開設 (昭和 63 年 4 月)
高邦会 柳川リハビリテーション病院作業療法室開設 (平成 2 年 4 月)
介護老人保健施設しょうぶ苑リハビリテーション室開設 (平成 3 年 4 月)
鹿児島医療技術専門学校入職 (平成 9 年 3 月)
メディカルカレッジ青照館開設準備室入職 (平成 11 年 10 月)
日本メディカル専門学校入職 (平成 15 年 2 月)
松江総合医療専門学校入職 (平成 17 年 4 月)
神戸総合医療専門学校入職 (平成 26 年 8 月)
九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 講師
(平成 27 年 4 月～現在に至る)
- 教育上の業績 ○佐賀県立総合看護学院保健学科非常勤講師 (平成 6 年～8 年) (3 年間)
○鹿児島県母子寡婦福祉連合会主催ヘルパー3 級講習会講師 (平成 10 年)
○第 20 回九州理学療法士・作業療法士合同学会 教育セッション座長
(平成 10 年)
○鹿児島県母子寡婦福祉連合会主催ヘルパー2 級講習会講師 (平成 11 年)
○島根県社会福祉協議会主催ガイドヘルパー養成研修会講師
(平成 18 年～平成 20 年) (3 年間)
○島根県作業療法士会現職者研修会 (旧新人教育プログラム) 「研究法」講師
(平成 18 年)
○島根県作業療法士会現職者研修会「職業倫理」講師 (平成 22 年)
○鹿児島医療技術専門学校における担当教科：
「基礎作業実習」「作業療法概論」「作業療法治療学（日常生活活動）」
「リハビリテーション関連機器」 (平成 9 年)
○メディカルカレッジ青照館における担当教科：
「基礎作業実習」「作業療法概論」「作業療法評価学 2（身体障害）」
(平成 12 年)

○日本メディカル専門学校における担当教科：

「作業療法評価学Ⅱ（身体障害）」 「作業療法セミナー」 「作業療法概論Ⅱ」
「基礎作業学実習」 「作業療法技術論Ⅰ（生活環境論）」 （平成15年）

○松江総合医療専門学校における担当教科：

「身体障害治療学Ⅱ（身体障害）」 「作業療法セミナー」 「解剖学実習Ⅰ」
「作業療法概論Ⅱ」 「基礎作業実習」 「運動学Ⅱ」 「作業療法評価法4（疾患別）」
「作業療法評価法2（反射・感覚検査等）」 「作業療法治療学1（脳血管障害総論）」
「作業療法治療学3（高次脳機能障害）」 （平成17年）

○神戸総合医療専門学校における担当教科：

「解剖学実習Ⅱ（脳の解剖生理）」 「作業療法概論Ⅱ（研究法・管理・運営）」
「作業療法特論Ⅱ（臨床実習対策講座）」 （平成26年）

主な研究活動 【学術論文】

- 1) 「視覚野損傷後の回復における視覚入力の影響」（修士論文）
鳥取大学大学院医学系研究科
- 2) 「作業療法教育に必要な指導観（第1報）－専門学校と大学の比較－」
（九州栄養福祉大学研究紀要 12. 105－114, 2015）

【学会発表】

- 1) 「当院作業療法対象患者の入院までの経過調査」（共同）
第84回熊本リハビリテーション研究会 （平成2年12月 熊本）
- 2) 「心理的評価 MAS と他の評価との関連について」（共同）
第85回熊本リハビリテーション研究会 （平成3年4月 熊本）
- 3) 「リハ病院入院患者の MAS と家族の受け入れ状況との関連について」（共同）
第25回日本作業療法学会 （平成3年6月 北海道）
- 4) 「Effects of visual inputs on recovery after excitotoxic lesion of visual cortex」（筆頭）第85回日本生理学会大会 （平成20年3月 東京）
- 5) 「脳損傷後の回復における感覚入力の影響」（筆頭）第42回日本作業療法学会
（平成20年6月 長崎）

所 属 学 会 日本作業療法士協会
日本生理学会

平 澤 勉 HIRASAWA Tsutomu 講師

所 属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科

担 当 科 目 [リハビリテーション学部 作業療法学科]

精神療法演習、職業関連支援、基礎作業、基礎作業実習Ⅰ・Ⅱ、
精神障害評価論演習、急性期精神障害作業療法学、作業療法ゼミナールⅠ・Ⅱ、
作業療法研究Ⅲ、作業療法基礎演習、作業療法専門演習、
臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

専 門 分 野 精神障害作業療法分野

最 終 学 歴 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校 作業療法学科

学 位 学士（理学）

職 歴 医療法人社団わかさ会 南八街病院 (平成16年4月～平成18年9月)

医療法人社団爽風会 佐々木病院 (平成18年9月～平成25年3月)

医療法人社団爽風会 心の風クリニック千葉 (平成25年4月～平成26年3月)

九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 講師

(平成27年4月～現在に至る)

教育上の業績 ○学校メンタルヘルスリテラシー教育講師 (平成23年9月～平成24年12月)

○『OT 臨地実習ルートマップ』臨地実習実技編「摂食障害」領域（共著）

(平成23年3月)

主な研究活動 【学術論文】

平澤勉, 野際陽子:「デイケア終了後の復職を予測するものは何か?」

(作業療法 30 (6) : 707-716, 2011)

野際陽子, 平澤勉:「うつ病復職支援デイケアの早期介入で大切なこと」

(障害者職業センター職リハ研究会発表論文集 (第19回) : 283-286, 2011)

平澤勉, 野際陽子:「入院うつ病患者に対する作業療法の効果」

(作業療法 32 (6) : 536-546, 2013)

【学会発表】

平澤勉, 野際陽子:「うつ病復職デイケア利用者を対象とした気分と疲労の傾向について」第44回日本作業療法学会 (2010)

野際陽子, 平澤勉:「疲労の回復は、復職支援デイケア利用者の復職を予測するか?」

第7回日本疲労学会 (2011)

平澤勉, 野際陽子:「新しいタイプの多様な精神科患者に対し、気分や不快な思考に治療的効果のある、OTプログラムと作業遂行の質とは?」

第45回日本作業療法学会 (2011)

野際陽子, 平澤勉 : 「うつ病復職デイケア利用早期に何が変化すると復職できるか?」
第 45 回日本作業療法学会 (2011)

野際陽子, 平澤勉 : 「リワークデイケア早期に何が変化すると復職できるのか?」
第 18 回日本産業精神保健学会 (2011)

平澤勉, 野際陽子 : 「うつ病患者は OT の何に満足するのか?」
第 46 回日本作業療法学会 (2012)

野際陽子, 平澤勉 : 「うつ病者の回復段階に合わせた効果的な介入方法について」
第 46 回日本作業療法学会 (2012)

宮田 浩 紀 MIYATA Hironori 助教

所 属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科

担 当 科 目 [リハビリテーション学部 作業療法学科]

職業関連支援、基礎作業、基礎作業実習Ⅰ・Ⅱ、身体障害評価論演習Ⅱ、
日常生活活動分析論演習、日常生活活動支援、作業療法ゼミナールⅠ・Ⅱ、
作業療法研究Ⅲ、作業療法基礎演習、作業療法専門演習、卒業論文、
臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

専 門 分 野 身体障害作業療法 日常生活活動

最 終 学 歴 西九州大学大学院健康福祉学研究科リハビリテーションコース終了

学 位 修士（健康保健学）

職 歴 特別医療法人春回会 長崎北病院 (平成13年4月)
医療法人行晴会 鯉先医院 (平成16年4月)
一般社団法人是真会 長崎リハビリテーション病院 (平成19年12月)
医療法人社団久英会 高良台リハビリテーション病院 (平成24年4月)
九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 助教
(平成28年4月～現在に至る)

教育上の業績 作業療法士養成校の臨床実習生の教育指導 (平成20年～平成24年)

主な研究活動 【学術論文】

○田平隆行 太田保之 上城憲治 植田友貴 宮田浩紀 松尾崇史
長谷川隆史 松坂誠應：
「高次脳機能障害の職業適性能力に関する研究—厚生労働省編—
一般適性検査（事務所用）T版を用いて—」
(日本作業療法学会 16(1) p31-35 2013)

○中野沙織 内山園子 佐藤大介 福山真生 松尾崇史 長谷川隆史
宮田浩紀 田平隆行：
「表情の違いが Go/No-go 課題遂行時の反応時間に及ぼす影響」
(西九州リハビリテーション 7: p11-16 2014)

○佐藤大介 中野沙織 内山園子 福山真生 松尾崇史 長谷川隆史
宮田浩紀 田平隆行：
「外傷性脳損傷による高次脳機能障害者の職業適性能と認知機能との関係」
(西九州リハビリテーション 7: p17-21 2014)

○箴島知佳 石井都萌 土井貴裕 横田浩輝 松尾崇史 長谷川隆史
宮田浩紀 田平隆行：「眼から判断する表情認知の表情特異性に関する研究」
(西九州リハビリテーション 8: p23-27 2015)

【学会発表】

○宮田浩紀 松尾崇史 田平隆行：
「高次脳機能障害者の職業適性能力と前頭前野の活動動態について」
(第47回日本作業療法学会 2013 大阪)

○Hironori Miyata Takashi Matsuo Tatsuhiko Fukahori Kanako Terasaki
Takayuki Tabira : “The vocational aptitude using the General Aptitude
Test Battery in traumatic brain injury with high
brain dysfunction”
(第16回世界作業療法士連盟大会 第48回日本作業療法学会 2014 横浜)

○宮田浩紀 長谷川隆史 松尾崇史 田平隆行：
「疼痛から注意を逸らすことによる認知的効果～痛み関連電位 (Pain related
P250) を用いた研究～」
(第8回作業療法研究学会 2014 名古屋)

○長谷川隆史 宮田浩紀 佐賀里昭 田平隆行：
「実作直後は運動イメージは強化され体性感覚野の入力動態を変化させるか」
(第49回日本理学療法学会 2014 横浜)

○宮田浩紀 長谷川隆史 松尾崇史 田平隆行：「課題に注意を向けることが主
観的痛みと痛み関連電位に及ぼす影響」
(第49回日本作業療法学会 2015 神戸)

○Takayuki Tabira, Takashi Matsuo, Akira Sagari, Naoki Iso &Hironori
Miyata : “Cognitive Effect of Diverting Attention From Pain Using
Self-Select Interest and No-Interest Tasks.”
(6th Asia Pacific Occupational Therapy Congress 2015 New Zealand)

主な社会活動

- ・第42回 日本作業療法学会 運営スタッフ (平成20年)
- ・脳外傷プラム長崎・佐賀・福岡 研修キャンプ (平成22年～)
- ・認知症介護予防事業講師養成講座研修会 (平成24年～平成25年)
- ・第18回 長崎県作業療法学会 演題採択委員長 (平成23年)
- ・楽しく食べて健口教室 (平成24年～平成26年)
- ・おたっしや出張講座 (平成25年～平成27年)

所属学会 日本作業療法士協会
福岡県作業療法士会
日本作業療法研究学会

安永正則 YASUNAGA Masanori 助手

所属 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科
担当科目 講義補助：精神医学Ⅰ、一般臨床学、障害支援工学、高齢期障害学演習
臨床心理学、神経内科学
専門分野 特別支援教育、発達性協調運動障害、保護者支援、神経発達障害
最終学歴 山口県立大学 大学院 健康福祉学 修了 (平成 25 年 3 月)
学位 修士 (健康福祉学)
職歴 明昌会 福田病院 (副主任) (平成 15 年 4 月～平成 19 年 10 月)
岩国市医療センター医師会病院 療育センター (主任)
(平成 20 年 4 月～平成 27 年 3 月)
九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 作業療法学科 助手
(平成 27 年 4 月～現在に至る)

教育上の業績 ○作業療法士養成校の学生に対する臨床実習指導 (平成 17～平成 25 年)

主な研究活動 【学術論文】

○山下稔也, 安永正則, 他:「生態学的視覚論から見た発達障害の理解」
(山口県立大学大学院論集 (2012))

○安永正則, 久野真也:

「神経発達障害を有する子どもの不器用さと自己肯定感の関連」 (2015)

【学会発表】

○安永正則, 救仁郷利依, 奈須泰子, 他:

「子どもの特性を理解する」

第 28 回九州理学療法士・作業療法士合同学会 佐賀市文化会館(2006.11)

○安永正則, 救仁郷利依, 太田篤志:

「普通小学校との連携について」

第 41 回日本作業療法学会 鹿児島市 (2007.6.22)

○安永正則, 他救仁郷利依:

「発達障害を持つ子どもの評価、支援」

第 25 回日本感覚統合学会 大阪市 (2007.10.20～22)

○安永正則, 救仁郷利依:

「軽度発達障害を持つ子どもの支援」

第 29 回九州理学療法士・作業療法士合同学会 鹿児島市 (2007.11.17)

○安永正則, 指山櫻:

「衝動性を主訴に来院した子どもに対するアプローチ」

第 26 回日本感覚統合学会 大分市 (2008.11)

○安永正則, 指山櫻, 立山清美 :

「特性の異なる学童の小集団における作業療法」
第 43 回日本作業療法学会 郡山市(2009.6.19~21)

○安永正則, 指山櫻, 笹田哲 :

「地域の小学校との連携について何を行うか」
第 44 回 日本作業療法学会 仙台市 (2010.6.11~13)

○安永正則, 指山櫻, 笹田哲 :

「地域の幼稚園に対する作業療法士の役割について」
第 45 回日本作業療法学会 大宮市 (2011.6.24~26)

○安永正則, 指山櫻, 林 隆 :

「初期対応に着目した岩国市療育センターの実態調査」
第 46 回日本作業療法学会 宮崎市 (2012.6.15~17)

○安永正則, 指山櫻, 山下稔哉, 林 隆, :

「初期対応に着目した岩国市療育センターの実態調査」
第 24 回日本 LD 学会 仙台市 (2012.10.6~8)

○安永正則, 指山櫻, 山下稔哉:

「専門職種による発達障害に対するイメージの差異について」
第 47 回日本作業療法学会 大阪市 (2013.6.28~30)

○安永正則, 宮口英樹, 岩永竜一郎 :

「子どもの運動能力の作業療法士 (OT) による評価と対象児自身による主観的
評価のズレについて」
第 31 回日本感覚統合学会 八王子市 (2013.12.7~8)

○Masanori Yasunaga, Hideki Miyaguchi, Ryoichirou Iwanaga,
Takashi Hayashi, Toshiya Yamashita :

“Discrepancies between objective assessment by OT and subjective
self-evaluation by children on the childrens athletic fluency. “
16th International Congress of the World Federation of Occupational
Therapists&48th Japanese Occupational Therapy Congress 2014

○安永正則, 岩永竜一郎, 石附智奈美, 宮口英樹 :

「神経発達障害を有する子どもの不器用さと自己肯定感の関連」
第 24 回日本 LD 学会 福岡市 (2014.10.11~12)

主な社会活動	・大隅療育ネットワーク (軽度発達障害について) 講師 (平成 16 年)
	・鹿屋特別支援学校 (感覚統合について) 講師 (平成 17 年)
	・鹿屋小学校 (発達障害を持つ子どもたちの支援) 講師 (平成 19 年)
	・鹿屋小学校 (発達障害を持つ子どもたちの支援) 講師 (平成 19 年)
	・鹿屋寿北小学校 (発達障害について) 講師 (平成 19 年)
	・西原台小学校 (特別支援教育について) 講師 (平成 19 年)
	・岩国市私立幼稚園協会教職員研修 (子どもたちの明るい未来のために) 講師 (平成 19 年)
	・岩国市・和木町小学校研究特別支援教育部会・研修会職員研修 (子どもたちの明るい未来のために) 講師 (平成 20 年)
	・周防大島町幼稚園職員研修 (感覚統合について) 講師 (平成 21 年)

- ・岩国特別支援学校夏季休業中校内研修
（療育センターの活動と実際の指導） 講師 (平成 22 年)
- ・発達支援指導者研修会（気になる子の保護者支援） 講師 (平成 24 年)
- ・山口県私立幼稚園協会 パネル講師 (平成 24 年)
- ・山口県特別支援学校 職員研修（脳性まひ） 講師 (平成 24 年)
- ・愛宕小学校（発達障害の理解と支援） 講師 (平成 25 年)
- ・岩国市市内高校向け（発達障害の理解と支援） 講師 (平成 25 年)
- ・ファミリーサポートセンター 夏季研修（発達障害の理解の理解について） 講師
(平成 26 年)
- ・岩国市発達支援全体会議委員 (平成 23 年～平成 26 年)
- ・岩国市連携協議会委員 (平成 23 年～26 年)
- ・作業療法士協会学会演題査読委員 (平成 26 年～)

所 属 学 会 一般社団法人日本作業療法士協会（認定作業療法士）
 一般社団法人日本 LD 学会
 日本感覚統合学会
